



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
所報 No.407  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成18年4月28日  
題字 白石 聰 教育長

撮影：泉西幼稚園副園長 酒巻美保 先生



きれいな花  
見つけた！

『自然に学ぶ』

## 雉の子育て

土岐市教育研究所長 楓 正敏

毎朝、目がさめると雉の鳴き声が聞こえてきます。我が家の周りには数年前から雉の親子が住み着いています。正確にいうと、はじめは親鳥だけだったのですが、昨年の秋頃から2羽のかわいい子どもが加わりました。私たちが子どもの頃には雉は山にいるものと決まっていたのですが、雉の放鳥が行われている成果なのか民家の近くでも見られるようになってきました。休耕田が増え、雉にとっては住みやすい環境になったからかも知れません。

雉の子どもは親鳥の近くにいて田んぼに落ちている笏や生い茂っている草の種をついばんでいます。親鳥はあたりを警戒しながら子育てをしているようです。よく観察していると、親鳥は時々子どもをしつけていると思われる行動が見られます。親鳥が子どもの首(後頭部)を噛むようにしているのです。おそらく『してはいけないこと』を教えているのではないかと思います。

す。食べてはいけない植物なのか、してはいけない行動なのかは分かりませんが「いけません！」と強く叱っているように思えてなりません。

私たちも学校教育の中で『してはいけないこと』の指導を行うとき、例えば人権を侵害するような言動については厳しく叱ることが必要です。先生方は年度始めのこの時期、基本的な生活習慣の定着や学業指導に力を入れて指導しておられることと思います。集団活動をする上で『するとよいこと』の指導は子どもたちに目標を持たせ、それに向かう努力をさせ、褒めることで効果があがります。今年度の土岐市の教育方針は子どもと授業を大切にし……です。いずれの指導も担任教師の思いが子どもたちの心に響くようにするためには、何よりも目の前の子どもたちに深い愛情を持って指導にあたることが不可欠です。

## 自治体教育の推進について

教育長 白石 聡

今年は、犠牲者の数が戦後二番目となるほどの豪雪を記録し、桜の開花も遅く、入学式を過ぎてもまだ桜が咲いておりますが、先月には土岐市教育行政に燦然と輝く大きな足跡を残されました元教育長の小林健先生がご逝去されました。

ご葬儀に参列させて頂きましたが、改めて先生の業績の数々に感服するとともに巨星落ちるの感を抱きました。

先生は、ご退任後も本市の教育について心を砕いて戴きました。又、先生がお書きになられた図書を戴いたり、お声も掛けていただいたりしました。

今は、唯々ご冥福をお祈りしています。

さて近年、地方分権改革の流れの中で、教育についても地方分権が議論されておりますが、これは、これまで国から県そして市町村と進められて来ました教育を、今後は、国がナショナル・スタンダードを設定し、県は県内における広域調整を行い、市町村は義務教育の実施主体となって教育を推進するというものです。

こうした流れを受けて、岐阜県教育委員会が推進をしようとしている自治体教育とは、県全体の教育水準を一層向上させるために、子どもたちや保護者、地域住民により身近な県や市町村が、これまで以上に自らの責任と権限において主体的に教育行政に取り組んで行くための体制づくりであります。

市町村や学校に権限と責任が与えられるということは、取り分け教育現場において明確なビジョンを持って教育にあたるということでもあります。

勿論、市教委は学校を積極的に支援するための財政的な支援や制度的支援、施設整備等

の他に、より明確でより具体的な本市の教育方針の策定について、多くの市民の理解を得る必要があると思います。

そして、学校においては、一人一人の児童生徒の才能を伸ばし、安心して通うことができる信頼される学校づくりや確かな学力の育成が求められます。

それには、家庭や地域社会との連携が必要であり、学校が明確な目標を定め、児童生徒の指導方針を具体化し、そして評価の明確化をすることにより学校の信頼を一つずつ確実に積み重ねて行くことではないかと思えます。

そのために、学校に学校評議員とか学校運営協議会(コミュニティ・スクール)などが設置されることとなりますが、どれを設置するかは学校の裁量となります。

どの方式も程度の差はありますが、学校と地域、保護者が一体となって学校を運営して行くためのものであり、校長は企業における社長と同様に学校経営に対する責任を果たすためのビジョンとリーダーシップが求められますが、それには予算と人事権をどう校長に付与して行くかが今後の課題となってきます。

何れにしましても、今後、市教委や学校の主体性が強く求められることとなりますので、国や県に依存する体質からの脱却を早急に意識改革する必要があると思います。保護者や地域住民が願っている教育のあり方(方向性)を正確に把握し、学校と連携して、これをどう具体化し、本市の特色ある教育或いは各校の特色ある学校づくりとして行くかが、今、求められているのではないかと思います。つつ年度始めのご挨拶とさせて頂き戴きます。

## 魅力ある学校は、魅力ある教師から

「先生の匂い」のする先生に

土岐市小中学校長会長 増田 章

麗らかな春の昼休み。校庭の桜を子どもと一緒に眺めていると、一人の子が走り寄り、

「私たちの先生ネ、桜のように美しいよ。それに先生の匂いがするよ」

とボツリ。

他愛もない一言であるが、桜のように美しい先生とは、一体誰なのか？という興味は勿論、それ以上に、子どもの発した『先生の匂い』という言葉、鋭い捉えにいろいろと考えさせられる。

.....

今日の教育を取り巻く情勢は、依然として厳しい。まだ、改革の矢が飛び交っている。そして、学校や教師の在り方や資質が、今まで以上に厳しく問われる時代となっている。しかし、学校教育は社会がどのように変化・進展しようとも、心と心、魂と魂の触れ合いが中核になることには変わりはないはずである。そのために、教師自身が子どもたちにとっても保護者にとっても、魅力的な存在でなければならない。魅力ある教師をめざし、次の2つを重視したい。

<その1> 教え・育て・鍛えて なんぼの世界

学校教育の中核は、授業である。一時間一時間の授業の中で、一人一人が存在感と成就感を味わう授業をめざさねばならない。どう課題を捉え、その課題に対して自分としてどのように立ち向かうのか。まさに人生の縮図であり、教材をかりて自らの生き方を強くしていく時間が授業であるはずである。基礎基本を明確にし、一人一人の魂に揺さぶりをかけながら、学ぶ心、挑戦する心を育て鍛える教師でありたい。そして、

- ・ 質の高いものを求め鍛え合うことへの誇り
- ・ 自分が大切にされていることがわかる喜び

・ やることの価値がわかって精一杯流す汗で満ち溢れる学校をめざしたい。

<その2> Flexible と Interactive 礼て、Creative 社会はどんどん変化している。今までの学校や教師の甘えが許されない。自分が今まで学んできたことのみで教育がカバ - 出来ない時代となっていることを認識したい。

・ 固い頭では嫌われ、通用しないことの自覚を  
—— 目の前の子どもや社会の動きに合わせ、より柔軟性のあるしなやかさを持ちたい。

・ 何でも学校からという一方通行の姿勢の改善を  
—— 発信と享受、双方向、相互作用から新たな創造性を生み出す生き方をしたい。

・ 何でも昨年と同じという姿勢から脱皮を  
—— 現状に満足せず、半歩前進しながら、自分らしさを発揮する生き方をしたい。

学校という枠の中で保護され、どっぷりと浸り安住していた時代は終わった。心を開き・心を通わせ・心をつなぎながら、自らの体質を改善しなければならない。

.....

桜が散った数日後。あの子どもたちが「私たちの先生ネ」と言いながら、再び語りかけてきた。「私のことをよく知っているよ」(安心・信頼)「授業が楽しい、よくわかるよ」(指導力)「何でもよく聴いてくれるよ」(受容・共感)「私たちのために、すごいよ」(情熱・奉仕)等々。安っぽい香水の匂いではない、プロの教師としての匂いを感じてくれているようだ。うれしい。素直に喜び、励みにしたい。

平成 18 年度

## 「土岐市 幼稚園、小・中学校教育の方針と重点」解説

### 策定における主なポイント

#### 第四次土岐市総合計画から第五次土岐市総合計画へ

～「緑」は土岐市の豊かな自然の象徴です。つくることから鑑賞、体験まで陶磁器産業・文化・観光の幅広い象徴が「陶芸」です。さらに「先端技術」は土岐市の持つ新たな、大いなる可能性の象徴です。

「緑」「陶芸」「先端技術」は、土岐市の魅力であり、対外的に強く訴えかける重要な交流財産といえます。今後は、恵まれた自然を大切に守りながら、伝統と先端技術を両輪とした活力あるまちづくりを進め、子どもから高齢者まで土岐市に住む一人ひとりが、元気で、豊かさやうるおい、安らかさやゆとりを実感できる快適なまちを、みんなで協力し、助けあって築き上げていくことをめざします。（抜粋）～

#### 6つの基本目標

参画～自立と協働のまち～

活力～元気を生み出すまち～

育成～**豊かな心を育むまち**～

安心～みんなの笑顔が輝くまち～

安全～潤いと安らぎのあるまち～

創出～ゆとりを実感できるまち～

～「地域で人を育て、人が地域を育てる」という理念に基づき、未来を担う子どもたちがたくましく生きる力を身につけ、健やかに成長する姿を市民が実感できる地域づくりを進めます。～

#### 2 学校教育の充実

- (1) 地域と一体となった学校教育の推進
- (2) 学習環境、指導体制の充実
- (3) 学校施設の整備・充実
- (4) 幼児教育の充実

### 「教育方針」及び「教育課題」は前年度を踏襲します！

#### 教育方針

『子どもと授業を大切にし、「生きる力」をはぐくむ』（小・中学校）

『子どもと保育を大切にし、「生きる力」の基礎をはぐくむ』（幼稚園）

#### 教育課題

『学ぶ楽しさのある授業』（小・中学校）

『夢中になって遊ぶ保育』（幼稚園）

「子どもと授業（保育）を大切にする」ことは、土岐市の教育が、長年にわたって非常に大切にしてきたことです。私たちは、子ども達の実態を的確に把握し、常に授業（保育）の改善に努める使命があります。

各学校、園ごとのこれまでの取り組みの様子や評価から、学ぶ楽しさを味わう姿や夢中になって遊ぶ姿がかなり具現されてきたことを実感しています。さらに質を高めていきたい、平成 18 年度です。

# 授業、保育を真に大切にした『指導』の改善を！

## 小・中学校教育

各学校の授業の様子や評価の結果から、以下の点について、重点化が必要であると考えています。

### 【教科指導】

「主体的に学ぶ力」をさらに確かなものにする。

「個の学習状況に応じたきめ細かな指導の充実」のために、常に授業改善を図る。そして「基礎的・基本的な内容の確実な定着」を具現する。

指導の基盤として「指導目標と評価規準の明確化」を確実にやっていく。

「学習集団の質を高める」工夫をする。

### 【特別活動】

「学級経営」の充実

### 【生徒指導】

問題行動や不登校問題に対する危機意識、共通理解、「早期対応」を大切にす。

### 【進路指導】

「発達段階に応じた」キャリア教育の推進

### 【特別支援教育】

個に応じた「指導内容や指導方法、評価」の工夫

## 幼稚園教育

各園の授業の様子や評価の結果から、以下の点について、重点化が必要であると考えています。

発達や「学びの連続性」を十分考慮して指導にあたる。

### 【人間関係】

「教師と幼児、幼児相互のかかわりを通して、人とかかわる力を養う」ことを特に大切にす。

## 研究委託

### 生徒指導

- ・生徒指導トライアングル活動推進事業
  - 不登校対策
  - ・スクーリング・サポート・ネットワーク整備（SSN）事業
  - ・心のサポーター設置推進事業
- ### 幼児教育
- ・親の子育て力向上推進事業

## 研修の支援

### 教師の主体的な研修を支援する事業

- ・マイプラン研修
  - ・サマーセミナー
- ### 学校の研修を支援する事業
- ・専任講師派遣、研修訪問 等
- ### 経験や職能に応じた研修を支援する事業
- ・初任者、2年目研修 各種主任研修会 等

## 教育相談

### 教育相談体制の充実

- ・小・中学校教育相談員派遣
- ・学校内適応指導教室相談員派遣
- ・スクールカウンセラー等設置
- ・土岐市教育相談適応指導教室 <浅野教室>の機能の充実 等

## 「方針と重点」の具現をめざすための主な支援、事業等

### 活動の支援

#### 児童生徒の活動を支援する事業

- ・キャリア教育推進事業
- ・特色ある活動づくり 学校提案型補助金
- ・小・中学生国際交流事業 等
- ・科学作品、発明工夫、美術展 等

#### 教育活動を支援する派遣事業

- ・きめ細かな学校支援事業
- ・外国人児童生徒学校適応支援事業 等

### 研究指定

#### 市指定

- ・教育課題研究推進指定校  
土岐津小学校 駄知中学校（発表）  
鶴里小学校 濃南中学校（中間）

#### 東教推指定

- ・中学校研究発表会・実践交流会  
泉中学校
  - ・「学級経営」研究指定校 泉小学校
- #### 三研究員会
- ・嘱託研修員会、所員会、学力対策委員会

# 不登校対策の拠点としての役割を果たしたい！ 土岐市教育相談適応指導教室〈浅野教室〉

平成18年3月には、浅野教室に通所を申請し、許可されて通所していた児童生徒が12名いました。全員中学生で、内訳は3年生が8名、2年生が3名、1年生が1名でした。

3年生の8名は全員が進学希望で、浅野教室に通所したときはできる限り規則正しい時間割で学習に向かっていました。それぞれの学校の校長先生や担当の先生、担任の先生、相談員の方々が、浅野教室へ足を運んでくださり、進路情報を本人に与えたり、励ましたりしていただきました。こうした浅野教室と中学校の円滑な連携が功を奏し、また本人の地道な努力もあいまって、8人の3年生は全員進学をすることができました。……

通称「浅野教室」は、正式名称を「土岐市教育相談適応指導教室」と呼びます。それは以下のような土岐市教育委員会規則に定められています。

『土岐市教育相談適応指導教室設置規則』より  
(設置)

第1条 通常の学校生活に適応することが困難で、不登校傾向にある土岐市立小学校及び中学校の児童生徒（以下「児童生徒」という。）及びその保護者に対して、教育相談及び適応指導を行うことにより在籍する学校への復帰を図るため、土岐市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の事務局の内部組織として、土岐市教育相談適応指導教室（以下「教育相談室」という。）を設置する。

(位置)

第2条 教育相談室の位置は、土岐市肥田町浅野590番地とする。

(事業)

第3条 教育相談室は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 児童生徒に対する教育相談及び適応指導に関すること。
- (2) 児童生徒の保護者に対する教育相談及び指導助言に関すること。
- (3) その他教育委員会が必要と認めた事業

昨年度、浅野教室は国と県の委託事業であるスクーリング・サポート・ネットワーク整備事業の指定を受けました。この事業をきっかけにして、浅野教室が、本来の設置の目的に立ち返り、土岐市の不登校対策の拠点となることをめざしてきました。

平成18年度も引き続きこの指定を受け、さらに浅野教室の機能を充実させていくとともに、土岐市内小・中学生の不登校を一人でも多く解決できるようにしていきたいと考えています。

## 浅野教室「夜の保護者の会」

本年度も昨年度に引き続き実施します

日時 毎月第2火曜日  
19:00～21:00

場所 浅野教室  
(土岐市肥田町浅野590)

お問い合わせは浅野教室まで  
55-8555  
FAX 55-8555



# スクーリング・サポート・ネットワーク(SSN)事業について

SSN 担当相談員 深萱 柊江

## 昨年度の主な活動内容

### 学校訪問

- ・ 全小中学校への訪問(管理職・相談員・教育相談担当・SC等)
- ・ 不登校児童生徒に対する状況把握、適応指導並びに教育支援について毎月のデータから新たな不登校に関する情報交流のための学校訪問
- ・ 困難な教育相談に対するアドバイスのための学校訪問
- ・ 浅野教室通級者の状況報告や学校の不登校の状況とその支援体制についての(特にひきこもりがちな生徒)学校との連携

### 瑞浪市・多治見市適応指導教室との連携・協力

- ・ 適応指導教室の情報交換・経営内容・支援方法・対応方法の交流
- ・ 体験活動の合同実施 (万博見学(9/21)、アクア・トトぎふ見学(11/25))

### 土岐市「保護者の会」の発足

### 浅野教室運営の工夫

個に応じたプログラムの工夫

スタッフ会議の位置づけ

年間の体験学習の検討(多様性を)

毎月の個人面談の位置づけ

### 教育相談体制の強化

学校の管理職・学校の相談員・教育相談担当者等から、広く親の悩みを拾い上げてのカウンセリングの実施

### 相談員の研修の機会の確保

SCを助言者とし、学校区ごとに少人数での相談員の研修会を年間3回実施

## 成果

- ・ 学校との連携を進めることで親の悩みを共有し、学校復帰への支援ができた。
- ・ 浅野教室へ通所してくる生徒が日に日に元気になり、中学3年生の8名全員が高校へ進学した。
- ・ 整備事業の予算で生徒たちに豊かな体験学習を計画実施できた。
- ・ 不登校児童生徒を抱える保護者が同じ悩みを持つ親同士の関わりを持つ場ができ、少しは保護者も元気になれた。
- ・ 相談員の研修会は、多くの情報交流や的確な助言を得ることで資質の向上を図る機会となり、校内の教育相談活動を進める上で有効にはたらいた。
- ・ 学校との連携強化で教育相談の初期対応がうまく進み不登校傾向を乗り切るケースがあった。

## 課題

- ・ まだまだ家に引きこもっている児童生徒たちを一人でも多く、何らかの歩みができるよう学校・家庭・各機関等と連携して支援を進めたい。
- ・ 積極的な学校訪問・家庭訪問を強化し、情報の共有化を図り、支援や指導の方向について連携を図る努力をする。
- ・ 学校復帰の具体的プロセスの追究、探索を進める。
- ・ 「浅野教室」が土岐市全域の「教育支援センター」としてより多くの教育関係者に利用され、活性化するよう努力を続けていきたい。

「心にひびく言葉」

## 写真 = 写心

妻木小学校 高木 敏彦

私は写真撮影を趣味としています。カメラを初めて手にしたのは13歳の頃ですから、すでに40年を経過しました。初めて手にしたのは、父親のお古のハーフカメラでした。

本格的に始めたのは教員になってからです。やっと手に入れた一眼レフカメラを持ち、社会科の教材づくりのために県内を走り回ることが主な使用目的でした。

写真はピントが命です。そしてファインダーを覗いたときに、被写体をどのように切り取るか、4隅に不要なものが入っていないか、とっさに見て取ります。「よし」と判断してシャッターを切ります。露出やシャッタースピードにも気を配りますが、被写体によって気の配り方は変わります。わずかな時間にこれだけを的確に判断するのは至難です。今もって思うようにはいきません。

数年前からプロカメラマンの指導を受けるようになりました。私の師匠は「写真は撮った人の心を表すものだ」が口癖で、私はこれにいたく心酔しています。彼は撮影者の心が映っていない写真を引き伸ばすことを許しません。もちろんトリミングも許しません。「どこを撮りたいと思ってシャッターを切ったのか」と、私に問うのです。

「写真=写心」の所以です。

当然ながら、彼は私の職業を知っています。「そんないい加減な気持ちで子どもの心を見ているのか」と問われているようで、心に響くのです。子どもにピントを合わせて見ているか、子どもの心の4隅まで見ているか、と問われているように思えて仕方ありません。

仕事を忘れて楽しむはずの趣味が、いつの間にか仕事に結びついてしまっています。

## 本年度もよろしくお祈いします

### 【教育研究所】

(前列右より)

所 長 楓 正敏

主 任 橋本 勇治

(後列右より)

事 務 酒井美智子

指導主事 三宅 裕一

長期研修員 熊崎 克朗



### 【浅野教室】



(左より)

管理相談員(室長) 尾石 忠正

相 談 員 加藤 弘子

### お世話になりました

指導主事 梅村 利明(神淵中学校へ)



### 【ALT】

(左より)

ジョウゼン・タモリ・ギブソン

ニコル・ニシモト・ミユキ





土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内 281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No. 408  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成18年5月31日  
発行字 白石 聰 教育長

撮影：妻木小学校  
鈴木清人 教頭先生



聴く姿勢づくり  
1 初任者学級の取組 1

『自然に学ぶ』

## も ず 百舌の営巣

土岐市教育研究所長 楓 正敏

昨年度の10月号の巻頭言で登場した百舌の続編です。我が家の近くには相変わらずあの百舌が住み着いています。百舌は猛禽類なのでカエルやトカゲなどを餌にしているのですが、冬の間は小鳥などを狩って餌を確保しています。5月の連休のことです。野外で作業をしていると、百舌がいつも同じ庭木の中に入り込んでいくのに気づきました。そのうち何度かはくちばしに枯れ草をくわえています。

百舌が入り込んでいたイヌツゲの木をそっと覗き込むと、思ったとおり巣がありました。イヌツゲは常緑樹で一年中葉がびっしりと生い茂っています。多少の雨では巣が濡れることはありません。また、すぐ近くにはいつも犬がつかがれているので天敵である猫も近寄りません。百舌の自己防衛の知恵には関心をさせられました。

巣をよく見ると小枝や枯れ草に混じってビニール紐がかなり多く使われています。ビニール紐などのごみがあふれている証拠だと考えざる

を得ません。近頃、国道沿いにゴミが捨てられていたり、山中の道路沿いに古いテレビなどが捨てられていたりするのをよく目にします。子どもの手本である大人たちの規範意識の低さを残念に思うことがよくあります。

市内の学校では、環境教育として『学校版環境ISO』の取組を行っています。ゴミの分別やリサイクル、省エネルギーなどについて、子どもたちが主体的・実践的に取り組み、その成果を家庭でも広げてくれることを願っています。いま、百舌はビニールゴミの巣で卵を温めています。元気な雛が誕生することを合わせて願っています。

(百舌の巣)



## 1 孤 食

私が職員室で園児たちと給食を食べながら「朝ご飯を食べてきた？」と尋ねるとほとんどの子が「食べてきた！」と答える。中には、ジュースだけとか牛乳だけという子もいるが。さらに「誰と一緒に食べたの？」と尋ねると「一人で...」とか「お姉ちゃんと...」と答える子が多い。親と一緒に食べてきた子に「よかったね」と言っていたいが言わないようにしている。

「子どもが親と一緒に食事ができない」ことは園長会でも話題になった。4月の文部科学広報には～「早寝早起き朝ご飯」国民運動～という記事が掲載されていたが、朝ご飯を誰と食べさせるかも考えているだろうか。

## 2 でんぐり返し

しばらく前にテレビで「今の子どもはでんぐり返しができない」と報道された。どこかの大学の先生が5歳児を対象にして調査をした結果だそう。そのできない様子も紹介された。私はできないのは当たり前だと思った。それは言うまでもなく子どもの遊びや家庭での生活様式が変わってきているからだ。

大学の先生が指摘した「でんぐり返しのできない5歳児」というのは現実だろうが、子どもたちはでんぐり返しができなくなったのではない。

私の園でマットを広げておいたら子どもたちはでんぐり返しをし始めた。「両手をマットについておへそを見て転がってごらん」といいながら援助をしてやるとできなかった子もでんぐり返しができるようになった。跳び箱の開脚前跳びだてできるようになった。独楽(こま)でも初め回せなかった子どもが何度も練習を重ねると回せるようになる。

子どもたちは、多くの可能性を持っている。できないことがあるのは、それまでにそうした環境に恵まれなくて経験をしていないだけだと思う。

子どもたちは、できないことに何度も何度も挑戦し、できるようになった時は、自慢げで喜びにあふれた表情を見せてくれる。

## 3 手裏剣

教室に行くと子どもたちの中に折り紙の手裏剣が、できた子とできていない子がいた。できていない子は作り方が途中で分からなくなったようだ。担任一人ではできない子には対応しきれないので、「できた子はできていない子に教えてあげて！」と投げかけると、できている子はできていない子を見つけて教えようとする。5歳児でも教え合いができることを担任は経験上知っている。

さらに、前述のような投げかけでなく「まず自分のグループの子で...」と投げかけると子どもは自分のグループの仲間に関心を持つ。こうした活動が協同性のある活動のスタートである。今、幼稚園でも小中学校の「協同学習」に通ずる「協同性」とか「協同的学び」という用語が使われ、幼稚園児にも協同性のある活動を意図的に設定すれば、協同的学びができるという実践が報告されている。

## 4 幼小の交流～保護者の反応～

保護者の園評価の中に「集団登校をはじめ、5年生との交流やどんど焼きなど学校行事とのつながりは、小学校に行く子たちにとってありがたい」という意見があった。また「5年生との交流はよかった。折角隣にあるのだから日にちを決めて一緒に遊ぶ時があったら、他学年の子とも触れあえてより小学校に対する親しみも沸くのでは...」という意見もあった。

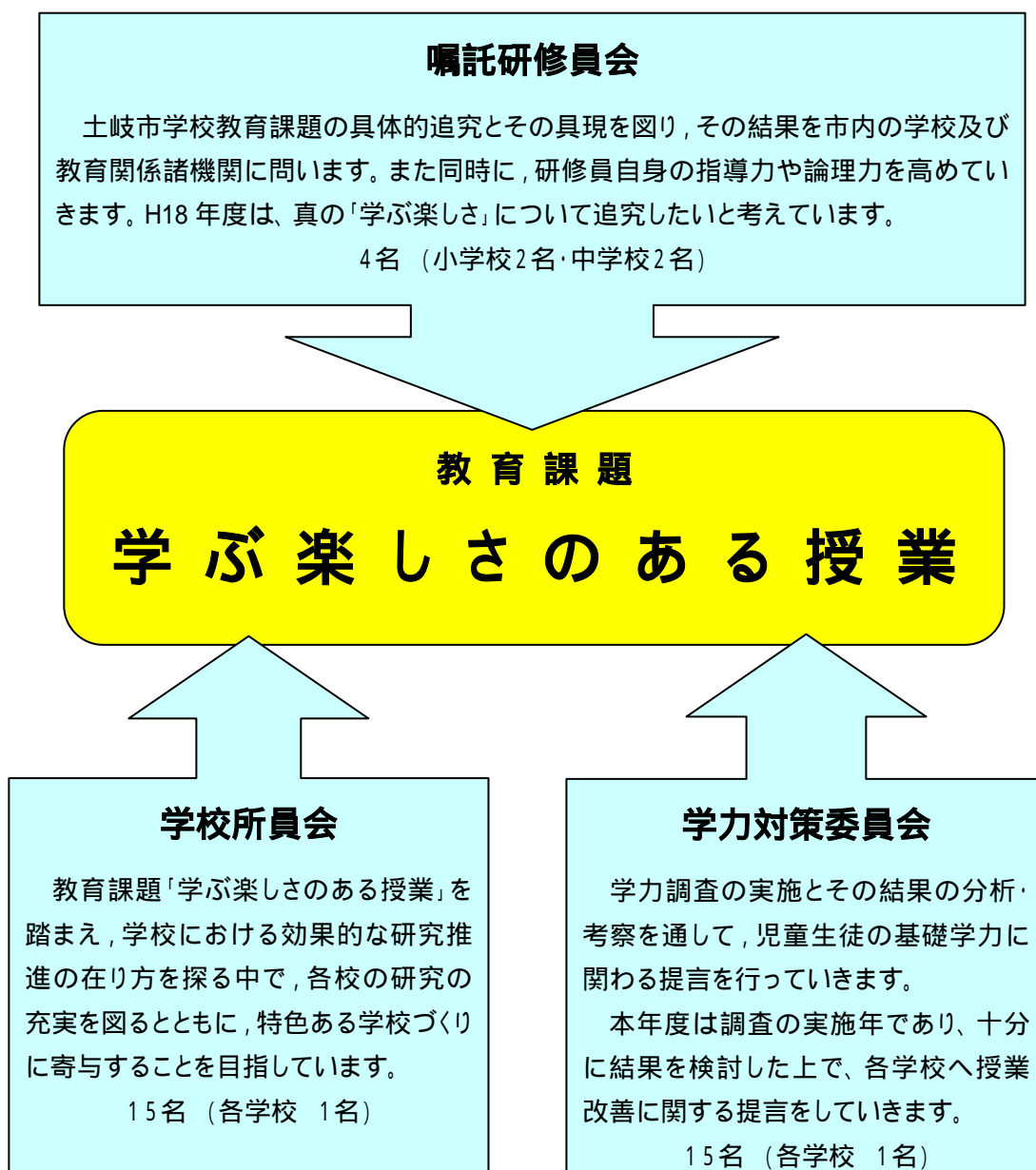
幼稚園は、就学前の園児たちを小学校になめらかに接続する役割を担っている。小学校に幼稚園との交流が位置づけられ、園児が小学生と交流できることはありがたいことだ。

『学ぶ楽しさのある授業』の具現をめざす  
**学校所員会・学力対策委員会・嘱託研修員会**

土岐市教育研究所では、学校所員会・学力対策委員会・嘱託研修員会を独自の研究組織として位置付け、土岐市の教育課題「学ぶ楽しさのある授業」の具現を目指して研究を進めています。

この3つの研究委員会は長い伝統があり、本市の教育推進に大きく寄与しています。教育改革が進められ、教育のしくみや内容が変わる中で、これらの委員会には大きな期待がかけられています。児童生徒に「生きる力」を育むためには、具体的にどんな手立てがあるのか、日々の授業実践を大切にしながら、市内へその成果を広めていきます。

委員会での内容を校内でも話題にし、委員会と校内での研究の深まりが、市の教育課題の追究や研究推進につながることを強く願っています。



# 学校所員会，今年度の活動

## 各校の研究実践の充実

校内研究の充実を通して，学校全体の実践力を高め，  
学ぶ楽しさのある授業をつくり出す

<こんな活動をします>

### 具体的な授業実践を通して校内研究を推進する

- ・研究内容や方法を交流し，願う子どもの姿の具体化を図りながら，授業実践（1人1回の授業公開）を通して，自校の研究の充実を図っていきます。

### 各校の研究の成果を共有する

- ・研究の状況や成果をまとめ，「教育とき」を通して市内の先生方に紹介し，研究の成果を子どもの姿で積極的に広めます。

### 実践力向上のための研修をする

- ・先進的实践校への視察（発表会参加）や教育の今日的課題について研修し，自己の実践力を高めます。

各学校の研究主題

授業改善の視点

### 【成果と課題の明確化】

- ・何をどのように評価するのか？
- ・生まれた姿は？

### 【取り組みの具体化】

- ・何をどんな方法で
- ・手立ては？

### 【願う姿の共有】

- ・具体的にどんな姿を目指すのか？

子どもの姿で成果を示す

土岐津小	「求め合い，鍛え合う子」の育成 ～ 叙述をもとに仲間と共に読み深める物語文の指導～
下石小	「仲間と共に高め合える子」の育成 国語科の学習を通して -
妻木小	仲間と共に読む力をつける ～ 言葉に着目して，文学的文書を読み深めることができる子～
鶴里小	たくましく学ぶ子どもの姿を求めて
曾木小	「伝え合う力」を伸ばす子の育成 ～ 少人数学級の特色生かし，一人一人の子どもの力を伸ばす指導法の工夫～
駄知小	豊かに表現する児童の育成 ～ 書く能力を高める指導を通して～
肥田小	仲間とかかわり合って学ぶ子の育成 ～ 自分の考えや思いを伝え合う指導を通して～
泉小	所属感を高め，仲間関係を育む学級経営
泉西小	子どもが生きる授業 ～ 「話すこと・聞くこと」の力を育てる指導を通して～
土岐津中	学び合いの中で基礎・基本を身につける生徒の育成～ 「共同学習」を取り入れた授業を通して～
西陵中	学ぶ力を育てる ～ 学び方を身につけた生徒を育てるための工夫～
濃南中	生徒が生き生きと取り組み，確かな学力を身につける授業づくり ～ 意欲的に活動する学習の場の設定，小規模校の特徴を生かした授業～
駄知中	仲間と学びを深める授業
肥田中	確かな学力を育てる教科指導のあり方 ～ 生き生きと学ぶ生徒を育てる個への指導・援助の工夫～
泉中	仲間と共に高め合う授業

# 嘱託研修員会

## 『学ぶ楽しさのある授業』の具現をめざして

嘱託研修員会では、土岐市教育課題『学ぶ楽しさのある授業』について、具体的な授業の姿、そのための授業づくりのあり方を研修しています。今年度は、『真の「学ぶ楽しさ」とは』を合い言葉に、日々実践していきたいと考えています。

### 今年度のメンバーです。

駄知小学校  
後藤 淳 教諭  
(理科)



体験や既習内容と事物、現象を結びつけながら、仲間とともに自然のきまりを実感することができる授業

そのために、単元、単位時間の導入を工夫し追究の必然をもたせ、様々な事実を結びつけられるよう学習展開を工夫する。

**事実から正しく判断できる児童に**

泉中学校  
小栗 祥吾 教諭  
(美術)

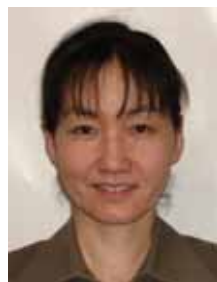


美術を学ぶことの価値を味わい、心揺さぶられるような感動ができる授業

そのために、「わかった」「できた」という成就感、達成感だけを問題とするのではなく、題材との出会い、仲間との練り合い深め合いなど、追求過程での学ぶ喜びを大切にしたい。

**自分の願いや心に浮かんだものを、色や形に表現できる生徒に**

泉小学校  
清本 直子 教諭  
(体育)

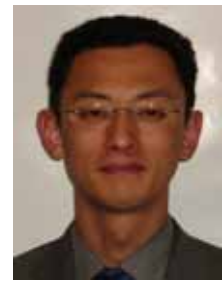


仲間との関わりの中で「できた」「うまくなった」という喜びを味わうことができる授業

そのために、運動習熟のみちすじをわかりやすく提示し、互いに関わり合いながら活動する場を意図的に仕組んだ授業展開を工夫する。

**すすんで運動に取り組むことができる児童に**

肥田中学校  
小久保拓哉 教諭  
(数学)



「より簡単にできないか」「なぜそう言えるのか」「いつでもいえるのか」にこだわる授業

そのために、「これまでに学んだことの中のどんな考え方を(どんなきまりを)使えばいいのか」に立ち戻ることを心がける。

**筋道立てて話ができる生徒に**

『一年間、よろしくお願いします』

## 平成18年度 土岐市小中学校教育研究会の活動

第1回の活動において、各部会のテーマ及び役員が決定されました。授業研究を中心として活動計画が立案されています。役員さんを中心に、主体的・創造的な部会運営を通して、教科の仲間としての連携を深め、研究の歩みや成果を財産として残していきましょう。

### 【研究の視点】

#### 学ぶ楽しさのある授業

- <自ら学び自ら考える力の育成>
- <基礎的・基本的な学習内容の確実な定着のためのきめ細かな指導の充実>
- <聞く、話すなどの学習姿勢や学習の充実に必要な規律の指導>



### 平成18年度 各部会研究テーマ

部 会	研 究 テ ー マ	
教 科 別	小国語	一人一人の言語能力を育てる国語科の授業のあり方
	小社会	調べ考え、練り合い、社会的事象の意味をとらえる社会科学習
	小算数	学ぶ楽しさと充実感を味わう算数教育の創造
	小理科	科学的に追究する喜びを味わい、自然に感動できる理科学習の創造
	小生活	自ら学び、体験を広げ、豊かに生きる力を育む生活科の授業
	小音楽	確かな音楽的能力を身につけ、豊かに表現できる子の育成
	小図工	つくり出す喜びを味わい、確かな力を培う造形活動をめざして
	小家庭	家族とのかかわりの中で、自らの生活を創り出していく力が育つ家庭科学習
	小体育	運動の楽しさや喜びを味わう体育の創造
研 究 会	中国語	明日に生きる言語能力の育成 ～主体的かつ的確に読み取ることができる力を育てる読むことの指導～
	中社会	自主性を育て、思考と認識を深める社会科指導
	中数学	自ら学び考える力を育てる数学教育の創造 ～数学的な見方や考え方を育てる授業づくり～
	中理科	『自然を探究する能力や態度』を育む理科指導の在り方
	中音楽	一人一人の心に豊かな感動を生み出す指導の在り方
	中美術	見たもの、感じたものを色や形にできる生徒の育成 ～一人一人の発想・構想の能力を高める授業の在り方～
	中保体	運動習熟及び社会的発達の効果的な指導のあり方を求めて
	中技家	これからの生活を豊かにする確かな実践力が身につく学習活動
	中英語	一人一人がコミュニケーションする喜びをもてる授業づくり
各 種 研 究 会	道 徳	自らよりよい生き方を求め、実践する児童生徒を育てる道徳教育はどうあるべきか ～一人一人のよさを生かすことを通して～
	特 活	個と集団の結びつきを深め、実践力を育てる特別活動の在り方
	図 書 館	読書の楽しさを広げ、調べる場を目指した図書館運営の在り方
	特 支	豊かな心を持ち、たくましく生きる子を育てる教育
	養 教	児童生徒が自主的に健康管理できる健康教育の在り方 ～性教育をとおして～
	事 務	学校事務職員の資質の向上と事務の合理化～より正確・迅速な事務処理をめざして～

## 平成18年度 各部会 部会長・役員一覧

部会	部会長	学校名	主務者	学校名	世話役	学校名	県代議員	学校名	
小学校 教科 研	国語	高木 敏彦	妻木小	宮本 雅江	妻木小	中谷 敦子	妻木小	宮本 雅江	妻木小
	社会	増田 章	土岐津小	西尾 浩	曾木小	青木 典子 瀨瀬 茂	曾木小 土岐津小	小林 昭	泉西小
	算数	佐々木 博	泉西小	西戸 義正	妻木小	小嶋 啓子	鶴里小	西戸 義正	妻木小
	理科	内藤 哲昭	下石小	水野 和正	鶴里小	後藤 淳	駄知小	水野 和正	鶴里小
	生活	伊藤 敏明	肥田小	水野 秀信	肥田小	永井 明美	土岐津小	永井 明美	土岐津小
	音楽	中山 雄二	鶴里小	土本 弥生	妻木小	小栗 志乃	鶴里小	安藤 律子	泉 小
	図工	下総 平五	曾木小	鈴木 好巳	泉 小	溝口 正子	駄知小	鈴木 好巳	泉 小
	家庭	菅原 由直	駄知小	安藤みどり	肥田小	安藤 克枝	泉 小	成瀬ふく代	土岐津小
	体育	厚見 正紀	泉 小	揖斐 賀浩	土岐津小	清本 直子	泉 小	揖斐 賀浩	土岐津小
中学校 教科 研	国語	山田 利彦	泉 中	西尾 新	泉 中	河合 広映	泉 中	伊藤 瞳	泉 中
	社会	高木 仁	西陵中	仙石 守一	泉 中	大島 亘	西陵中	青木 隆司	駄知中
	数学	子安 秀明	肥田中	小久保拓哉	肥田中	伊藤 洋和	土岐津中	土屋 博巳	土岐津中
	理科	安藤 敏幸	濃南中	三輪 薫	泉 中	塚本 修	土岐津中	三輪 薫	泉 中
	音楽	三輪 敏成	泉 中	菅原 富江	西陵中	菅原 富江	西陵中	島田奈穂子	泉 中
	美術	猪俣 仁志	駄知中	藤本 紀和	西陵中	大橋 高明	土岐津中	小栗 祥吾	泉 中
	保体	中野 克義	西陵中	田口 浩久	土岐津中	西尾 実	西陵中	田口 浩久	土岐津中
	技家	加藤 辰亥	土岐津中	大脇 直仁	土岐津中	田島みどり	西陵中	早瀬 浩孝	駄知中
英語	保母 直彦	駄知中	平林 千聡	濃南中	木股 純子	西陵中	中島 貴子	駄知中	
各種 研	道徳	中山 雄二	鶴里小	堤 真由美	泉 小	加藤 明覚	泉 中	/	
	特活	高木 敏彦	妻木小	加藤 賢吾	肥田中	小木曾寛美	泉 小		
	図書	伊藤 敏明	肥田小	杵渕 容子	肥田中	加藤 直子	泉西小		
	特支	加藤 辰亥	土岐津中	可知井陽子	鶴里小	西川 重信	濃南中		
	養教	山田 利彦	泉 中	鈴木 典子	泉 中	鈴木 典子	泉 中	渡邊 正子	妻木小
	事務	内藤 哲昭	下石小	西尾 治久	下石小	内山 満彦	泉 小	中山 恭子	泉西小

1年間、よろしくお願ひします。

「心にひびく言葉」

## 「素敵なお大人」であるために

肥田小学校 井口 豪

“ I Have A Dream. ” と、キング牧師は人種差別の撤廃と各人種の協和という理想を訴えた。また、“ You may say I'm a dreamer, I hope someday you'll join us. ” と、ジョン・レノンは“ Imagine ”の中で彼の理想とする世界を訴えた。

私たちは、よく「夢」という言葉を口にする。大きな夢を持ち、その実現に向けて今を一生懸命生きることで、喜びや充実感が味わえる。

しかし昨今、フリーターやニートが大きな社会問題となり、「若年無業者」(非就業、非求職、非通学、非家事)が年々増加してきている。理由は様々だが、どうも生きることに夢や希望がもてない若者が増えているようだ。

私たち教師、そして親は、子どもたちに大きな夢を抱かせ、その夢に向かう子どもたちの最大の力強いサポーターである。スポーツや芸術、音楽など、子どもたちの夢の実現に向けて、最大限の協力を惜しまない。

しかし、子どもの夢のサポーターにとどまって

はいないだろうか、自分自身の夢をどこかに忘れて去ってしまっていないだろうか、最近よく思う。毎日の仕事や生活に追われ、いつしか昔思い描いた自分自身の夢をどこかに置き忘れてしまっている「大人」が多いように感じる。

子どもたちにとって最も近い「大人」である私たち教師、そして親が、いつまでも夢を忘れず、目を輝かせて夢を語るとき、夢を追い求めて今を生きているとき、子どもたちにとってはとても「素敵なお大人」に感じるだろう。大人になることに憧れるだろう。今度友と酒を酌み交わすとき、昔のように熱く夢について語り合いたいものだ。

「自分が理想を持たないで、子どもたちに夢が語れるか」 (宮沢賢治『私が先生になったら』より)



## 掲 示 板

第2回 小中学校土岐市教育研究会が行われます。

6月 9日(金) 各種研

下石小...特活 図書館(土岐市図書館) 養教(南消防署)

6月13日(火) 各種研

駄知中...道徳 土岐津小...特別支援(交流) 下石小...事務(講演等)

6月21日(水) 中学校教科研

土岐津中...理科、英語 濃南中...国語 駄知中...技術・家庭 肥田中...数学、保体

泉 中...音楽 社会(妻木公民館) 美術(セラミックパーク MINO)

6月23日(金) 小学校教科研

妻木小...理科 駄知小...音楽 肥田小...国語、算数、生活、家庭(講演等)

泉 小...社会、体育 泉西小...図工

「教育とき」は、単色の印刷物として配布しておりますが、eファクトリの連絡掲示板にカラーで掲載します。(写真などは、ぜひカラーでご覧下さい。カラー印刷をしていただくことも可能です)





土岐市教育研究所  
 TEL 0572-54-1111 (内281)  
 FAX 0572-55-6310  
 メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
 所報 No.409  
 発行責任者 所長 楓 正敏  
 発行日 平成18年6月30日  
 題字 白石 聰 教育長



体験を通して、力を仲間を

3年生 総合体験学習(三輪敏成教頭)

土岐市立泉中学校

1年生 山の体験学習(仙石守一教諭)

2年生 海の体験学習(小林義治教諭)

『自然に学ぶ』

## モズの子育て

土岐市教育研究所長 楓 正敏

先月紹介した、ビニールひもで作られた巣には4個の卵が産みつけられました。親鳥は一時も巣から離れようとはせずしっかりと卵を抱いています。私が1メートルくらいの距離から巣を覗いても、親鳥はこちらを見たまま微動だにしません。

約1ヶ月たった頃、モズが口に何かをくわえて巣のあるつげの木に頻繁に入っていくようになりました。孵化したのです。親鳥は子育てに一生懸命です。始めの頃は、捕らえてきた虫を一旦屋根瓦の上で何回かつついてから巣へ運んでいます。毎日、早朝から当たり前のように行われています。子どものモズは写真のように大きな口をあけて待っています。



昨年6月に『食育基本法』が制定されました。最近、肥満傾向の児童が増加傾向にあることや、偏った栄養摂取、朝食抜きの食生活などが問題になっています。土岐市でも朝食を摂らない児童生徒は昨年度の実態調査によりますと、小学校1%、中学校4%という結果です。子どもたちが将来にわたって健康に生活していくための望ましい食習慣形成のために、学校教育で『食育』を行うことが求められています。

学校給食を生きた教材として活用したり、給食センターに勤務されている学校栄養職員による指導を取り入れたりしながら食育の充実を図らなければなりません。土岐市では学校栄養職員が特別非常勤講師として、学校で子どもたちに指導ができるように体制を整えています。学校を起点に家庭や地域の食習慣が見直されることを期待しています。

## 平成18年度 駄知中学校研究構想

### <学校の教育目標>

鍛えよう 頭 体 心

### <生徒の実態>

- ・課題や活動内容が明確で、適切な目標を設定し、努力する姿やできるようになったことを評価していけば意欲的に取り組む
- ・生徒相互の活動により学習規律が定着しつつあり仲間の考えを聞く姿勢が向上してきた
- ・学習習慣の定着、基礎・基本の定着について個人差が大きい
- ・ねばり強く考え続けることに弱さがみられる
- ・自分の考えをもったり表現したりすることに弱さがみられる

### <土岐市の教育方針・教育課題>

~子どもと授業を大切に『生きる力』をはぐくむ~

#### 教育課題 『学ぶ楽しさのある授業』

- ・主体的に学ぶ力が身につくための、指導方法や評価の改善と個の学習に応じたきめ細かな指導の充
- ・基礎的・基本的な内容の確実な定着のための指導目標と評価規準の明確化
- ・学習集団の質を高めるための、聞く・話すなどの学習姿勢や規律の指導の充実と学習環境の工夫

### <めざす生徒の姿>

- ・自らの課題を持ち、学んだことを生かして精一杯解決しようとする生徒
- ・仲間とのかかわり合いを通して自己の学びを深めていく生徒

### <研究主題>

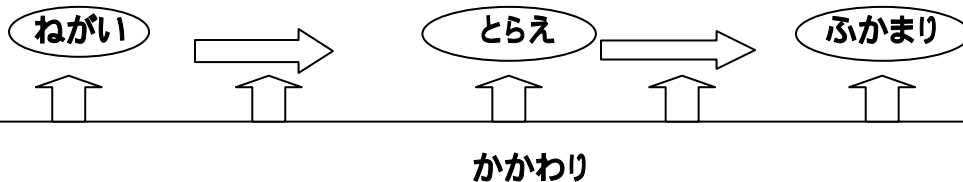
## 仲間と学びを深める授業

### <研究仮説>

生徒一人一人にねがいや課題意識をもてるようにし、課題に正対して取り組む場を保障し、自分の考えや活動を伝え合う場の設定を工夫していけば、基礎・基本を身につけ、個々の生徒がより学びを深めることができる

### <研究内容> 生徒づかみを生かし、本時のねらいを達成するためのかかわりの場を設定した授業づくり

#### 学習過程



#### (1) 生徒に必然性のある課題の設定の工夫

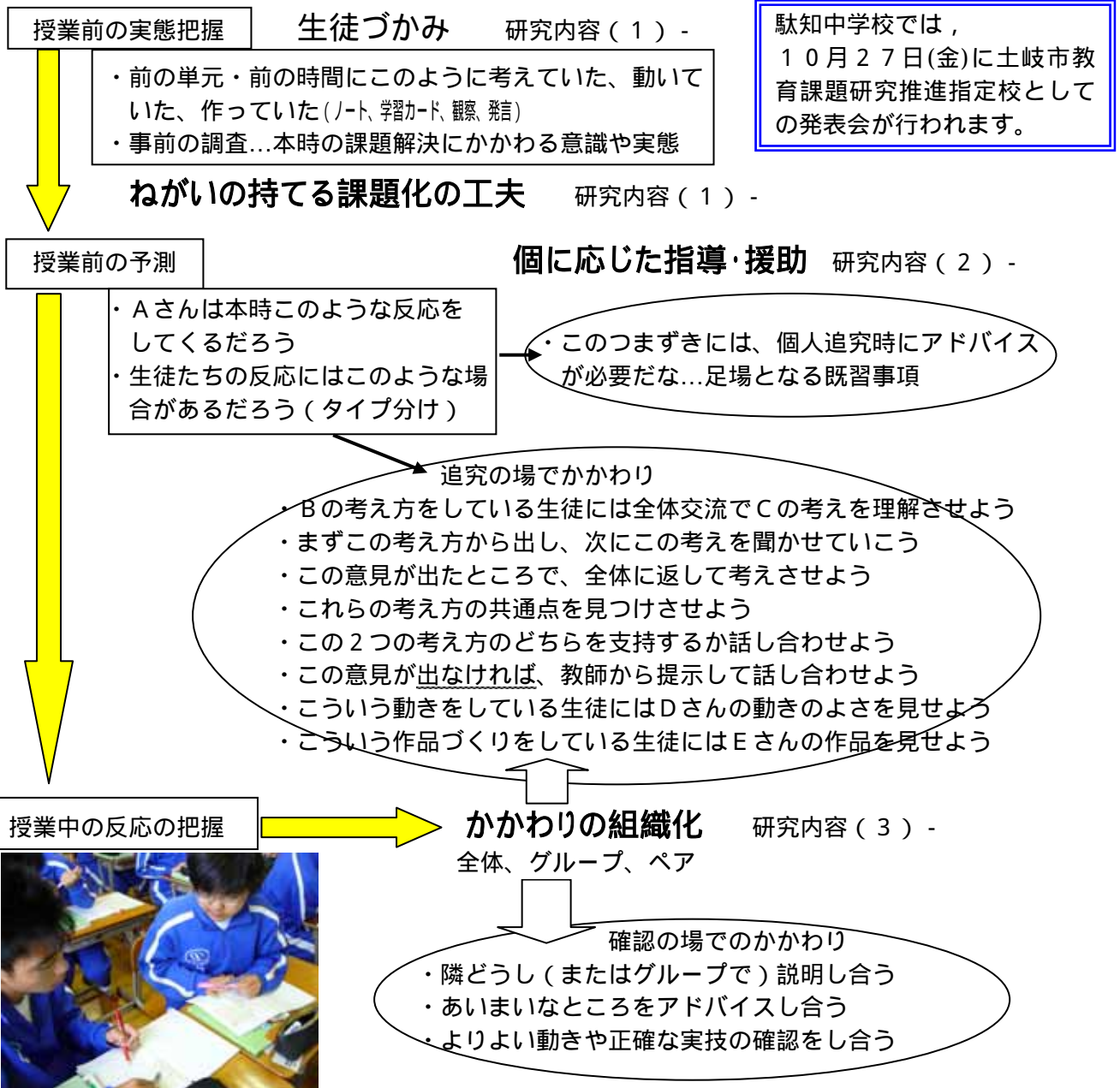
生徒にとって必然性のある課題にするための意識や実態の把握と単元指導計画の作成  
単位時間ごとの素材と課題化の工夫

#### (2) 個人の追究や活動の足場を持たせる指導・援助のあり方

課題に対応する生徒の反応を予測した個に応じた指導・援助

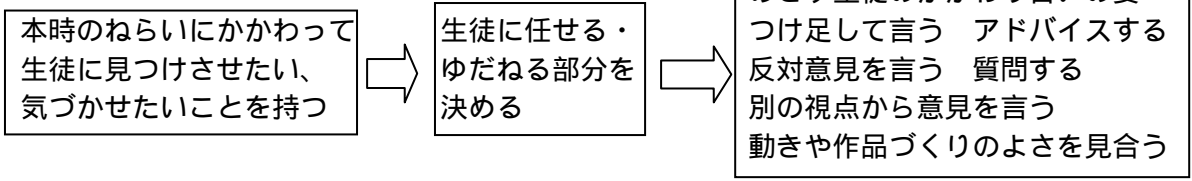
#### (3) 自分の考えや活動を伝え合う場の設定

本時のねらいを達成するためのかかわりの場の設定...かかわりの場とねらい  
かかわりの場における先生の発言や活動の組織化...生徒の反応を生かした学び合いの場づくり  
学習の深まりを自覚できる自己評価のあり方...学習カード・ノートの活用



**追究の場で「かかわりを組織する」とは...**

教師 - 生徒のかかわり → 生徒 - 生徒のかかわりをつくり出す  
 \*このことによって、生徒がより力を高める・より広げる・確かにする



生徒にゆだねる部分に見通しと手だてを持つ → 生徒の試行錯誤を見守る・待つ

- ・到達点は明確にする
- ・そこに向かっていく手だてと向かっていかない場合の手だてを持つ

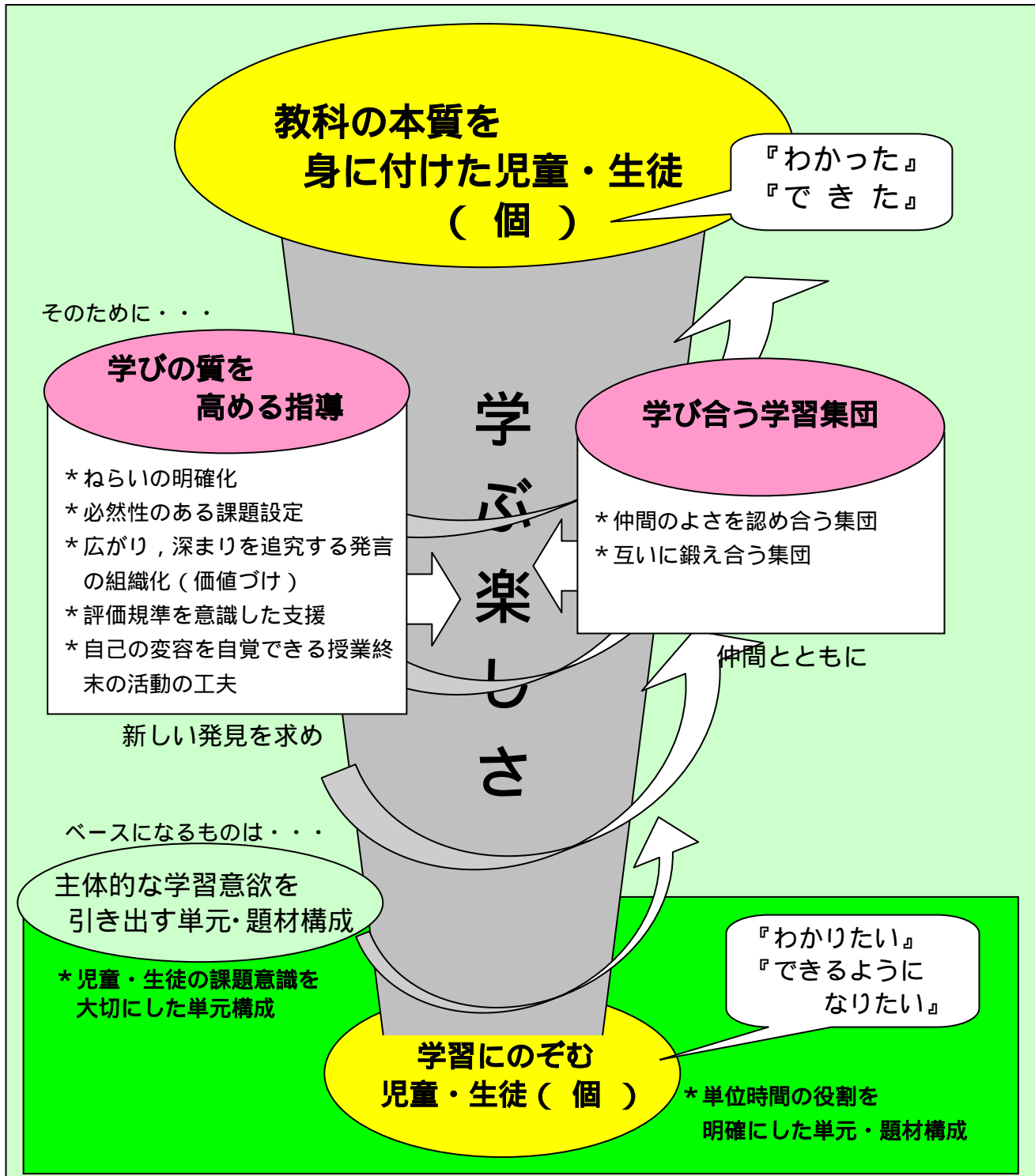
**確認の場で「かかわりを組織する」とは...**

- ・全体で追究したことが本当にわかっているか確認し合う(ペア・グループ)
  - ・こうするとよい、というものになっているかアドバイスし合う(理解 技能・表現)
- \* 体育、技術・家庭科(技能)、音楽、美術、英語は、仲間の動き・作品づくり・コミュニケーションの仕方を見合い、聞き合ってよさを学ぶ

# 「学ぶ楽しさのある授業」を求めて

嘱託研修員会

嘱託研修員会では、真の『学ぶ楽しさ』を目指す授業について語り合い、どんな授業づくりをしていくかをイメージしてみました。



## 今年度の実践計画

7月	泉中学校	小栗 祥吾	教諭	『美術』
10月	駄知小学校	後藤 淳	教諭	『理科』
11月	泉小学校	清本 直子	教諭	『体育』
12月	肥田中学校	小久保拓哉	教諭	『数学』

## 「学び合い」を通して主体的に学習に取り組む生徒の姿について

～生徒による理科教科書作りの活動を通して～  
上越教育大学大学院 神崎 弘範(西陵中籍)

豪雪を乗り越え、2年目の  
研修に取り組んでいます。

はじめに

生徒が主体的に学習に取り組んでいる授業を私たち理科教師はどのようにイメージするのでしょうか？おそらく、事象の中から、自ら問題を見つけ、その問題の解決のために自分(たち)の力で実験方法などを考え、意欲的に問題解決をするといったイメージがあるのではないだろうか？

以下は、授業開始のチャイムが鳴る約4分前から始まったある班(4名)の会話である。

生徒A「B君サッサと実験始めるよ。B君ダッシュ。(教科書の見出しを指差しながら)今日、これやるか？」

生徒C「これ？どうするの？課題は？」

生徒A「課題は、電熱線の発熱とW(ワット)数には、あっ、Wが何か書いとかなあかんやろ。えっと、Wの数には」

生徒B「関係？」

生徒A「そう、Wの数にはどんな関係があるか？」

生徒C「課題をそれに変えるの？」

生徒A「うん、Dさん、書ける？」

生徒D「書けるよ」

生徒A「よし、じゃB君実験器具ダッシュで用意しよう。えっと、電源装置と」

生徒が本時の課題を把握し学習の方向性を定めるこの間、教師は生徒に一切の指示を与えていない。教師がこの班と関わったのは、この会話からおおよそ3分後に「汲み置きの水はどこにありますか？」という生徒の質問に答えたときである。この班では「電熱線の発熱とW数の関係」について、授業時間いっぱいを使って学習を展開していった。

本稿は、「学び合い」を通して表出される、生徒が主体的に学習に取り組む姿について調査した結果の報告をするものである。

学び合いとは

ここで言う「学び合い」とは西川<sup>1)</sup>が主張するように、生徒の有能性を信じ、教師は授業におい

て、主に「目標の設定」と「評価」および「環境の設定」にその役割を負い、学習の大部分を生徒どうしの相互作用に委ねるというものである。

研究方法

(1) 調査の対象・方法

期間：平成17年10月26日～12月2日

対象：西陵中学校2年生の全4学級

方法：ICレコーダーによる会話の記録及び、2台のビデオカメラで授業の様子を記録。適宜、生徒へのインタビュー調査。質問紙法によるアンケート調査を実施。

(2) 調査単位について

本調査は「電流」の単元の「2章 電流のはたらき」で行った。また、授業は筆者(T1)と、通常この学年の授業を担当しているK教諭(T2)によるT・Tで行った。

(3) 活動内容について

生徒には、10時間の時間を与え、この小単元を全て自分たちで学習し、その内容について班(全8班)ごとに1冊の教科書を作るよう指示した。その際、以下の2点を強調した。

- ・ 「誰が読んでもよく分かる教科書」「学習の道具として使いたくなる教科書」を作ること。
  - ・ 学習内容については全員が理解していること。
- また、学習活動は班単位で行うことを原則としているが、生徒どうしが理科室内を自由に移動し、どの仲間と交流してもよいことにしてある。

教師が前で生徒全体に話をするのは最初のガイダンスのみで、残りの時間は、始業の挨拶も無くして生徒たちのペースで行うこととした。

教科書作成に関しては、班に1台のノートPCを用意した。

結果と考察

(1) 「単元全体を生徒に任せることで表出された主体性について」

単元全体を生徒に任せたことで、授業の開始を

そろえる必要がなくなった。その結果、ほぼ全ての時間において、全ての班が始業前に理科室への移動を完了するとともに、学習活動を始めていた。

4学級で、生徒が実際に活動をした時間は延べ43時間(11時間×3学級+10時間×1学級)であった。そのうち、始業前から活動が始まっていた時間は累計38時間(88%)であった。

活動が始まらなかった5時間のうち、4時間は小単元の第1時で各学級にガイダンスをした時間であり、残りの1時間は、生徒に時間割変更がうまく伝わっておらず、理科室への移動が始業後になったことが原因である。これらを考慮すると全ての学級において始業前から、自らの意思で主体的に学習活動を始めていることが分かる。

(2)「教科書作りの活動から表出された生徒の主体性について」

活動の目標として教科書作りを挙げたことにより、生徒には、自分たちが十分に理解した上で、より分かりやすく表現しようとする姿がみられた。教科書の記述をそのまま受け入れるのではなく、自分たちなりの理解をし、それを表現しようとする姿勢に学習に対する主体性が現れている。

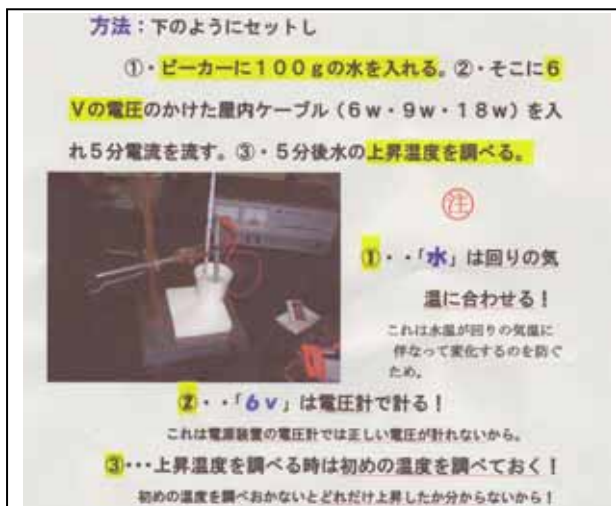


写真1 電力と発熱量に関する生徒作成の教科書

写真1は、電力と発熱量の関係についての実験を行う場面の生徒が作成した教科書である。

何人かの生徒は実際に実験を行う中で、汲み置きの水(室温と同じにしてある水)を使わなかったり、上昇温度を調べるにもかかわらず実験前の水温を計り忘れてたりするといったミスをした。

この自作教科書には、自分たちのミスを元に、水を周りの気温に合わせる。電圧は電源装置のメモリではなく、電圧計を用いて測定する。上昇温度を調べるのだから、始めの温度を記録しておくといった注意事項が記述してある。

実際に学習したことにより知り得た情報を、教科書づくりに反映させている例である。

この例から、生徒は教科書の記述をそのまま受け入れるのではなく、実際に体験したことを生かしながら、学習活動をしている様子が明らかになっている。

生徒の学習内容を理解しようとする姿勢や、理解したことを教科書に表そうとする姿勢に主体性が表出されている。

終わりに

本研究は、学び合いを軸として、生徒に単元の学習の全てを任せるとともに、学習の成果として自作の教科書を作ることを課題とすることで、生徒の主体性の発揮をとらえることを目的として行った。その結果、単元を任された生徒は教師の直接的なかわりがなくても、仲間とかかわりながら、主体的に学習活動を行うことができることが明らかになった。また、教科書作りの活動により、生徒はより分かりやすい教科書を目指して、実際に経験したことや自分たちなりの分かり方を教科書作りに反映させるなど、質の高い学びを展開できることが明らかになった。

生徒の学びを支えたものについてインタビューを随時行った。その結果によれば、生徒は「分からないことをじっくりと友達に聞けること」「自分たちのペースで学習できること」を理由としてあげ、何より「学習することが楽しい」という回答が多くを占めた。

今後生徒の学びを支えたものについての更なる分析を行いたい。

#### 【参考文献】

- 1) 西川純 『「座りなさい」を言わない授業』, 2004, 東洋館出版社. など

# 平成18年度「サマーセミナー」講座一覧です。



	講座名・時間	主 な 内 容	会場
7月25日 火曜日	1 パソコン講座1 9:00~11:30	エクセルの活用(発展)(パソコン講座5と同じ内容) エクセル関数の効率的な使い方を学びます。 講師:外部S E	下石小 P C 室
	7 実践論文講座 9:30~12:00	平成17年度の優秀実践論文の発表と、論文の書き方のポイントについて学びます。 講師:小嶋啓子教諭(鶴里小) 安藤律子教諭(泉小)	プラザ 5 研
	2 パソコン講座2 13:30~16:00	エクセル入門 初歩から始めます。入力から簡単な関数の活用まで学びます。 講師:外部S E	下石小 P C 室
	8 心と体の リフレッシュ教室 <ヨガ> 13:30~16:00	ヨガをとおして、心や体の健康を保つ方法を学びます。 (各自、敷物と上靴を準備ください) 講師:吉川礼子先生(ヨガ指導者)	肥田ライフ パーク (肥田公民館) 大ホール
7月26日 水曜日	3 パソコン講座3 9:00~11:30	ワードとエクセルの活用 差込印刷をマスターします。 講師:外部S E	肥田小 P C 室
	9 各界から学ぶ 9:30~12:00	市内会社経営者等から経営哲学、人材育成、土岐市の教育に期待すること等 講話を聞きます。 講師: 石黒商事社長 石黒信彦 氏	プラザ 5 研
	4 パソコン講座4 13:30~16:00	パワーポイントを使ってプレゼンテーションに挑戦します。 (パソコン講座6と同じ内容) 講師:外部S E	肥田小 P C 室
	10 エクスカーショ ン 13:00~16:00	地域再発見や知的好奇心に満ちた旅,それがエクスカーショ ンです。社会資本 によって整えられた施設等を巡り、こうした施設の社会に対する貢献や役割 について学びます。 講師:現地解説者	土岐津小 よりバス に 乗車
8月3日 木曜日	5 パソコン講座5 9:00~11:30	エクセルの活用(発展) エクセル関数の効率的な使い方を学びます。(パソコン講座1と同じ内容) 講師:外部S E	妻木小 P C 室
	11 あなたにもできる!料理教室 9:30~12:00	料理が苦手な方,ぜひ参加してください。 楽しく,手軽にできる料理を学びましょう。 講師:給食センター学校栄養職員 三輪やよい 先生	泉小 調理室
	12 陶芸教室 13:30~16:00	体験を通して,土岐市の伝統文化を学びます。 参加費 500円が必要です。 講師:創陶園の指導者	創陶園
	13 体を動かして,ス トレス解消! <ジャザサイズ jazzercise> 13:30~16:00	ジャザサイズは世界38カ国に45万人以上の愛好家を持つフィットネスプロ グラムです。年齢に関係なく楽しみながら体力を向上させるジャザサイズで, ストレス解消!日頃の運動不足も解消! (運動ができる上靴と服装,タオルを準備) 講師 石崎和子 先生(ジャザサイズインストラクター)	泉西公民館 ふれあい ホール
8月9日 水曜日	6 パソコン講座6 9:00~11:30	パワーポイントを使ってプレゼンテーションに挑戦します。 (パソコン講座4と同じ内容) 講師:外部S E	妻木小 P C 室
	14 人権同和講座 9:30~12:00	人権同和教育に関する講話を聞きます。 講師:岐阜市人権啓発センター 梅田貴昭 主任	プラザ 5 研
	15 楽しく歌を歌おう 13:30~16:00	歌唱指導について,講話や実技をとおして学びます。 講師:泉小学校附属幼稚園長 三宅敏弘 先生	泉小 風のホール
	16 英語で話そう 13:30~16:00	ALT とともに英語活動に生きる英会話や日常英会話を学びます。 講師:土岐市ALT JOZEN&CONNAN	泉西公民館 研修室

# 忘れられない言葉

泉中学校 山田 利彦

・大村はま(1906--2005) 国語教育実践家  
 平成 16 年 10 月 31 日、「大村はま白寿記念講演会」に参加しました。大村はま先生は車椅子で大きく手を振りながら演壇にあげられました。開口一番「私は今日まで 35,947 日生きてきました」この言葉で我々は一気にお話しに引きずり込まれました。そして「忘れられない言葉とは、今でもその場面が思い浮かべられ、その口調まで再現できるという基準で三つ選んできました」と言われました。99 歳にしてこの鮮明な頭脳に我々は打ちのめされました。

私にとってその基準で選んだ言葉とは、

・野村芳兵衛(1896--1987) 大正自由教育先駆者  
 昭和 54 年私が 32 歳の時、勤務校の校内職員研修会の講師としてお話を聞きました。静かな口調で「子どもが好きでないからと悩む必要はない。子どもを好きになろうと努力する。そういう先生でいい

のだ」と話されました。私は救われた思いがしました。

その後、ある酒の席で先輩から「ええか教育はなほ子どもが先生を好きになることだぞ」と、その場にあったメモ用紙に筆ペンでサラサラと書いてくださいました。そのメモ用紙は自宅の机のビニール敷きに挟んであります。

・倉澤栄吉(1911-- ) 国語教育学者

平成 13 年 8 月 11 日、日本国語教育学会岐阜県支部設立大会の日、記念講演をお頼みしました。先生は演壇のマイクをどけて「マイクの電気信号を通さず空気の振動で直接皆さんに言葉をつたえるのです」その「言葉」に対する気迫に圧倒されました。その年先生は 90 歳になられました。



## 掲 示 板

中体連土岐市大会が7月8日(土)～9日(日)を中心に開催されます。

種 目	日にち	時間	会 場
軟式野球	7月8日(土)～9日(日)	開会式 8:30 試合開始 9:00  セラトピア (卓球) 開会式 9:00	土岐市総合公園球場
ソフトボール	7月 8日(土)		西陵中下グランド
サッカー	7月 9日(日)		土岐市総合公園多目的広場
バスケットボール	7月 9日(日)		泉中学校体育館
バレーボール	男:8日(土) 女:9日(日)		男子:駄知中 女子:肥田中
ソフトテニス	7月 8日(土)		土岐市総合公園テニスコート
卓 球	7月 8日(土)		セラトピア土岐
剣 道	7月 9日(日)		西陵中学校体育館
柔 道	7月 8日(土)午後		泉中学校格技場
水 泳	7月16日(日)午前		泉中学校プール
陸 上	7月 8日(土)		土岐市陸上競技場
体 操	7月 8日(土)午前		泉中学校体育館

中学生が頑張ります。応援お願いします。(雨天で予定が変更になる場合があります)





土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内 281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
所報 No. 410  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成18年7月31日  
題字 白石 聰 教育長

撮影 肥田中学校 小森常弘 教諭



『じゅめんね、おぼあちゃん』(資料名)  
二年生の道徳の授業より

『自然に学ぶ』

## 直接体験の重視

土岐市教育研究所長 楓 正敏

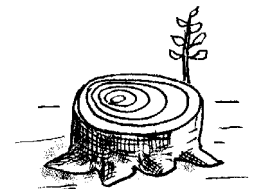
市内のある中学校では、2年生になると御岳登山を行っていました。登山は大変苦しいのですが、それを乗り越えて味わう達成感はとて大きく、教育的意義を感じたものです。

登山は何度か休憩を取りながら頂上を目指します。休憩中はそれぞれ近くの岩の上や木の切り株に腰を下ろし水分の補給などを行います。私の近くにいた生徒が「先生、あっちが北やねえ」と指差しました。その日は天候が悪く、太陽は出ていません。「どうして北だと分かったの?」と聞いてみると、木の切り株の年輪を観察すると分かるということです。日の当たるほうはよく成長するから年輪の間隔が広くて、反対に北側は日が当たらず間隔は狭いと説明してくれました。しかし、方位磁針付きの水筒を持っている子がいて「北はあっちだよ」と、先ほどの生徒が指差した方向とは全く違う方角を指したのです。

年輪を見て方角が分かれると信じていた生徒は、

夏休みの科学研究に『年輪で本当に方角が分かるか?』というテーマで取り組みました。市役所などに問い合わせをして山を切り開いている場所を調べ、夏の炎天下、何百本という年輪を調査しました。結果を分析したところ年輪の間隔の狭いほうが北であるとは言えないことが分かりました。どうやら、木が生えている斜面の傾きに関係していることが明らかになりました。

これまで本当だろうと思っていたことが、実際には違っていたということが結構あるものです。今、夏休みの真っ只中で児童生徒は自分の課題に取り組んでいます。普段では確かめられないことについて、夏休みに実際に体験を伴った探究をして欲しいと願っています。『本当は、そうではないかもしれない』と、疑ってかかることから探究活動が始まります。



# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 泉中学校 小栗 祥吾

## 1. はじめに



土岐市の教育課題「学ぶ楽しさのある授業」を受けて、2年生の美術科において実践を試みることにした。

今日的課題から「生きる力」のある生徒像とは、自ら考える力、判断する力、特に美術では「みたもの、感じたものを色や形に表現する確かな力をもった生徒」である。この「生きる力」を知の側面から支える確かな学力を身に付けさせ、向上させることが、今の美術科、また学校に求められている。

現行の学習指導要領に伴い、週一時間となった美術授業のあり方がより重要であり、その中で「生きる力」をどう育てていくかが、課題となっている。そこで、学習内容の定着を図りながら、知識や技能や経験を生かし、問題を解決させて表現することで、自ら学び、自ら考える力を育てることができると考える。「自ら」という、この主体的な学習への取り組みこそが「生きる力」の素地となり、「学ぶ楽しさ」の原動力になると考える。

## 2. 研究構想

**<研究主題>                      みたものや感じたものを、色や形にできる生徒の育成  
～生徒が生き生きと活動し、学ぶ楽しさを実感できる授業を通して～**

昨年につづき、教師の評価能力や題材開発力を高め、生徒たち一人一人が生き生きと学習に取り組む授業の構築を図り、「具体的にどのような評価をもち、どのような手立てをとり指導すればよいのか」また「学びの高まりをもてるように、どのような場を設定するのが有効か」という、指導技術に関して研究を深めていく必要があると考えた。

それにより生徒たちは学ぶ楽しさや表現する喜びを実感し、主体的に学習する意欲が高まると考え、主題を「みたものや感じたものを、色や形にできる生徒の育成」～生徒が生き生きと活動し、学ぶ楽しさを実感できる授業を通して～とした。

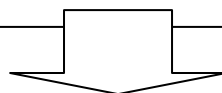
**学びの質を高める指導  
「新しい発見を求め」**

**学び合う学習集団  
「仲間とともに」**

- 研究の基本的な考え方 -

生徒が、「できた」という満足感や「やった」という充実感で表現される「教科の本質」に迫るため、普段の学習において、何を求め何を学ぼうとしているのかを考えた時、上記の2つを大切にしたいと考えた。

1つ目は、美術科では題材の設定が生徒の満足感・充実感に直結すると考える。各領域におけるつけたい力を、どんな題材を採択して設定するかが重要である。またその設定をするとき、「生徒の実態や意識を踏まえた題材の設定」が大切となる。そして、その題材に対しての「ねらいの明確化」「必然性のある課題」「評価規準を意識した支援」を具体的にもちたい。



### 3. 授業実践の構想

今回は、「絵画を味わう」(鑑賞領域)の題材を通して主題に迫ることにした。

現代の情報化社会では、身の回りに様々な美術に関する情報があふれている。その中で、生徒が美術作品を目にする機会はあるが、じっくりと作品を鑑賞し、それによって感動を体験することは少ない。そこで、生徒がより豊かで意欲的な表現活動をするために、美しさやよさを感じる心を育てる鑑賞活動が必要であると考えた。



「山本芳翠浦島図」 明治26-28 122×168 油彩

#### 鑑賞における教科の本質に迫るために

##### つけなければならない力とその手立て

##### 1 能力面 作品の見方や感じ方 よさや美しさを感じ取る力

- ・「個々の生徒の感じ方や見る視点の違い」に気づかせ認める。
- ・視覚的な情報だけでなく、「作品の制作背景を知る」ことができるようにする。
- ・「写実性の高い幻想表現に接する」ことで、より多様な表現から感じる。

##### 2 内容面 美術作品などの表現の意図や方法の理解 美術と人間とのかかわりの理解

- ・「参考資料・作品の意図」から作者の表現意図や作品に込められた思いに迫る。
- ・鑑賞活動の中で「協同学習(バズ学習)」を設定し、お互いの意見を聞くことやその理由などを交流することでより考えを深める。

#### 指導計画(全2時間)

第1次...「興味・関心を高める場」(1時間・本時) 第2次...「多様な表現を理解する場」(1時間)

#### 表現活動とのかかわり

鑑賞することによって表現欲求が沸き起こったり、作者の表現意図と表現方法のかかわりが鮮明に見えてきて、自分の表現に生かせるヒントを得ることができる。  
鑑賞活動の質を高めるために、表現で培われた構想する力や造形的思考力などが必要であり、鑑賞する中から自ずと表現に生かされるよう指導することが大切である。

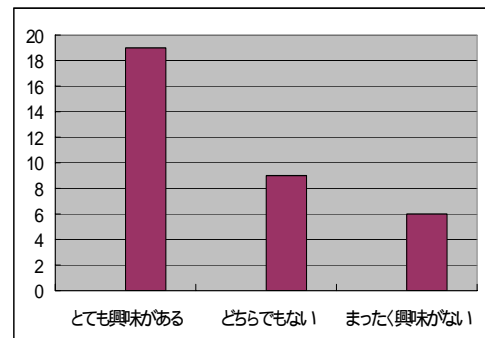
「分かった」「できた」「次も」

#### 題材の設定と生徒の意識

これまでは、誰でも知っている「世界的に有名な作家作品」を設定していたが、今回「地域作家の作品」を設定した。特に「地域作家の作品」については、生徒が作家や作品を身近に感じることができ親しみやすいと考える。また、地域の偉大な文化遺産であり、美の素晴らしさや奥深さを理解でき、感動体験を味わえるという点から鑑賞の本質的な題材に位置する。

そこで、地域作品や作家を意識させるために、実践クラスを対象に、地域作品や作家に対しての「意識調査」を行った。結果は、作品や作家を知ってみたいと興味をもっている生徒が全体の半数以上であり、必然性のある題材になると考える。

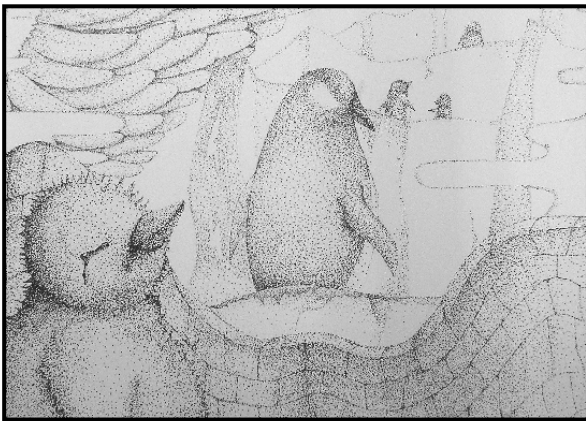
以上の「地域作家の作品」、「生徒の意識調査の実施」から、地元美術館にも所蔵されている身近な地域作家の山本芳翠の作品に着目し、今回鑑賞活動の題材に取り上げた。



#### 鑑賞を重視する意味

美術の作品のよさや美しさに感動して心を豊かなものにする。  
作品と対話を重ね理解することによって多くのものを感受する。  
鑑賞はそれ自体が一つの意味をもつ自立した行為である。表現のための補助的なものではない。  
生涯学習の視点からも重要である。美術教育の重要な基礎であり、独自の学習として充実させる。

「知りたい」「分かりたい」



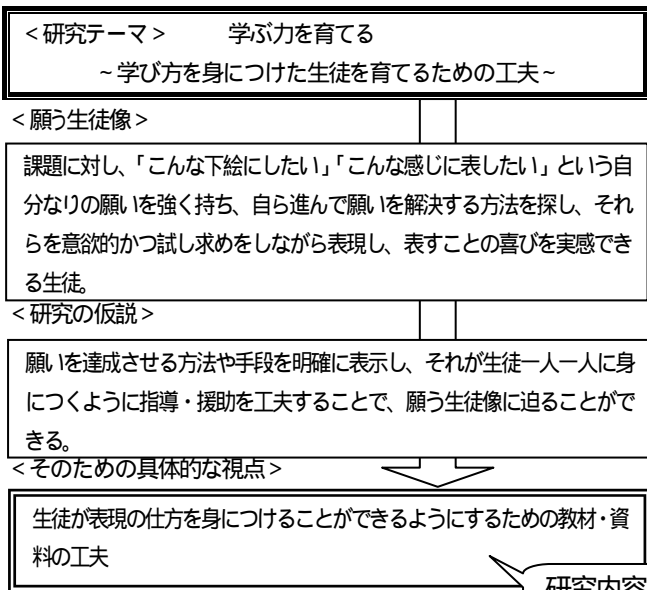
点描『心の風景』生徒作品

はじめに

『心の風景』は、点描を使った空想画である。点描とは特別な技術が必要とし、かつ完成まで時間もかかるが、やり方さえ分かれば描く楽しさを味わえる題材である。全校研究会での授業をもとに、本校での研究実践をまとめてみた。

研究テーマ

本校の18年度の研究テーマを、美術科に当てはめて考えてみた。



研究内容

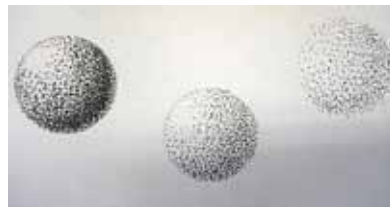
研究内容

学び方とは、美術科で言えば「表現の仕方を学び、自分の作品に生かす工夫をすること」であると考えている。これは、美術科では必須とも言えることである。それがないと、より良い作品は生まれない。しかし、それが生徒にとって必然性があるのかというと、別問題である。生徒に必然性があるとすれば、そこに「願い」がある場合である。つまり教材・資料を提示する際、その内容も大切であるが、提示の仕方にも工夫が必要であると考えている。生徒が願いを持っているような提示の仕方にも工夫をしたい。

(1)教材・資料の工夫について

風景とは空間を描くことである。物の遠近を表現することは、空間を表すために必要な技能である。そこで本時は、遠近感・重さ・

質感の表現の仕方が分かる資料を用意した。点の打ち方(密度など)を変化させることでそれらを表現することができることを、資料からつかませたい。



< 資料 >

3つの球体は、左から順に遠くなっていくように感じる。種明かしは、明度差と輪郭の違いである。下の表はそれをまとめたものである。

	濃さ	輪郭	明度差
遠い	薄い	ぼけている	小さい
近い	濃い	はっきりしている	大きい

遠近感、レオナルド・ダ・ヴィンチが編み出した「大気遠近法」に基づいている。本時取り上げる遠近感の表し方は、数多くある方法の一部でしかない。ただ、生徒一人一人が主体的に制作に取り組んでいくためには、基本的な表し方を理解しておかねばならないと考える。そのため、大気遠近法にしばって指導することにした。

(2)提示の仕方について(生徒にあこがれを持たせるような導入の工夫)

生徒があこがれを持ってそうな作品を導入で鑑賞することにした。遠近法を使って制作された作品で、かつ効果が分かりやすい作品、さらに、美しく丁寧に描き込まれた作品の中から選んだ。同じ中学生が描いた作品を提示することも、生徒の意欲につながるはずである。

成果と課題

< 成果 >

生徒の姿や完成した作品を見ると、本時に使った資料は効果的であったと考える。また作品を提示し鑑賞したことも、生徒の意欲にはつながっていると感じた。

現在は作品を完成させ、題をつけている。生徒の書いたテーマや絵に込められた思いを読んでいると、未来への希望や現在の悩みなどが書かれている。思いや願いを持って制作した生徒が多かったことを考えると、願う生徒像に近づけたのではないかと考える。

< 課題 >

どの生徒にも、概ね十分な技能を身につけることはできたと思うが、生徒が受身であったことは今後の課題である。生徒たちは、教師が教えた技能を使って制作をしたのだが、「こんなふうに表示したい」「そのための方法を知りたい」という願いを持った生徒は多くはなかった。美術科としての『学び方』を、私自身が充分考えていなかったことに原因があると考えている。

美術科としての学び方とは、生徒自身が方法を求めに行く姿であり、そのために教師は生徒がつまづきそうな場面を予想して、適切な資料を用意しておくことであることに気付いた。

願う生徒像に近づけるために、私は全員にある程度の表し方(技能)を身につけさせることが必要であると考えてきたが、今後は生徒自身が表し方を求めに行くような導入や、資料提示の工夫について研究していきたい。

# 中体連の土岐市大会・東濃大会の団体戦の結果

土岐市中学校総合体育大会（団体）結果

種 目		優 勝	準優勝	第 3 位
陸上競技	男子総合	泉	土岐津	濃南
	女子総合	泉	土岐津	駄知
	男女総合	泉	土岐津	濃南
バレーボール	男子	泉	濃南	駄知
	女子	泉	土岐津	肥田・濃南
バスケットボール	男子	泉	土岐津	西陵
	女子	泉	西陵	駄知
ソフトボール		西陵	土岐津	肥田
野 球		西陵	泉	
ソフトテニス	男子	駄知	土岐津	西陵
	女子	泉	西陵	肥田
卓 球	男子	土岐津	西陵	泉
	女子	濃南	泉	駄知
剣 道	男子	泉	西陵	肥田
	女子	泉	西陵	駄知・肥田
水 泳	男子	泉	肥田	土岐津
	女子	泉	駄知	土岐津
サッカー		泉	駄知	肥田
柔 道	男子	駄知	泉	西陵
	女子	泉	駄知	
体 操	男子	泉		
	女子	泉		

東濃地区中学校体育大会の結果

優 勝	準優勝	第 3 位
	泉	
	土岐津	
	泉	土岐津
泉	濃南	
		西陵
		西陵
	駄知	土岐津
土岐津		西陵
	泉	
		泉
泉		
		泉
		駄知
		泉

土岐市大会の団体戦の結果については、3位まで掲載しました。

東濃大会の結果は、土岐市関係の3位までを掲載しました。

印は、県大会出場が決定した種目です。

今年も、各会場で熱戦が繰り広げられました。東濃大会で勝ち抜いたチームが、県大会で頑張っています。さらに、東海大会・全国大会につながるよう頑張ってください。

## 掲 示 板

科学作品展・発明くふう展が、9月9日(土)～10日(日)に行われます。

<お詫びと訂正>

「教育とき」409号で、駄知中学校の土岐市教育課題研究指定校の発表会の日にちを間違えて掲載しました。正しくは、10月27日(金)です。訂正してお詫びします。

## 初心にかえて

駄知中学校 保母 直彦

「子ども理解ができる教師」「子どもの側に立てる教師」に私はなりたいと思い、そういう教師になっているつもりでした。しかし、自分が思うほど実際にはそうでないことの方が多くありました。小学校に勤務しているとき、ある女の子を居残り勉強させました。その子がなかなか割り算の筆算の手順を理解できなかつたからです。授業で考えさせ、そして何回か説明し、これでわからないはずはないという思いこみがありました。説明するに従い、少々腹立たしくなり語気がきつくなりました。ふと顔を見ると目に涙を溜めているではありませんか。それは、わからなくて悔しい気持ちや、わからないことを理解しない私への抗議のようでした。その涙に子どもの側に立っているという自負が揺らいだことを思い出します。

昨年だったと思いますが、NHKのドキュメンタリー『よみがえる教室』という番組を偶然見る

機会がありました。その番組は、新設校である茅ヶ崎市立浜之郷小学校で末期がんを患いながら改革を推し進める初代の大瀬敏昭校長を中心として取り組んだことを紹介するものでした。「不登校児童をゼロにし、学級崩壊をなくした」というナレーションが流れました。そのために子どもの声にひたすら耳を傾ける授業づくりが徹底しておこなわれました。その中で、校長自らが、余命幾ばくかという状況下で「生命」の授業をし、子どもを理解する、子どもの意見を本気で聞くということの厳しさを伝えていました。

「子どもに寄り添い子どものための教師」を目指したはずなのに、なかなかそうはなれません。だからこそあるときは子どもに教えられ、またあるときは先輩の先生に指導され、こうした書物やテレビ番組から慢心を戒め初心にかえり、自らを叱咤激励し精進したいと思います。



3年間お世話になりました。 *Thank you very*

**NICOLE さんにインタビューしました。**

- 日本や土岐市の感想は？ -

日本にやってきたばかりのことです。ある中学校へ行ったとき、生徒の反応にびっくりしたことがありました。「これからどうしよう」と心配しましたが、子どもたちは、本当はいい子ばかりで心配することはなかったです。慣れてくると小学生の子とは、休み時間にゲームの話をするのができました。中学生の子は休み時間に話をしに来てくれる子も増えてきました。

- 土岐市の学校の印象は？ -

土岐市の子供もたちは、本当に勉強の機会がたくさんあると思います。他の国の子供もたちはこんなにありません。だから、これから勉強を頑張りたいと思っています。

- 特に印象に残っていることは？ -

本当によい印象がたくさんあります。誰もがやさしかったです。私が困っているとみんなが助けしてくれました。本当にうれしかったです。

- アメリカへ戻ってからどうしますか？ -

アメリカへ戻ってからは、しばらくはのんびりと旅行などして、その後はデザインの勉強をするつもりです。

**「本当にありがとうございました。」**

NICOLE NISHIMOTO MIYUKI



< 7月20日 市長さんへのお別れの挨拶 >

市教育課題研究推進指定校  
(今年度発表)

## 我が校(土岐津小学校)の研究

土岐津小学校では、11月22日(水)に、土岐市教育課題研究推進指定校としての発表会が行われます。

### ステージ1 “作品構想図”

作品の核心に触れるキーワードを絞り込む  
キーワードを支えるサブワードとのつながりを明確にする

5 大きな魚を追い出したスイミーたち (P48~P49)	4 岩陰に仲間を見つけ、大きな魚に食べられない方法を一生けん命考えるスイミー (P46~P47)	3 海のすばらしいものに出会い、だんだん元気を取り戻していくスイミー (P44L4~P45)
大きな魚の大きさを恐ることに が、海の自由を奪うから かたから大きな魚に追 追いつかぬことを恐る	大きな魚の大きさを恐ることに かたから大きな魚に追 追いつかぬことを恐る	スイミーは、海のすばらしいものに出会い、だんだん元気を取り戻していく
大きな魚の大きさを恐ることに かたから大きな魚に追 追いつかぬことを恐る	大きな魚の大きさを恐ることに かたから大きな魚に追 追いつかぬことを恐る	スイミーは、海のすばらしいものに出会い、だんだん元気を取り戻していく

「スイミー」  
作品構想図の一部

### ステージ2 “単元指導計画”

学習指導要領に基づき、単元の指導目標及び評価規準を明確にする  
単位時間の目標を明確にする  
単位時間の目標に直結する本時の課題を明確にする  
課題解決に向かう子どもの姿を具体化し、本時の評価規準を明確にする

### 研究内容1

叙述をもとに仲間と共に読み深める  
2ステージにおける指導構想

### 研究内容2

叙述をもとに仲間と共に読み深める  
3ステップにおける指導・援助と評価

**<研究仮説>**  
場面の様子や登場人物の心情などについて、叙述をもとにした読み取り方を明確にし、的確な指導・援助と評価を行えば、求め合い、鍛え合いながら作品を楽しく読むであろう。

**<めざす子どもの姿>** 言葉を手がかりとしながら  
低・・・場面の様子などについて想像を広げ、楽しく読む子  
中・・・場面の移り変わりや情景について想像を広げ、楽しく読む子  
高・・・登場人物の心情や場面について想像を広げ、楽しく読む子  
特・・・場面の様子などに興味・関心をもち、楽しく読む子

**研究主題**  
『求め合い、鍛え合う子』の育成  
～叙述をもとに仲間と共に読み深める物語文の指導～

“一人読み”  
叙述をもとに、自らの読みを明らかにする。  
<ステップ1>

“仲間読み”  
さらに、想像を広げたり読み深めたりする。  
<ステップ2>

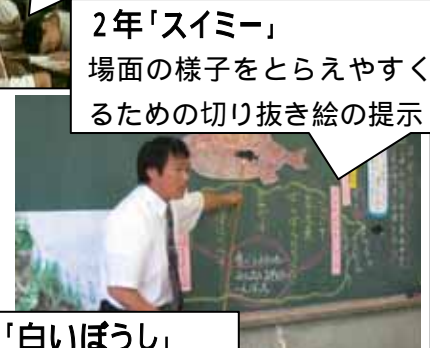
“ふりかえり”  
学びの足跡や変容をまとめる。  
<ステップ3>

### 3ステップを支える指導・援助(例)



耳をあてたら聞こえたよ。

1年「おむすびころりん」  
登場人物になりきるための動作化



2年「スイミー」  
場面の様子をとらえやすくするための切り抜き絵の提示

3年「三年とうげ」  
想像を広げるための問い返し



4年「白いぼうし」  
叙述をもとに読み取るための本文入りのワークシート



5年「わらくつの中の神様」  
焦点的な話し合いにするための構造的な板書



私はこう思うんだけど、みんなはどう。



6年「やまなし」  
仲間とともに読みを深めるためのグループ交流



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内 281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No. 411  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成18年8月31日  
発行部 白石 聰 教育長

撮影 土岐津小学校附属幼稚園  
井野口由起子 副園長



高齢者との触れ合い遊び  
「おじいさんで、すごいなー」

『自然に学ぶ』

## 水やりの極意

土岐市教育研究所長 楓 正敏

今年の夏は大変暑く、雨も少なかったために植物への水やりは欠かせなかったと思います。なかには水やりを忘れて植物を枯らしてしまった方もみえるのではないのでしょうか。植物への水やりは大変難しく、その極意は奥が深いものがあります。

水やりの基本は、土が乾くのを待って、たっぷりやることです。見かけは乾いているように見えても、表面が乾いているだけで土の中は湿っていることがあります。そんなときに水をやるとやり過ぎてしまいます。その結果根腐れを起こして植物が枯れることもあります。逆に少しの水では湿るのは表面だけで、土中には水がぜんぜんしみ込んでいないということがあります。特に、夏にはこの現象が起こりやすいのです。

もうひとつ大切なことは水やりの時刻です。

これは朝夕が適していることはよく知られているところです。なぜ昼間ではいけないのでしょうか。その理由は、昼間は温度が高く土も乾燥していて、まかれた水が瞬く間に蒸発してしまい表面を濡らすだけのことが多いからです。また、もっと悪いことに、蒸発する際に土中の水分を毛細管現象で上に引き上げてしまうのです。水やりのおかげで土中の水分がなくなってしまうというとんでもないことが起こるのです。

さて、2学期が始まりました。2学期は1年のなかでも特に充実した教育活動を行い、確かな成長をさせる時期です。児童生徒一人一人に知的欲求や活動欲求を持たせて、ここぞという時期にたっぷりと指導を注いでいただくよう期待しています。





東教推研修校

( 中学校研究発表会・実践交流会会場 )

市教育課題研究推進指定校

## 我が校（泉中学校）の研究

本校は東教推の研修校として今年度の11月29日（水）に行なわれる研究実践交流会の会場校となっています。あわせて土岐市の指定発表とも兼ねているため、以下に示す研究構想をもとに実践をおこなってきています。

### 1 はじめに

本校は、「よりよき個人はよりよき集団を形成し、よりよき集団はよりよき個人を形成する」を基本理念とする「協同学習（バズ）」をあらゆる教育活動に位置づけている。そして高まった個と集団の中でこそ目標とする学習成果を上げることができると考え、これまで実践を重ねてきた。

しかし私たちは、これまでの研究実践が仲間との関わりだけに視点が注がれ、その一員である個への視点が十分ではなかったと考えた。そこで「協同学習（バズ）」の理念は大切にしながらも、まずは集団の一員である個に力をつけることこそ大切であると考え、個に焦点を当てた研究実践が進められるようになってきた。

しかし、研究を進めていく中で、活動において仲間との関わりは多くあっても、集団がなかなか高まっていかないという姿が感じられるようになってきた。当然そのような中では、集団の中の一員である個の高まりについても十分な成果が得られない状況があった。その要因を探る中で、その成果を前回の市指定教育課題研究推進校の実践発表会において示すことができた。

今年度はこれまでの成果を生かしながらさらに研究実践を進めたいと考えている。

### 2 研究主題、仮説、研究内容、全体構想など（次頁参照）

### 3 本校の教育目標に照らした教科での願う姿

本年度は教育活動の中でも「教科」に重点を置いてきた。よって実践発表会では、昨年度までの研究実践を生かしてさらに研究実践を重ねた成果を発表したいと考えている。

本校の教育目標に照らした、「教科」での願う姿は次のようになる。

「創造」 より高い目標をめざし、目標達成への課題を生み出す姿

「自主」 主体的に教材・事象・課題に取り組む姿

「協同」 思考や技能を、仲間と共により深めたり高める姿



### 4 研究の重点

これらをふまえ、本年度は、昨年度の研究実践をさらに進め、つけたい基礎的・基本的事項を、個に確実に定着させるために「評価」に重点を置いた研究実践を進めたいと考えた。

個に力を確実に定着させるために、教科学習を支える基盤づくりとして、基本的な「学習規律」と「高めあう人間関係」は必要である。そこで、生徒自らが基本的な学習規律をつくるための「5A」評価活動や、学習指導部による「学習の仕方指導」、そして教科学習のみではなく日常的にバズの理念を大切にした集団づくりを行っている。

<p><b>学校の教育目標</b>  <b>創造・自主・協同 人間として強い人間</b>  より質の高いものを求める姿  主体的に、ひたむきに挑戦し続ける姿  温かく、厳しく支え合おうとする姿</p>	<p><b>土岐市の教育課題</b>  <b>学ぶ楽しさのある授業</b>  ・主体的に学ぶ力の育成  ・基礎的・基本的な内容の確実な定着  ・学習集団の質を高める指導</p>
--	--

< 研究主題 >  
**仲間とともに高めあう授業**

**教科における 生徒の実態**  
目標や方法が明確であれば、意欲的に学習に取り組むことができる。  
温かい雰囲気の中で、仲間と共に学習に集中することができる。  
前時までの自分の姿を振り返り、進んで課題を見つけ、自ら解決していく力が弱い。  
仲間の考えや姿に対し、助言したり、練り合ったりして、互いにさらに高め合おうとする力が弱い。

**主題設定の理由**  
今日的な教育課題である「生きる力」を育むために、生涯学習の基礎となる「学ぶ力」が必要である。これらを身に付けるために、本校では学校教育目標の「自主」「協同」の具現を明確にした二つの側面を捉えた。  
・進んで分かりたい、できたいと、自ら課題を見つけて解決していく力  
・課題解決に向け、自ら課題をもち、仲間と互いに高めようとする力  
このような「学ぶ意欲と力」を身に付けさせるために、基礎的・基本的な内容の確実な定着が不可欠である。基礎的・基本的な内容を定着させることは、新たな意欲と力を身に付けさせることにつながる。この過程で「仲間とできる喜び」や「仲間と分かる楽しさ」があると考え、また、義務教育であるこの時期に仲間と共に学ぶ価値を大切にしたいと考え、この主題を設定した。

**教科学習で 願う生徒の姿**  
(創造) より高い目標をめざし、目標達成への課題を生み出す姿  
(自主) 主体的に教材・事象・課題に取り組む姿  
(協同) 思考や技能を、仲間とともにより深めたり高めたりする姿

**研究仮説**  
各教科で、生徒の実態を踏まえ、基礎的・基本的な内容を明確にした指導計画を作成し、個で考えたり、仲間と高め合ったりする活動を位置付け、評価・指導を工夫した授業を行えば、生徒は仲間と高め合いながら、主体的に学習に取り組むことができる。

**研究内容**

**指導計画の工夫**

- ・各教科、各単元・題材、本時における基礎的・基本的な内容を明らかにする。
- ・生徒の意識および実態を分析する。
- ・単元・題材で付けたい力や終末の姿を明らかにした構想図を作成する。
- ・本時の評価規準を明らかにした指導案を作成する。

**評価と指導の工夫**

<p><b>評価について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価や相互評価の場を授業に位置づける。</li> <li>・単元・題材や本時の学習の高まりを実感できる評価の方法（視点・手段・形態）を具体的にもつ。</li> </ul>	<p><b>指導について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個で考えたり、練習したりする場を位置付ける。</li> <li>・仲間と高め合う場を位置付ける。</li> <li>・生徒が主体的に取り組む課題や活動を設定する。</li> </ul>
--	---

**本校の教育課程上の課題**  
自分や仲間の願い・夢実現のために主体的に仲間と共に歩み続ける生徒  
・自ら学び、自ら考える力の育成  
・基礎・基本の確実な定着  
・温かい人間関係づくり  
(H17「教育課程」より)

**今日的な教育課題**

- ・豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること
- ・自ら学び、自ら考える力を育成すること
- ・ゆとりある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること
- ・各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること

# 「学ぶ楽しさのある授業」

(前号より)

嘱託研修員会 泉中学校 小栗 祥吾

## 4. 実際の授業より 第2学年美術科 [第2学年の内容 B鑑賞]

題材名	「絵画を味わう」(山本芳翠の浦島図より)鑑賞活動
本時のねらい	表現された作者の意図や表現の工夫を、視点をもって見たり感じたりすることを通して、作品には作者の願いがあることをつかみ、作品の見方や感じ方を広げ、多様な表現のよさや美しさを味わうことができる。(第1次)



過程	人的環境	物的環境
導入	<p>導入の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前のアンケート調査から、鑑賞に対する生徒の思いをつかみ、前回鑑賞したサムフランスの作品と比較しながら、本時では写実的な作品を扱うことを伝える。</li> <li>掲示された「浦島図」を観て、感じた印象を発表する。</li> </ul>	
課題把握	<p>本時の課題</p> <p>作品から作者の願い(気持ちや工夫)を感じ取り、表現のよさを味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作者について知る (山本芳翠「浦島図」)</li> <li>表現内容について知る (作者が意図したもののプリント参照)</li> </ul> <p>課題の追求</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「洋画(油絵)を広めるために、作者はこの絵のどんなところをどんなふうに工夫して表現したか」</li> </ul> <p>個人用プリントの視点を参考に自分の考えをまとめる。</p>	<p>作者の意図解説(鑑賞プリント)</p> <p>作者がこの作品を描くきっかけになったのは、洋画(油絵)を広めるためと言われている。当時の日本は西洋の文化を多く取り入れた時代でもあった。しかし、伝統的な日本美術のみが重視され、油絵に対しての風当たりが強い頃であった。作者は自分の学んだ油絵のよさを広めるために「浦島図」を描いた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品はできるだけ本物に近い形(大きさ、色)で提示する。</li> <li>細部まで観ることができるように、各班に一枚コピーを配付する。</li> </ul> <p>作品の背景をつかませる工夫</p> <p>・山本芳翠 1850年、岐阜県恵那郡明智町の農家の長男として生まれる。日本の油絵の普及、洋画の大衆化に貢献した画家である。 (岐阜県美術館ワークシートより引用)</p>
課題追求	 <p>この人は浦島太郎だね。みんな何に見えた？</p>	<p>鑑賞プリントを通して、作者の概略 作者の意図したものを提示し解説</p>  <p>この人は浦島太郎で、みんな知っている人物だから、この絵(油絵)に親しみをもってもらいたい</p>
まとめ	<p>評価規準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作家の願いが伝わってくる作品の工夫のよさに気づき、その工夫がどこでどのような色や形、題名で表現されているか、自分の考えをもち伝えることができる。 (色・形・題名)</li> </ul> <p>評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の振り返りを自己評価プリントを通して行う。</li> <li>教師による評価 (見方の広がり、鑑賞力の深まり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>洋画との比較、当時の日本の文化について考えることができるようにする。</li> <li>鑑賞の視点を絞り(色、形、構図)そこから見付けたこと、感じたことを交流する。</li> <li>班长への事前指導、班交流のポイントを示したプリントを通して指導する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>色：遠近感 (日本画との比較)</li> <li>形：モチーフ 場面や装飾品等</li> <li>題名 昔話を題材にしている等</li> </ul>

## 5. 授業後の考察

### 学びの質を高める指導「新しい発見を求め」

美術の授業としての楽しさ  
美術リーダー（係）の活動  
生徒の興味・関心の把握「鑑賞アンケート」  
本物に近い大きさの資料（絵）の準備  
仲間同士で見る絵の枚数  
出口の方向性（次の課題・美術館）

### 学び合う学習集団「仲間とともに」

仲間と学習するよさや楽しさ  
仲間を大切にしながら学習の基盤  
・安心して参加できる授業（発言）  
・班になったときの机の在り方  
  
班交流や共通視点の設定

### 美術の授業としての楽しさ

教科担任との連絡係になりやすい教科係を、「教科でのリーダー」とし、導入でその授業における目標を自分の達成目標とかわりをもたせて発表させたり、振り返りをさせたりする。このことにより、学習を自分たちのものにするという授業参加姿勢や、学習に対する満足感に結びつくものとなった。

事前にとった「鑑賞アンケート」（前号参照）の意識を活用して意欲化を図った。自分たちが興味をもち、また知りたいことと合致したことで、題材が必然的なものとなった。このことが、自分の鑑賞態度や鑑賞作品のよさに気づいたことを、積極的に自分の鑑賞活動にしたいという意欲につながることができた。

本物を鑑賞できることが一番よいことであるが、現実には非常に困難な場合が多い。そこで、「より本物に近い大きさの資料（絵）の準備」をすることで、生徒自身の感動に迫るものとした。実際の大きさに近いことで、生徒たちの反応も様々であり有効であった。ただし、コンピュータ処理をしたことで形や色が多少変化したため、この絵をもとにした鑑賞に難しさがあった。

一人一人に資料を配付するのではなく、クラス全体で一枚掲示し各班には一枚ずつ配布した。「鑑賞資料の枚数を意図的に制限」したことにより、必然的に仲間と鑑賞することになり、意見交流を通して、新たな発見や自分の考えの深まりを生み出すことができた。

授業における「出口の方向性」を生徒にもたせることで、「思いをもって作品をつくることの大切さを知った」「本物の絵も美術館に行って鑑賞してみたい」と述べる生徒や、鑑賞することが嫌いだった生徒が「なんか鑑賞することが楽しくなった」と感想を書くに至った。その後のアンケートでも鑑賞が好きになったという生徒が2割、作品や美術館とつなげられた生徒も半数以上となった。

### 仲間と学習するよさや楽しさ

「学級経営と授業は密接につながっている」とよく言われる。それは、常に仲間とのかかわりを大切にするからである。つまり自分の意見が仲間から聞いてもらえる、また、言ったことに反応してもらえるということになり、安心して参加できる授業の雰囲気や発言内容となって現れる。今回の授業の中では、仲間をお互いに大事にしていることが、活発な発言や発言内容はもちろん、班になるときにすぐに机をくっつけ合ったり、休んでいる子の机を輪の中に入れていたりする姿となって現れていた。

「何でこんな絵を描いたのか」という疑問がでてきた。そこで、作者や、作品名はもちろんのことであるが、作品に込められている作者の願いを伝えることをした。ここで、必然的に本時の課題をつかませたことで、生徒一人一人が作品に込められている願いが分かり、個々の学習課題づくりにもつながった。

「班交流」の設定を事前に考えた。多くの生徒に発言させ、もっと他の仲間と交流したいといった意識をつくり、班で交流するといった必然性をもたせた。また、班交流の内容を具体的に「題名・色・形の共通視点」を設定したことで、仲間と同じ視点で意見交流をすることができた。その視点から「...空などをあえて暗く表現することによって、浦島太郎とお姫様の別れを表現している...。」といった意見も出て、共通視点を通して、さらに班での話し合いが深められ、全体での交流につながった。

### < 成果と課題 >

必然性のある題材（今回は地元作家の作品鑑賞）を設定することは、生徒の学習意欲や学習内容の理解や発想を高める効果がある。

学習課題を明確に提示し、考えを深めたり広げたりする発問や参考資料を提示していくことが、指導や援助をより適切なものにして、質の高い鑑賞と生徒の高い満足感を生む。

さらに、基礎的・基本的な内容を明確にし、実践をふまえ改善された題材指導計画（評価規準）を作成するとともに、仲間と学ぶ価値を味わわせていく必要がある。

1、はじめに

本校では、昨年度より上記のテーマを掲げ、「場面の様子や登場人物の心情などについて、叙述をもとにした読み取り方を明確にし、的確な指導・援助と評価を行えば、求め合い、鍛え合いながら作品を楽しく読むであろう」という仮説のもと、研究を進めている。

2、研究内容

(1) 叙述をもとに仲間と共に読み深める

2ステージにおける指導構想

ステージ1 “作品構想図” の作成

作品の核心に触れるキーワードを絞り込む  
キーワードを支えるサブワードとのつながりを明確にする

ステージ2 “単元指導計画”

学習指導要領に基づき、単元の指導目標及び評価規準を明確にする  
単位時間の目標を明確にする  
単位時間の目標に直結する本時の課題を明確にする  
課題解決に向かう子どもの姿を具体化し、本時の評価規準を明確にする

(2) 叙述をもとに仲間と共に読み深める

3ステップにおける指導・援助と評価

ステップ1 “一人読み”

叙述をもとに自らの読みを明らかにする

ステップ2 “仲間読み”

さらに想像を広げたり読み深めたりする

ステップ3 “ふりかえり”

学びの足跡や変容をまとめる

3、授業実践より

2年生「スイミー」

第9時(5場面)の授業

キーワード「けっして、はなればなれにならないこと」「みんな、もちばをまもること」をもとにして、スイミーたちがみんなで力を合わせ、「大きな魚のふり」をする様子やその大変さを読み取らせるための指導・援助について述べる。

(1)ステップ1“一人読み”について

本時では、「大きな魚のふり」ができるようになるまでの過程において、スイミーが赤い魚たちに何と言っているのかを吹き出しにして考えることによって、その様子を具体的にイメージして目標に迫らせたいと考えた。教科書には、「大きな魚のふり」ができたときの挿絵はある

ものの、それまでの途中の様子を表す挿絵はない。そこで、以下のように教科書の挿絵を切り抜いて提示して、スイミーの吹き出しを考えさせた。



児童が考えたスイミーの吹き出しは以下のようなものであり、「はなればなれにならない」「もちばをまもる」といった叙述を自分なりの言葉で表現している。

C：もうちょっと、よってよ。早くしないとまぐるがきちゃうよ。

C：もっと、かたまつてよ。それじゃあ、大きな魚になれないよ。

C：みんな、それじゃあ、ばらばらだよ。もっとかたまらなくちゃいけないよ。

(2)ステップ2“仲間読み”について

一人読みにおける意味理解から大きな魚のふりをする事の難しさや努力を想像する読みへと深めるための問い返しを行った。

T：大きな魚のふりをして海の中を泳ぐのは簡単にできただろうか。

C：むずかしいよ。

C：海の中だから離れずに泳ぐことは、すごく難しいと思う。

C：覚えるまでに時間がかかったと思う。

T：そんなにたいへんなことなのに、できたのは、どうして。

C：みんながあきらめないでがんばったから。

C：どうしても大きな魚を追い出したかったから。

(3)「スイミー」の実践における成果と課題

音読、吹き出し、手紙、挿絵や切り抜き絵の活用といった低学年の児童の思考に合った指導・援助の蓄積を図ることができた。

より発達段階に配慮した小刻みな学習活動の組み合わせによる授業展開を工夫していく。

4、終わりに

今後も、3ステップにおけるより効果的な指導・援助のあり方についてさらに研究を進めていきたい。

「応援します」 各界の方から

斎藤投手から学ぶこと  
～ 初任者の先生方へ～

東濃教育事務所教育支援課  
初任者研修担当主事  
岩佐泰典

斎藤投手の魅力とは？

平成18年8月20日、21日。この2日間は、テレビに釘付けになった方も多かったのではないでしょうか？ 夏三連覇のかかる駒澤大学附属苫小牧 VS 早稲田実業の2日間、24回にも及ぶ決勝戦は、高校野球史に残る死闘でした。

その戦いの中で彗星の如く現れた早稲田実業のエース「斎藤佑樹さん」のインパクトは、あまりにも強いものでした。それは、その後の加熱報道にもよく表れています。では、なぜあれほどまでに周りの人は、彼に魅力を感じるのでしょうか？ 私は、「謙虚さと力強さ」だと思います。

どんなに大変な場面でもクールに見えるその表情やインタビューでの落ち着いた謙虚な受け答えなどは、まさに清々しさを感じる姿でした。その象徴があのか「ハンカチ王子」と呼ばれる水色のハンカチに表れているのだと感じました。

その反面、四連投しても落ちない球威にずばぬけた力強さを見せつけられました。決勝一試合目の15回二死、173球目と175球目に、147キロを出すというものすごい底力に魅せられた人もたくさんいるでしょう。

野球と教育はつながる

私は、常々「野球は、教育と大きくつながる」と考えています。そして初任者研修の担当者として「斎藤佑樹さん」から初任者の先生方に何かを学んでほしいと思いました。それはやはり「謙虚さと力強さ」です。

どんな緊張する場面でも落ち着いた姿や謙虚なその態度は、本当に見ていて気持ちがいいものです。「謙虚」とは、「常に学ぶ情熱の表れ」だと私は思います。もっともっと優れた自分になるために吸収し、学ぼうとする姿は、好感がもてます。斎藤投手も大変好感をもたれるのは、あの「謙虚な姿勢」からだと思います。しかし、彼も最初からあのような謙虚な人ではなかったと報道されています。仲間の捕手が「あいつほ

ど感情を出すやつはいなかった」というくらい

感情をぶつける選手だったようです。試合で感情を出しすぎて打たれ負けを経験する中で、あの謙虚さ、クールさを身に付けたのです。失敗してつかんだあの「謙虚さ」、これは教育に関わらず、どの世界でも必要なことです。ましてや、子どもたちと接する教育者、特に初任者にとっては、大切なことです。そして、それは上司や同僚だけではありません。目の前の子どもたちからこそ謙虚に学ぶ姿勢が必要です。謙虚に学ぶ気持ちがあれば、教える側の方々も「何かを教えたい、伝えたい」という気持ちで接して下さいます。「謙虚＝学ぶ情熱」であることを心に持ち続けてほしいです。

次に大切なのは、「力強さ」です。「謙虚」なだけで「力強さ」がなければ、それは「卑屈」なだけです。15回になっても、4連投しても147キロを出せるその力強さがあるからこそ、「謙虚さ」が際立つのです。あの力強さは、毎日毎日欠かさずトレーニングをし続けたからこそ付いた力です。初任者に置きかえて考えれば、「教科の力」や「学級経営の力」を伸ばすために自分を高め、子どもに力を付けるために毎日努力することが必要です。

最後に報道ではあまり取り上げられませんが、もう一つ大切にしてほしいことがあります。それは、仲間を信頼するということです。斎藤投手が相手のスクイズを読み、ワンバウンドで捕手に投球した場面がありました。これはよほど捕手を信頼していないとできません。野球も学校もチームプレーが大切です。初任者の先生方をフォローするたくさんの先生方がいるのです。そのフォローに応じて、自分は「この学校で何をしたらいいか」を考え、同僚の先生方を信頼し、同僚の先生方から信頼される教師になることが大切です。

「謙虚さ」「力強さ」「信頼」この三つの力を身に付け、各学校でエースと呼ばれる存在に育って下さることを期待しています。

# 『大好き』に励まされて

妻木小学校附属幼稚園 安藤 ゆりみ

17年度の卒園式の数日後、子ども達のいない静かな園に来園者がありました。一瞬“見たことがある方だ”とは思いましたが、まず用件を伺いました。すると、声を震わせて「先生！私、先生に習いました！」と話し掛けてきました。そして私は、興奮した声で「あっ！ ちゃん？」と声をかけました。彼女は涙を流しながら、会いに来たいきさつを話してくれました。そして、「先生が大好きでした。1年生になっても毎日休み時間になると幼稚園の片隅まで行って、先生が遊んでいるのを見ていました。それで私も先生のようになりたくて、資格を取り数年間勤めました」とのこと。さらに、「私の娘も、資格を取りなさいとは一言も言っていないのに、目標を持って勉強しています。先生が大好きだった気持ちが、娘にも伝わっています」と、30余年の思いを話してくれました。私は、彼女の『先生が大好きでした』のことに、『私も大好きでした

よ』と答えることだけで、気持ちがいっぱいになってしまいました。

小さいときから、近所の赤ちゃんの子守りをして遊んでいた私の将来の仕事は、迷わず“幼稚園の先生”でした。20歳そこそこの、保育の技術もない私の何を『大好き』になってくれたのだろうと思うと、申し訳なくもあり、ありがたい気持ちにもなりました。当時のことは若いころの“情熱”ということ許していただきたいと思います。50歳も半ばになり、残りの幼稚園教育に携わる仕事を、『先生が大好きでした』の教え子の言葉を励みとして、より一層情熱を持って勤めていきたいと思います。また“大好き”の言葉の意味を改めて考えるきっかけを与えられたように思います。 ありがとう。

\*人間愛\*無償の愛\*愛されてこそ子は育つ...

## 掲 示 板

### 岐阜県中学校総合体育大会での活躍

《団体》	陸上 男子総合 3位 泉中	陸上 男女総合 3位 土岐津中
	バレーボール 男子 3位 泉中	水泳 男子 3位 泉中
	ソフトテニス 男子 2位 駄知中	ソフトテニス 男子 3位 土岐津中
《個人》	陸上 男子 1年1500m 優勝 井野拓哉(土岐津) 4分35秒46	
	2年1500m 優勝 勝股聖(土岐津) 4分13秒62(大会新)	
	共通棒高跳 優勝 各務博紀(泉) 4m30(大会新)	
	共通走幅跳 優勝 花井貴弘(泉) 6m72	
	女子 共通800m 優勝 梶田早紀(土岐津) 2分21秒75	
	共通走高跳 優勝 堀詩英美(土岐津) 1m51	
	ソフトテニス 男子 3位 片山知明・加藤翔太(土岐津)	
	卓球 男子 3位 中島悠貴(土岐津)	
	柔道 男子 55kg級 準優勝 肥田貴文(肥田)	
	女子 57kg級 優勝 佐藤香澄(泉) 48kg級 3位 藤田ゆらら(西陵)	
	63kg級 優勝 渡辺晃子(肥田)	
	水泳 男子 100m平泳 3位 金子卓矢(泉)	
	400mメドレー 準優勝 井岡正貴・金子卓矢・佐々木裕允・馬場裕介(泉) 4分36秒24	
	400mリレー 準優勝 金子卓矢・馬場裕介・佐々木裕允・井岡正貴(泉) 4分04秒88	



### 東海中学校総合体育大会での活躍

《個人》	陸上 男子 共通棒高跳 優勝 各務博紀(泉) 4m40
	男子 共通走幅跳 優勝 花井貴弘(泉) 6m72
	柔道 女子 57kg級 3位 佐藤香澄(泉)



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内 281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
所報 No. 412  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成18年9月29日  
題字 白石 聰 教育長



鼓笛入場



力一杯 赤白横一線

撮影 駄知小学校 PTA 広報委員会



『自然に学ぶ』

## 危機管理意識

土岐市教育研究所長 楓 正敏

今年も台風シーズンがやってきて、各地に被害をもたらしています。台風とは熱帯の海上で発生する熱帯低気圧のうち最大風速が秒速 17.2m 以上のものを言います。東風が吹いている低緯度では西へ流されながら北上し、中緯度になると偏西風によって北東に進んでいきます。9月末から10月初めにかけては日本列島が台風の進路にあたるのがよくあります。

これまで私が体験した台風の中で最も強力だったものは、昭和34年に東海地方を直撃した『伊勢湾台風』です。死者行方不明者が5,000人以上という猛烈な台風でした。当時、私は小学生でしたが、その日の様子は今でも鮮明に記憶しています。夕方から強風が吹き荒れ、次第に猛烈な暴風雨となって家の壁が抜け落ち、雨戸が外れ、とうとう家が傾き始めました。それは、柱と障子の隙間がみるみる変化していくことでよく分かりました。私たち一家は身の危険を感じて土蔵に避難し、一

夜を明かしました。

被害はあちこちに出ており、家屋の浸水、橋の流失、田畑の浸水など被害金額は当時の推定で3,000億円にのぼったと言われます。

土岐市内では2階建て木造校舎の下石小学校が全倒壊しました。台風という巨大なエネルギーの前には為すすべがなかったということでしょうが、下石小学校ではその夜6人の職員が宿直し対応をされました。次第に激しくなる状況のなか、職員室が危険ではないかと判断し、宿直室へ移動したことが幸いして全員無事でした。大切な子どもたちを預かっている私たちは、非常事態の中でも、危険予知、情報収集、危険回避、初期対応などの能力が発揮できるよう常日頃から訓練しておかなければなりません。





1 願う子どもの姿

子どもが生きる授業(学ぶ楽しさのある授業)とは、仲間とかかわって学習をしていく中で、自分の思いを表現し合って、互いのよさを認め合っていける授業である。

2 研究内容

<研究内容1>

6年間の系統性をもった「話すこと・聞くこと」の指導計画を作成

研究の方途

学年別単元配列表の見直し  
「話す、聞く、話し合う」の段階表の見直し  
口形、音読(発声)指導計画表の見直し

<研究内容2>

「話すこと・聞くこと」の力を育てる単元や授業の構想

研究の方途

段階表を生かした「話すこと・聞くこと」の実態把握とねらいの焦点化  
五つの言語意識を考えた、単元や授業の構想(相手意識、目的意識、場面状況意識、方法意識、評価意識)  
話しかけ、語りかける力を育てる指導と評価の工夫

<研究内容3>

教育課程における実践の場の開発

研究の方途

みどりの集会  
朝の会、帰りの会  
全校集会、始業式、終業式  
わくわくスタディタイム  
お昼の放送

3 今年度の重点

昨年度までの研究で「話すこと」の指導の流れを

- (1) 原稿を見て正しく話す。
- (2) メモを見て正しく話す。
- (3) 原稿、メモを見て聞き手を意識して、構成を工夫して話す。
- (4) 原稿、メモを見ないで正しく話す。
- (5) 原稿、メモを見ないで聞き手を意識して、構成を工夫して話す。
- (6) 相手の話に応じて話す。

のように考え実践してきた。そして、(1)、(4)、(5)の成果が上がってきた。

今年度は、話を聞いてメモをとること、話をする時にメモをつかうことを指導するステップを全

校で考えていきたい。そして、一方的に話をするだけでなく、聞き手を巻き込む話ができるようにするステップを考えていきたい。

そのために<研究内容2>の中で、つなぎ言葉、あいづち、聞き手に投げかける言葉について考えていくことにした。

4 実践

<研究内容2>

は、指導案で授業者の考えを明確にする。については、原稿から離れて話すこと、相手の話に応じて話すことができるようにするために、つなぎ言葉やあいづち、聞き手に投げかける言葉を検討していく。

低学年で教えたい言葉 (案)

つなぎ言葉	あいづち	聞き手に投げかける言葉
(順序) はじめに、つぎに、それから、(理由)わけは、...(接続詞)そして、だから	はい。(うなずく)いいえ。	話してもいいですか。聞いてください。いいですか。わかりましたか。

2年生「あったらいいな、こんなもの」の実践

<本時のねらい>

聞く人が分かりやすいように、大事なことだけを書いた原稿を見て、「だから」「そして」などのつなぎ言葉を使って、文章をつないで話すことができる。

...はじめは、それがどんなものかを話します。掃除機みたいな形です。そして、スポンジを撃ちます。...



成果

つなぎ言葉を教えたことで、文章をつないで詳しく説明しようとする姿が見られた。話の後に質問を聞き、その質問に答えることができた。

課題

原稿に書いたことを覚えて言おうとする姿が見られるようになったので、原稿から離れて話ができるようにしたい。また、振り返りの発言の中でも、つなぎ言葉を使って、文章をつないで話せるようにしたい。どのような、つなぎ言葉、あいづち、聞き手に投げかける言葉を教えると、原稿から離れて話すことができるようになるのか、相手の話に応じて話すことができるようになるのかを検証したい。

## 読む力をつける

～言葉に着目して、文学的文章を読み深めることができる子～

妻木小学校 保母 征之

### 1. はじめに

本校では今年度より上記のテーマを掲げ、「言葉に着目して確かに読む力をつける指導方法が明らかになれば、文学的文章を読み深めることができる子が育つ」という仮説のもと、研究を進めている。

### 2. 研究内容

#### (1) 教師の教材研究の深まりと授業力の向上

着目するキーワードと読み  
子どもたちの学ぶ意欲を高める課題設定  
読み深めや全体交流の工夫  
課題に沿って読み深める指導計画の作成

#### (2) 自分の読みを確実にし、仲間と関わり合って読み深めていく方法の工夫

一人読みの仕方の開発と指導  
仲間と共に読み合っていく方法の開発と指導

#### (3) 子どものよさを引き出す評価の工夫

子どもの読みの実態をつかみ、指導に生かす工夫  
子どもの読みのよさをつかみ、子どもに伝える方法の工夫

### 3. 授業実践より(3年生 国語)

単元名	いろんな本を読もう
教材名	「三年とうげ」3場面

#### <研究内容1>

##### 着目するキーワードの絞込みと読み

##### (ア) 主題につながる作品全体を貫くキーワードの設定

作品全体を貫くキーワードを「転ぶ」と設定した。この作品では、主人公のおじいさんが、最初と最後に「転ぶ」が、その時の感情を本文から読み取ると、前半の「転ぶ」では真っ青、がたがたふるえて、おいおいなき、などの悲しい感情が表されているが、後半の「転ぶ」では、あんまりうれしい、けるけろっとした顔、にこにこ笑って、などのうれしい感情が表されている。まさに気持ちが転じているのが面白いといえる。この物語を通して、物事のとらえ方の面白さを子どもに伝えたいと願い、キーワードを「転ぶ」と設定した。

##### (イ) 場面ごとのキーワード、サブワードの設定

本時では、「3年しか」生きられぬと、ふとんにもぐりこんでいたおじいさんが、トルトリの機知に富んだ話で「3年も生きられる」ことに気づき、喜んでおじいさんの様子をふとんから「はね起きる」の言葉に着目して想像させた。

#### <研究内容2>

##### 一人読みの仕方の開発と指導

##### (ア) ワークシートの活用

叙述をもとに、自らの読みを確かにするために、ワークシートを活用した。本文のどこの言葉から読み取ったのかが分かるように、矢印を使って下の空欄に読み取ったことを書くよう指導した。子どもは、はじめ長いセンテンス全てに線を引き、読み取りを行っていたので、その中でもどの言葉から想像を広げることができたのかを絞って考えられるよう指導した。

##### (イ) 一人読みの指導・援助の工夫

一人読みでは、様々なつまずきが予想される。つまずきの段階に応じて適切な指導・援助ができるよう3つの段階に分け、手立てを考えた。

読み取りの段階	指導・援助	具体的な指導
本文のどの言葉に着目してよいか迷っている。	きっかけをつくる	挿絵などを使って想像させる。
想像をふくらませているが、根拠がはっきりしていない。	認める	読みを認め、その根拠となる言葉を見つけさせる。
言葉に着目して読み取れている。	整理する 比べる	他の言葉とつながらないか考えさせる。

### 4. 成果と課題

キーワードから読みを深めようとする授業計画が作成されていたため、子どもが言葉に着目して考えようとする姿が多く見られた。

学習プリントや前時までの授業の掲示物を丁寧につくることで、子どもが自分の考えを持ちやすい環境ができ、子どもの意欲的な発言が見られた。中学年では、音読や役割演技などを通して場面の移り変わりや情景を想像することや、言葉を置き換えたり、読んでみて書いたりすることをより一層重視する。

机間指導においては、どの児童につくのかを明確にしておく。あらかじめ考えておいた手立てが有効にはたらいたかどうかの記録を蓄積し、個に応じた指導を明らかにしていくことが必要である。

### 5. 終わりに

今後も、作品のとらえ(主題)を明確にするとともに、各学年の段階に応じた「読み」ができる学習形態などの工夫に取り組んでいきたい。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 駄知小学校 後藤 淳

## 1. はじめに



理科の学習指導要領の目標は、

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

とされ、『見通しをもって』という言葉が明記されている。これは、今日的な課題である自ら学び、自ら考える力を育成するために『観察、実験を自己責任をもたせて実体験させる』ことを一層重視したからである。この目標に向かうような理科学習を行うには、『感じ、考え、実感する』ことを重視した学習展開をしていくことであり、子供主体の理科学習を進めていくことである。

見通しをもって観察、実験を行い、自ら問題解決できた時の喜びこそが、理科における『学ぶ楽しさ』であると考え。土岐市の教育課題『学ぶ楽しさのある授業』の具現に向けて、5年生理科で実践を試みることにした。

## 2. 研究構想

< 研究主題 > 見通しをもった観察・実験を通して、自然のきまりを獲得する児童の育成

理科の学習において、科学的な見方や考え方に高めるために『事実で』『くり返して』『誰が見ても考えても』いえることを見つけていくように指導してきている。その中で『教科の本質』に迫るために「学びの質を高める指導」「学び合う学習集団」の二つに重点を置き、研究を進めることにした。

### 学びの質を高める指

#### 必然性のある課題設定

必然性のある課題設定をするためには、単元や単位時間での導入における事象提示が重要となる。問題意識もてる教材・教具の開発や、既習内容や生活経験と結びつけた活動の見通しがもてるような提示の仕方を工夫していく必要がある。

#### 評価規準を意識した指導・援助

単位時間ごとの確実な基礎的・基本的な学習内容の定着が、科学的な見方や考え方に高めるものとなる。そのために、単位時間に評価規準を明確にもち、一人一人が到達できるように、自然の事物・現象を観る視点を確認したり、個に応じた教具を開発したりするなどの指導・援助を行う必要がある。

### 学び合う学習集団

#### 互いに鍛え合う集団

互いに信頼し合える学級経営を基盤に、自分が見つけたことを自由に交流していくことができる学習形態の工夫や場の設定をしていく必要がある。できる限り一人一人で追究できるよう実験器具の準備をするなど環境を整え、見つけたことをその場で交流していくことが客観性のある見方や考え方に高めていくことになると考える。

### 3 授業実践の構想

(単元名『流れる水のはたらき』全12時間)

5年『流れる水のはたらき』の実践を通して、主題に迫ることにした。ここでは、雨水の流れと地面の様子、川の水の流れと川原、川岸などの様子を関係づけて調べ、流れる水は土地を変化させる働きがあることをとらえる。ここで学習する川の水の働きである浸食、堆積を理解させていくことが、6年理科『大地のつくり』につながるものである。



近年の安全上の問題から、川に入って遊ぶ経験をしている児童は少ない。そこで単元の導入で、地域の肥田川を観察に行くことにした。実際に水の流れを体感したり、川岸の様子を観察したりすることによって、モデル実験と実際の自然とを結びつけやすくなると思う。

#### 『流れる水のはたらき』単元構想図

教科の本質を身につけた児童の見方、考え方

流れる水には、土地を削ったり、石や土砂などを流したり積もらせたりする働きがある。雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により土地の様子が大きく変わることがあり、自然災害につながり生活が脅かされることもある。

#### 学びの質を高める指導

- 必然性のある課題設定
- ・肥田川で遊ぶ体験をもとにした、課題設定。
- ・比較によって生じる問題の焦点化。
- ・ブラックボックスによる提示の興味付け。
- ・視聴覚機器の利用による災害の提示。

評価規準を意識した指導・援助

- ・評価規準の明確化
- 単位時間の中で、評価規準を明確にもち、達成するための手だてを具体化しておく。
- ・個に応じた指導・援助
- 教材、教具の提示や実験・観察の視点を明確にする言葉かけを行う。

#### 第3次 川の水と土地の変化の関係を調べよう

- ・大雨や洪水による川や土地の変化を調べる。
- ・大雨や洪水による災害を防ぐ工夫を考える。

#### 第2次 水を流して調べよう。(モデル実験)

- ・水の量や速さを変えた時の流れる水の働きについて調べる。
- ・曲がった川の外側と内側の流れる水の働きについて調べる。

#### 第1次 川の様子を比べよう

- ・肥田川の観察に行く。
- ・川のでき方について考える。(雨の日のグランドの様子を観察する)
- ・川の上流、中流、下流の様子を調べる。

#### 学び合う学習集団

- 互いに鍛え合う集団
- ・見つけたことを仲間を確認(客観性)

日頃の指導の中で、自然の事物・現象に対して客観性をもたせるために、見つけたことをすぐに仲間を確認するように指導してきている。自分の見つけた事実や考え方が仲間から認められることが、学ぶ楽しさにつながるものと考えられる。

#### ・役割分担

モデル実験では、4人グループで行う。実験の操作上、水を流す役、砂やおがくずをセットする役など必要になる。役割をローテーションし、グループ全員が観察できるよう指導する。

#### 児童の実態(事前アンケートから)

駄知を流れる肥田川で遊んだ経験のある児童は少なく、多くの児童は、流れる水の働きによって川の様子が変化していることに気づいていない。

川に関心をもっている児童は少なく、ほとんどの児童は川のでき方について理解していない。

# 新しいALTを紹介します

名前 Kaneda Cory Masaki  
年齢 23歳  
出身 ハワイ州 マウイ  
出身大学 パシフィック大学オレゴン校  
8月25日(金)に、土岐市へやってきました。



ぼくは、コーリーです。約半年間、日本に留学して日本文化について勉強していたので、日本語がボチボチ話せます。

気軽に声をかけてください。

(9月のはじめに、インタビューしました)

## 日本に来てALTをしようと思ったわけは？

日本の文化に興味があったし、日本語が上手になりたいと思っています。子どもと遊ぶのも好きだし、子どもを教えてみたかったから、ALTとして頑張ろうと思いました。

## 土岐市へ来て1週間が過ぎました。この1週間は どうでしたか？

土岐市へ来て、今住んでいるアパートからスーパーまでは、あまり遠くなくて便利です。市役所までは少し遠いけれど、自分の運動のためにはいいと思っています。

## 学校や幼稚園へALTとして行くわけですが、どう思っていますか？

学校や幼稚園へ行くわけですが、子どもたちは、元気一杯な子が多いから、子どもたちの元気のレベルと同じくらいの元気のレベルで頑張りたいです。よろしくお願いします。

### <担当する学校>

- ・土岐津中学校・西陵中学校・濃南中学校
- ・土岐津小学校・妻木小学校・曾木小学校
- ・肥田小学校・泉西小学校

# お互いに学び続けましょう

ジョーゼンさんは、3年目になります。

New ALT Cory is nice guy.



ジョーゼン ギブソン タモリ

## この2年間学校や幼稚園に出かけて どうでしたか？

この2年間、すごく早く過ぎました。日本に来たのがまるで昨日のような感じがします。2年間に学校や幼稚園でたくさん楽しい時間を過ごしました。毎日、学校や幼稚園へ行くのが楽しみでした。土岐市の学校の先生と事務の人と生徒はやさしいし、礼儀正しいし、多くの人が僕にいろいろなことについて教えてくれました。彼らは、僕が成長するのを手伝ってくれました。みなさん、本当に有難うございました！

## この1年を どう過ごすつもりですか？

この1年間で、もっと日本の文化について学ぶつもりです。さらに、みなさん一人一人を知るために、一生懸命に日本語を勉強します。僕は教師です。しかし、同時に学生でもあります。僕たちはみな、生きていく上で学び続ける学生だといえます。お互いに学び続けましょう。よろしくお願いします。

### <担当する学校>

- ・駄知中学校・肥田中学校・泉中学校
- ・下石小学校・鶴里小学校・駄知小学校
- ・泉小学校

# PC及びICTの有効活用をお願いします

土岐市教育研究所 情報教育担当

土岐市では、児童生徒が使用するパソコン(PC)だけでなく、教職員が使えるPCの整備、校内LANや高速インターネット接続など、大変良好な整備状況となっています。そうした設備を使って「わかる授業」を行うために、教職員全員がICT(情報通信技術)の活用指導力を向上しなければなりません。

ここでは、土岐市のPCに入っているソフトウェアについて紹介します。

## <スカイメニュー Sky Menu>

教師一人で、全員、グループ、個別に指導することなど、PC室のPCを管理するソフトです。以下のようなことも、簡単にできます。

- ・PC室にある教師用PCで、一斉に子ども用のPCの電源を入れたり切ったりできます。
- ・教師用PCから、全ての子どものPCの様子を見たり、一時停止させて説明を聞かせたりすることもできます。

## <eライブラリ>

- ・学習履歴型ドリル(約5万問の問題の中から出題され、履歴が残るので、できなかった問題を繰り返し取り組むことができます。サーバーに蓄積された履歴を、教師も子ども自身も簡単にチェックすることができます)図鑑、百科事典、素材集(約1万点の高品質のデジタル写真集で、提示用の資料づくり、テスト問題づくりなどに役立つ)などが入っています。

## <eライブラリのソフトの活用例>

単元終了後などに、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、e-ライブラリのドリルを使って知識等の定着を図ったり、定着状況を子ども一人一人に確認できるようにする。

少人数指導において、学習をどんどん進めていく子や基礎的なことを確認する子など、学習展開に応じて活用する。

夏休みや放課後の時間などを活用し、個に応じて教科や内容などを自由に選ばせて取り組ませる。担任(教科担任)が出張でないときなど、教師一人がついて自習になる時間に取り組ませる。

## <テレビ会議システムの活用例>

- ・市教研の事前研がなかなかできません。指導案を部員にFaxで送り、時間さえ合わせておけば、参加できる人が自由に入って意見交換できます。同時に何人もが話せますので、普通に話をしているように会議ができます。

## <eファクトリ>

- ・校内LANから学校間での交流までできます。教師、子ども一人一人にアドレスがあるため、他校の先生へメールを送ったり、チャットでリアルタイムに情報交換したりできます。
- ・教育研究所の掲示板から情報を取り出したり、メールを送ったりできます。

## テレビ会議システムの有効活用を

市内の各小中学校には、1台のPCではありませんが、テレビ会議システムが入っています。現在情報主任会で、テレビ会議を行ってみて活用法を探っています。一度使ってみてください。

## 情報モラルの指導を

- ・学校の中でインターネットを活用する場合、かなり強力なフィルターがかけてあるため、問題が起きるようなサイトに接続されることはありません。安心して子どもたちに使わせることができます。
- ・インターネットだけでなく、携帯電話でのチャットなどで、不適切な書き込みがまだ起きています。情報モラルについては十分指導してください。

eファクトリの連絡掲示板 土岐市教育ネットワーク関係の中に、情報モラルに関する指導資料が多数ありますので活用してください。

<PC等の有効活用をお願いします。>

\*PCを活用していて困ったときには、土岐市の先生はヘルプデスクへ電話してください。

ヨク ツカオーヨ  
0120-49-2504

## 「心にひびく言葉」

# 心にひびかなかった言葉「がんばれ」

土岐津小学校 佐藤 猛

2004年10月23日、新潟中越地震が起きてから、約1年10か月が経ちます。長岡市内の小中学校で、この2学期から本校舎へ戻って授業が再開されたというニュースを聞きました。それまでは、別の学校で間借り授業をしていたそうです。また、やっと避難勧告が解除された地域もありますが、旧山古志村の141世帯416人には、「勧告」よりも重い「指示」の解除のめどが立っていません。

地震が起きてから少し経ったとき、子どもたちを遊ばせるボランティア活動があると知り、土・日の2日間、子ども会関係者や大学生と一緒に長岡市に行きました。大人が復興作業をしているために、避難場所には子どもだけが残されていました。私たちは、現地の子ども会関係者の案内で、避難所になっている小学校と高校を、時間の許す限りまわりまし

た。わがままな子、極端に甘える子が何人かいました。また、遊んでいても、子どもらしい、はじけるような笑顔を見せる子が少なかったです。最も気になったのは、別れ際に「がんばってね」と言われたときの山古志村の子どもの表情でした。ふっと顔を曇らせ、視線をそらす子が数名いました。「今までも精一杯がんばっているのに、これ以上どうしたらいいのか」という困惑の表情でした。「がんばろう神戸」のように、当事者として共にがんばろうとする声かけなら受け入れたかもしれませんが、第三者の「がんばれ」は励ましにならないことが分かりました。

山古志小・中学校は神戸の中学校とお互いの地域を行き来しています。「がんばれ」ではなく「がんばろう」という仲間との交流で、少しは心が安らいだのでしょうか。

### 全国中学校体育大会での活躍

陸上 走り幅跳び 花井貴弘(泉中3年) 準優勝 記録 6m74(自己新記録)  
棒高跳び 各務博紀(泉中3年) 5位 記録 4m30  
柔道 57kg級 佐藤香澄(泉中3年) 63kg級 渡辺晃子(肥田中2年)

### 岐阜県吹奏楽コンクールでの活躍

県大会 小編成の部 金賞 土岐津中学校 駄知中学校  
大編成の部 銀賞 泉中学校

第4回全日本小学校ホームページ大賞(J-KIDS大賞)の県代表に、泉西小学校のホームページが選ばれました。

### 土岐市発明くふう展

土岐市長賞  
土岐市議会議長賞  
発明協会土岐支会長賞  
土岐市経済環境部長賞  
土岐市教育長賞  
土岐中央RC会長賞  
奨励賞  
奨励賞  
奨励賞

### 《くふうの部》

村井 一勢(泉西小4年)  
水野 翔太(駄知中2年)  
長江 俊明(下石小5年)  
筑摩 恒治(駄知小4年)  
肥田 友大(肥田小6年)  
酒井 研宗(駄知小4年)  
筑摩 智香(駄知小2年)  
加藤 大曙(泉西小4年)  
平野 雄也(駄知中1年)

### 《絵画の部》

木村 有希(泉小4年)  
そが のりか(泉西小4年)  
梅村 宙生(駄知小2年)  
伊藤 里紗(泉小3年)  
えぐち みちとき(鶴里小1年)  
安藤 友人(妻木小3年)  
市原 直樹(下石小3年)  
丹羽 咲文(肥田小4年)  
ひし田 あこ(土岐津小2年)



土岐市 教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.413  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成18年10月31日  
題 目 白石 聰 教育長

撮影 泉西小学校 糸見 真 先生



泉西小学校  
(全日本小学校HP大賞県代表)  
「ぼくたちが、学年のブログを  
毎日更新しているよ」

『自然に学ぶ』

## 熊や猿の出没

土岐市教育研究所長 楓 正敏

今年は、各地で熊が出没しています。東濃地方でも中津川や恵那では民家のすぐ近くまで出てきて顔を引っ掻かれたという被害まで出ています。また、市内では猿が多く目撃されています。熊や猿が里まで出てくるにはそれなりの理由があるはずですが、山奥に十分な食べ物があれば何も危険を冒してまで出てこないのですが、今年はドングリなどの実が不作で仕方なく山を下りてきていると考えられます。

では、なぜドングリの実が付かなかったのか？それは、今年の初夏は雨が続いてうまくドングリなどの受粉ができなかったのではないかと考えています。花粉は雨に当たると浸透圧の関係で破裂してしまいます。スイカを育てていると、雨が続きとなかなか実が付かないことからよくわかります。長雨は今年たまたまだったのか？ひょっとしたら異常気象の一つではないかと考えることができます。人間が、自分たちの豊か

な生活を求めてエネルギーをどんどん使い、地球温暖化を進行させていることが原因だとしたら……。

結論として、人間が自分たちのわがままを通して身勝手な振る舞いをした結果、熊や猿を本来住みやすい山から追いやっていると推測するのは考えすぎでしょうか。

さて、国の教育再生会議ではいじめの問題が最優先の課題として取り上げられています。いじめは許されないことであり、起こったときには迅速に厳しく対処していかなければなりません。しかし、それよりも大事なことはいじめを起こさせない土壌を作っておくことです。一部の児童生徒のわがままが通ってしまう学級では、多くの子がいやな思いをしなくてはなりません。一人でもいやな思いをしている子はいないかとアンテナを高くして指導に当たることが大切です。





# 確かな学力を育てる教科指導のあり方

～生き生きと学ぶ生徒を育てる個への指導・援助の工夫～

肥田中学校 市川 実

## 1 はじめに

本校では、前年度の研究主題を継続し、つけたい力や評価規準を明確にし、個を高める学習過程を仕組みば、生徒は生き生きと学習し、「確かな学力」を身につけることができるという仮説のもと、研究を進めている。

## 2 研究内容

### <研究内容 1> つけたい力と評価

- つけたい力の明確化
- 評価規準の明確化
- 評価方法の工夫

### <研究内容 2> 個に応じた具体的な指導・援助

- 個の実態把握の工夫
- タイプ別生徒への指導・援助の工夫

## 3 授業実践 <2年生男子 保健体育>

単元名 バレーボール

### <研究内容 1>

この単元を通して生徒に身につけさせたい力を以下のように捉えた。

- ・ボールの下に素早く入り、低い姿勢から上げた方向に足先を向け、山ボールを上げることができる。さらに、3段攻撃ができる。  
【運動の技能】
- ・お互いの技量を把握し、技能の上達を目指してよりよい練習方法を選択できる。  
【運動についての思考・判断】
- ・仲間の動きについて見合い、気付いたことを教え合うことができる。  
【運動への関心・意欲・態度】

単位時間ごとに課題を設定し、単位時間のねらいを明確にした。また、単位時間の評価規準を4つの観点から1つに絞って取り組むことにし、本時の評価規準を以下のようにした。

2年生男子 「バレーボール」の実践 (6/14時間)

### <本時の評価規準>

アタッカーがいる場所に向けて山なりのボールを上げることができる。【技能】

評価方法の工夫として、個人評価や教師による観察だけでなく、生徒が互いに評価し合うこと(ベストサーバー、ベストレシーバー、ベストセッター、ベストスパイカー、ベストボイサー)を位置づけた。

### <研究内容 2>

単位時間のねらいを達成するために「個への指導・援助の方法」を、単元指導計画に位置づけた。また、単位時間の課題に対して予想される生徒の反応を細分化し、一人一人に対応できる具体的な指導・援助の仕方考えた。

局面	タイプ	予想される反応		指導・援助
		連係動作	ボール操作	
トス	A	トスする方向(アタッカーの方向)に体を向けることができる。	アタッカーに対し、ネットと平行に高く上げることができる。	相手の裏をかいたバックトスを上げる方法もあることを助言する。
	B	ボールの落下点に入り、トスすることができる。	アタッカーに体を向けて、トスを上げることができる。	膝の屈伸を使いながら山ボールを上げるように意識させる。
	C	ボールの落下点に入るのが遅く、無理な体勢でトスを上げている。	アタッカーに体を向けて、トスを上げることができない。	ボールの動きに合わせて、ボールの真下に入る動きを何度も練習させる。

## 4 成果と課題



ねらいを達成するためのポイントを明確にすることにより、グループの中で互いに見合い、気

付いたことを教え合う姿が多く見られた。

詳細なゲーム記録をもとに、数値に基づいて生徒が互いに評価を行うことで、生徒にも教師にも分かりやすい評価ができた。

技能や運動への関心等を高めるために、ゲームの内容や効果的なゲーム記録の活用方法を研究していく必要がある。

一人一人に対応した指導・援助の手だてが有効にはたらいたかどうかの記録を蓄積し、個に応じた指導の効果をより明らかにしていくことが必要である。

# 「伝え合う力」を伸ばす子の育成

～少人数学級の特徴を生かし豊かな言語の力をつける指導法の工夫～

曾木小学校 西尾 浩

## 1 はじめに

全校児童44名という市内一の小規模校である本校では、子どもの自己表現力を伸ばすことを教育の大きな柱としている。また、小規模校であることを利点と捉え、子どもの特質に応じた授業の在り方を研究したいと考えた。そこで本年度より、研究テーマを上記のように設定し、豊かに自分の思いを表現できる子の育成を目指している。

## 2 研究内容

### (1)「伝え合う力」を伸ばす指導計画

- ・「話すこと」「聞くこと」の活動を生かす指導計画の工夫

- ・少人数学級の特徴を生かす指導計画の工夫

### (2)「伝え合う力」を伸ばす指導・援助

- ・「話すこと」「聞くこと」の活動からねらいに迫る手だての工夫

- ・少人数学級の特徴を生かす手だての工夫

## 3 授業実践

### (1)「伝え合う力」を伸ばす指導計画

#### 「話す・聞く」活動を生かす指導計画の工夫

3年 教材名「くらしの情報局 - 「分類」ということ」

本単元は、身の回りのものに目を向け、分類の仕方を調べ、その工夫を分かりやすく発表する学習内容である。そこで、発表のためのメモを作成する時間では、「くらしの情報室」といったニュース番組風の場面設定をし、発表へ向けての意欲を持たせるようにした。

この時間の導入では、モデル児童がマイクをもって自分の調べたことを上手に発表した。それを聞く側は、その発表を参考にして発表メモの作成や実物・図などの工夫はどうすればよいかを考えるようにした。

#### 少人数学級の特徴を生かす指導計画の工夫

1年 教材名「すきなもの、おしえて」

この単元は、相手に「すきなもの」を聞き、その内容を正しく理解するという学習内容である。7人という少人数学級であ



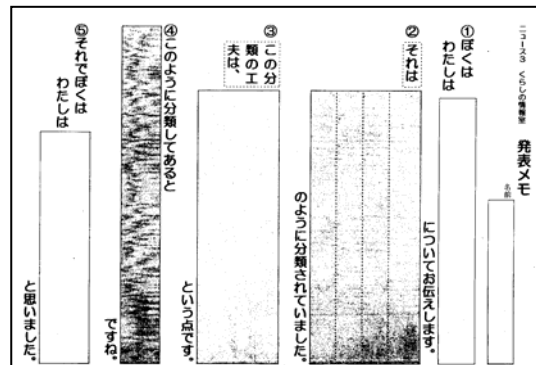
ることを考慮し、質問する相手を曾木小学校の先生方にするようにした。少人数であるため、全員が多くの先生に質問することができ、十分な学習活動が確保できる。また、的確な応答をしてもらうことで、児童も正しく聞き取ることができると考えた。

### (2)「伝え合う力」を伸ばす指導・援助

#### 少人数学級の特徴を生かす手だての工夫 学習プリントの工夫

児童が確実に学習のねらいを達成するために、実態に合わせた学習プリントを工夫した。

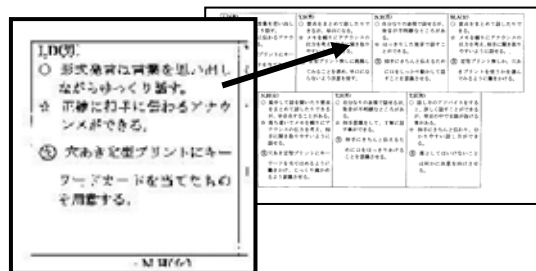
#### 【3年生「くらしの情報局」プリント例】



国語の力から見た子どもの実態把握

単元及び本時のねらいから見た子どもの実態を机列表にまとめ、一人一人につけたい力とそのための手だてを明らかにした。

#### 【2年生「ともさんはどこかな」机列表】



## 4 今後の取り組み

子どもたちが自分の考えを他者に伝える力を育てるために、その意欲を喚起する場面設定や個に応じた手だての一端が明らかになってきた。今後は、単元における5つの言語意識「相手・目的・方法・場面・評価」の具体化や、一単位時間における導入 展開 まとめ各段階での学習活動のねらいと具体的な子どもの姿の明確化、及びそのための手だての在り方を追究していきたい。



# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員 駄知小学校 後藤 淳

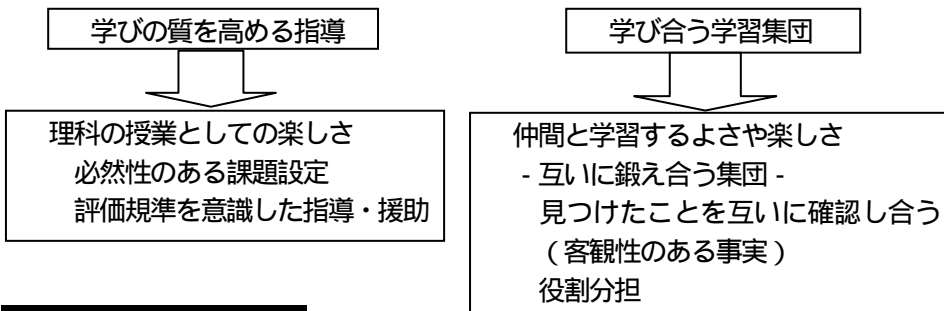
(前号より)

## 4. 実際の授業より 第5学年理科 [C領域 地球と宇宙(2)]

単元名	流れる水のはたらき
本時のねらい	曲がった水路に水を流すモデル実験を通して、川の曲がった所の内側は、流れが遅く、削った土砂を堆積するはたらきがあり、外側は流れが速く土砂を削るはたらきがあることが分かる。

選	過程のねらい	子どもの様相	指導・援助
つかむ	肥田川の体験を振り返り、曲がった川の水の働きに興味をもつことができる。	<p>カーブのある水路の提示を観て、水を流した時の変化を予想する。</p> <p>T: 今までの水路と比べてみてね。 (曲がったところのある水路を作る。)</p> <p>C: カーブがある。</p> <p>T: 水を流すとどうなるかな?</p> <p>C1: 外側が削れて、内側に砂が残ると思う。 曲がっている所で水が外側に行き、その勢いで削るけど、内側にはあまり行かないから砂が残ると思う。</p> <p>C2: まっすぐに流れていくから内側が削れていくと思うよ。</p> <p>T: 外側と内側で、違いがあるのかな?</p>	<p>今までの水路と比較させ、曲がった所があることに気づかせる。 水を流した時の変化の予想を立てさせ、その理由を考えさせる。</p> 
やってみる	モデル実験の方法を考え、曲がっている川の内側と外側の流れの速さと働きを調べることができる。	<p><b>課題</b></p> <p>川の曲がった所の内側と外側の水のはたらきにちがいはあるのだろうか。</p> <p>モデル実験で調べる方法を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>削る働きを調べるためにつまようじ、速さを調べるためにチョークの粉を使うといいよ。</li> </ul> <p>モデル実験をグループで行う。</p> <p>・外側の砂が削られていたよ。 ・内側は小さい粒がたまっているね。 ・外側は流れが速く、内側は流れが遅いよ。</p>	<p>つまようじを立てる位置で、観察するポイントが正しくもっているかを観る。</p> <p>各グループの実験をまわり、分かったことは何かを問いかける。</p>
ふりかえる	曲がっている川の外側と内側の流れの速さと働きを関係づけてまとめることができる。	<p>追究し、分かったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>曲がった川の内側は流れが遅くて、流されてきた土砂が積もって川原ができる。</li> <li>外側は流れが速く、土地を削り、土砂を運ぶ働きが大きい。</li> </ul> <p>大きな川の崖になった様子や川原の様子を観る。</p> <p><b>まとめ</b></p> <p>曲がった川の内側は流れが遅いので、土砂をため、外側は流れが速いので、削る働きが大きいことがわかりました。</p>	<p><b>評価規準</b></p> <p>流れる水の速さと働きの間係を結びつけて考えている。 Bへの手だて</p> <p>水の働きがちがう原因は何かを問いかけ、速さがちがうことによって働きが変わることに気付かせる。</p>  <p>グループで関わり合って実験を進めていた姿を評価する。</p>

## 5. 授業後の考察



### 理科の授業としての楽しさ

#### 必然性のある課題設定

導入の事象提示で、曲がった水路を提示した。前時までは、直線的水路を使っての実験であったために、その違いから曲がった所での水の動きを調べていく視点を明確にすることができた。この時、グループ実験で使う実験装置を使って提示したことで方法までの見通しをもたせることができた。また、単元の導入で肥田川の観察に出かけ、川原がどのような所にできているのかを調べてきている。その事実とつなげ、「外側は削られて、内側は土がたまるのではないか」と予想をもつことができた児童に「どうして?」と問いかけた。そのことによって、内側と外側の速さの違いが要因となるのではないかという説明がなされ、課題へとつなげることができた。また、「水路が曲がっていても、直進してしまうのではないか」という対立意見も出されたことによって、さらに『調べてみよう』という意欲をもつことができた。

#### 評価規準を意識した指導・援助

『流れの速さの違いが水の動きの大きさの違いを生み出していること』が捉えられているかを、実験中、及びノートへの記録をしているときに評価し、指導を行った。

実験中では、「どんなことが分かった?」と問いかけ、事実確認をした。その中で水の速さが要因となって『削る、運ぶ、ためる』といった水の動きの違いが出てきていることが捉えられていない児童に、「どうして内側と外側の水の動きが違ってしまわないかな?」と問いかけ、水の速さが要因となっていることに気づかせていくことができた。

### 仲間と学習するよさや楽しさ -互いに鍛え合う集団-

#### 見つけたことを互いに確認し合う

自分の見つけた事実や考え方が仲間から認められることが、学ぶ楽しさにつながるものと考えている。本時では「ここ見て!」という声上がり、「わあー、削れとる」と自然な形で互いに事実確認をしあう姿があった。また、事実確認だけでなく「どうして?」と考え方まで交流する姿も出てきた。

また、結果が違ったグループに対して「あれ、2グループは違う結果だったよ。どんな結果になったか聞いてきてごらん」と促したことから、自分たちの結果がおかしいことに気づき、実験をやり直すことができた。それぞれの活動場所が離れていたため、このような指導、援助も仲間と学習することのよさを味わわせることにつながったといえる。

#### 役割分担

実験は、生活グループで行った。前時までは、水をタンクに入れ流す役、水路を作る役、水の速さを調べるためにチヨークの粉を流す役、記録の役割などの分担を行い、ローテーションした。児童の様相として、始めは役割を意識し行っていたが、繰り返し実験をしていく中で、自発的に役割を果たしていく姿があったため、本時では特に役割を明確にしないで実験に入った。水路を仲間と一緒に作っている姿や、タンクの水がなくなった時、「私が入れてくる」といって走って水を汲みに行く姿など、自然な形で役割分担を行うことができた。このような姿が出てきたのは、自発的な活動の良さを学級経営の中核に位置づけてきた成果ではないかと考える。

#### <成果と課題>

適度抵抗のある問題提示、厳選された教師の発問、及び魅力ある教材・教具が児童の学習意欲を引き出し、必然性のある課題設定をすることができる。

評価規準に対して、どこでどのように評価し、どのように指導・援助していくかまでを明確にもつことで、『分かる楽しさ』につなげることができる。

自分の見つけたことをその場で確認していくことが、仲間とのかかわりを生み出し、学び合う学習集団を形成する。児童の曖昧な表現について、正しい用語を使って表現させていく必要がある。そのことが基礎的・基本的な学習内容の定着につながり、さらには仲間とのかかわりを深めていくものとなる。

## ニューフェイスの紹介

今年度、土岐市へ着任された初任者の半年間を終えての思いを2か月にわたって紹介します。

### 土岐津小学校

#### 大坪可織



「一発起立をします」「はい」「起立」、これが私の学級の授業の始まりです。そこから、元気な子供たちとの鍛え合いが始まります。

職員室で耳にする「今夜、何時までおりゃあす？」という東濃弁にも違和感がなくなりました。

土岐市で「先生になってよかった」「子供ってすごい」と思えるような実感を積み重ね、教師として成長していきたいと思っています。

### 下石小学校

#### 加藤幸子



土岐市に来て半年。なかなかうまくいくことは少ないですが、周りの先生方や明るく素直な子どもたちに支えられて、充実した毎日を送ることができています。これからも、少しでもたくさんの時間を子どもたちと過ごすことを大切に

にしたいと思います。私自身、子どもたちと真剣に向き合い、成長していける教師を目指して、常に学んでいきたいと思っています。

### 妻木小学校

#### 鈴木佑実



初めての東濃、土岐市に赴任してはや半年。不安半分、期待半分で始まった教員生活ですが、純粋で元気いっぴいな子どもたちや温かい先生方、地域の人々に支えられ助けられながら、充実した日々を送っています。また、子どもたちとしっかり向きあい、様々な困難に立ち向かっていく中で、学ぶこともたくさんあります。

心を伝え、成長する喜びを共に味わっている教師を目指して努力し続けていきます。

### 駄知小学校

#### 田中直仁



土岐市のよさをいっぱいに感じています。先日はどんぶり祭りにも参加して、自分の教え子と触れあえる機会がありました。この土地で初任者としてたくさんのことを学ぶことができ、本当に幸せです。研修では、「人が人を教える」ということの大切さを教えていただきました。生身の子どもを教えるということをいつも忘れずこれからも頑張っていきたいです。

### 肥田小学校

#### 木下翔太

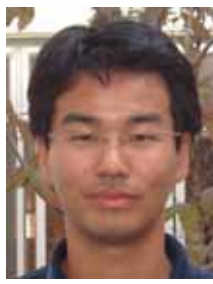


「学校は楽しいところである」教員になって6か月、土岐市へやってきて6か月、肥田っ子たちと出会って6か月。毎日が、本当に充実しています。

私は、幼稚園の頃から「先生になる」と言っていました。やりたいことが自分の仕事だというのは、何て幸せなことなのでしょう。これから、一人でも多くの子どもに、学校の楽しさを伝えたいです。

### 泉小学校

#### 長尾豪哲



赴任当初の四月は、慣れぬ土地で右も左もわからない中で、すごしていました。半年が経ち、かわいい子どもたちや、温かい地域の方々に支えられ徐々にですが慣れてきました。また、様々なことを教えていただける先生方がまわりにみえます。そのためつらいときも苦しいときもがんばって過ごせています。この一期一会の出会いに感謝しています。



### 泉小学校 香田 綾

不安と期待の入り混じった4月から、早いもので6か月が過ぎました。周りの先生方の温かい支えと、かわいい子どもたちの笑顔に励まされ、今までがんばってこられました。このような日々の中で、教師ほど人と人との関わりの深い職業はないと実感しました。人と人との関わりを大切にしながら、教師として、人として成長していきたいと思っています。



「応援します」 各界の方から

東濃教育事務所教育支援課  
人権同和教育担当主事  
石井 幹也

## 差別は必ずなくなる

人権後進国日本

ある病院に行ったときの事です。駐車場の脇に点字ブロックがあり視覚障害の方を病棟に案内できるようにしてありました。また、そこにはこんな貼り紙もありました。

「点字ブロックの上に駐車しないで下さい」私はこの貼り紙が、周りの景観をひどく汚しているように思えました。人権感覚の低さを嘆きながら診察室へと向かいました。その後、診察を終えて再び駐車場へ戻ったとき、その嘆きはさらに深いものになりました。なんと3台の車が、点字ブロックをまたぐように駐車をしていたのです。そのうち2台の運転席には車椅子マークがありました。

ここに駐車した人は、貼り紙が見えなかったのでしょうか。ブロックを頼りに歩いてきた人が、けがをするのではないかと心配にならなかったのでしょうか。人権後進国といわれる日本の現状を見せつけられた気がしました。

日本人はなぜ人権に弱いのか。それを紐解く鍵が歴史の中にあります。人権はキリスト教から生まれた欧米の思想であり、長い時間をかけてじっくりつくり上げられてきたものです。それに対して、日本には明治維新まで人権という言葉がありませんでした。そして Human Rights の Rights を「権利」と訳しました。これにより「人間であることの無条件の是認」という人権の本来の意味が、権利という言葉のもつ利害や損得といった感じの意味合いにかき消され、現在に至っているのです。このことは、点字ブロックをまたいで駐車する日本の現状に、つながってくるように思えるのです。

差別の解消と人権同和教育

さて現状を嘆いたり、歴史に原因を見出したりしているだけでは、人権後進国のままです。

この汚名を返上し、日本に人権文化を構築するためには、我々は何をすればよいでしょうか。

それには、自分の大切さと共に、他の人の大切さを認めることのできる児童生徒を育てることだと思います。こういった児童生徒がやがて自分の人権を守り、他の人の人権を守る大人になるはずです。

このような児童生徒を育てる上で大切になってくる力の一つに「想像力」があると思います。人を思いやることができるのは、人の痛みが分かり、それを自分のことと思えるからではないでしょうか。この想像力は本来、小さい頃の仲間との遊びの中で芽生え育っていくものです。しかし、今、子供たちの遊びは、仲間との関わりより機器との関わりが多くなりつつあります。

よって、学校での生活や遊び、様々な体験的な活動等を通して、想像力を育てていくことが、ますます重要になっていくと思います。

差別はなくなるか

この問いに対して私は、無理だろうと考えていました。しかし、今は違います。

15世紀のヨーロッパのドイツやフランスなどでは、<sup>けいり</sup>刑吏や<sup>かわはぎ</sup>皮剥などへの差別がありました。しかし、この差別は近代社会の中で消えていったという事実があります。平成14年に行なった人権に関する県民意識調査の結果を見ても、結婚に際して同和地区であるかどうかは関係ないと回答したのは、若い世代ほど高くなっています。

差別は人間がつくり出したものです。ですから人間によってなくすことも可能なはずです。人間尊重の気風のみなざる学校で育った児童生徒たちは、必ず日本に人権文化の花を咲かせると思いたいものです。

# 雑草たち

肥田中学校 子安秀明

これまで多くの子どもたちとの出会いがありました。どの子にもそれぞれのよさがあり、そのよさが絡み合いながら、互いに助け合い、力を合わせて頑張っていました。とかく学力や運動能力などに優れた子どもに目がいきがちですが、目立たない存在でも一人一人のよさに目を向ける事の大切さを教えてくれたのが次の『雑草たち』の詩でした。

## 雑草たち

どの草もどの草も引きぬくと  
自分自分の香を放つ  
かやつりはかやつりのどくだみはどくだみの  
このかやつりやどくだみのように  
己自身に安立して香を放つ  
素晴らしい私に、素晴らしいあなたになる時  
自ら互いに引き立て合って  
この世の中を荘厳にしていくのだ  
この世の中の全ての物が  
傷つけ合いそこない合うのではなく  
互いに引き立て合い保ち合って  
生きているのだ。

この詩は、ある学校に勤務したときの校長先生からいただいた詩です。作者名は分かりませんが、私の心に強く残り時々読み返しては、「一人一人に必ずよさがある」「お互いのよさを活かすことが大切」と心を新たにしています。

学級のまとまりのために必死になって呼びかけてくれる生徒、黙々と清掃活動に取り組む生徒、テストに向けて必死に努力する生徒など、目立たない存在だが、一人一人が自分の個性を磨き、仲間と力を合わせ頑張っている多くの生徒の姿が思い浮かんできます。

肥田中学校の校訓は『一芸に秀ずる』です。

これからも、一人一人のよさ(個性)をのばし、そのよさがバランス良く保たれることによって、素晴らしい集団づくりができることを大切にしていきたいと思います。

## 掲 示 板

東濃地区中学校体育大会

駅伝 女子 土岐津中学校(3位) 西陵中学校(5位) 【県大会出場 11/11(土)】

区間賞 女子 1区 梶田早紀(土岐津中) 4区 戸松千映(西陵中)

5区 土屋りお(土岐津中)

岐阜県児童生徒科学作品展 東濃地方展 優秀賞は県展へ出品されました。

優秀賞

土岐津小学校 1年 いまい ほのか

妻木小学校 3年 小椋 敬太

駄知小学校 4年 水野 沙耶

肥田小学校 5年 木股 孝仁

濃南中学校 1年 木村 健太

泉小学校 3年 古田 知宏

泉小学校 4年 水野 里香

駄知小学校 6年 水野 奈穂

肥田中学校 2年 纈織 拓人

優良賞

妻木小学校 1年 かとう なほみ

泉小学校 2年 いち原 なえ

泉西小学校 2年 土田 花栄

妻木小学校 4年 加藤 有美恵

駄知小学校 5年 伊牟田 凌雅

泉西小学校 6年 土田 裕子

駄知中学校 1年 塚本 健文

泉中学校 3年 小栗 充裕

駄知小学校 1年 つかもと じゅんいち

泉西小学校 2年 もりや じゅら

駄知小学校 3年 今津 裕太郎

泉小学校 4年 林 将生

肥田小学校 6年 加藤 愛

西陵中学校 1年 林 謙吾

駄知中学校 3年 大澤 華織



土岐市 教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.414  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成18年11月30日  
題 目 白石 聰 教育長

撮影  
肥田小学校  
井口 豪  
教頭



全国植樹祭記念植樹



『自然に学ぶ』

## つぐら

土岐市教育研究所長 楓 正敏

いよいよ本格的な冬を迎え、各地では冬支度が始まっています。昔は今のようにスーパーに行けば食料が手に入る時代とは違って、冬の食料として野菜などの保存を考えなくてはなりません。漬け物にしたり、乾燥させたりと様々な工夫がされてきました。

東濃地方には大根や蕪、里芋などをそのまま保存する方法が伝わっています。呼び方はいろいろあると思われませんが、この辺りでは『つぐら』と呼んでいる野菜の貯蔵庫がそれです。畑の隅に、直径1メートルぐらい、深さ数十センチぐらいの円筒形の穴を掘ります。その中に大根などの野菜を詰め込んで上からわらでつくった、とんがり帽子のような蓋をしておくのです。そこから必要なだけを取り出して食料とします。この方法で貯蔵しておく、春まで凍ることも腐ることなくそのままの鮮度で保存できるのです。最近は冷蔵庫にも野菜室とい

うものができて、長期にわたって保存できるようになってきましたが『つぐら』にはとうてい及びません。つぐらの中は野菜にとって快適な環境だといえます。

その理由は、まわりを土とわらで囲われているために、適温で保温され土の湿り気で湿度も保たれているからだと考えられます。また、わらの隙間によって通気性もあります。そういえば、人間も登呂遺跡にあるような住居に住んでいた時代がありました。

さて、冬になるとかぜの流行が心配されます。うがいや手洗いの励行はもちろん大切ですが、子ども達が生活する教室を快適な環境にしておくこともかぜの予防には重要です。どの学校も暖房設備が完備していて寒さ対策は大丈夫ですが、問題は湿度と通気です。適度な湿度を保ったり換気に努めたりするなどの工夫をして、元気にこの冬を過ごして欲しいと願っています。



1 はじめに

子どもたちが生活の中に経験の少ないマット上で楽しみながらいろいろな転がり方を体験することで、もっと運動したいという気持ちがわいてほしいと願い、研究実践した。

2 研究内容

(1) 基礎・基本の明確化

基本・基本を明確にする手順と方法

基礎・基本を明確にした単元指導計画の作成

(2) 基礎・基本の獲得を目指した学習過程の工夫  
学習課題の工夫

仲間と共に高まり合う追究場面の工夫

3 授業実践 3年生 体育「基本の運動」

器械・器具を使つての運動～マット運動～

<研究内容1>

前転、後転の一連の動きを分析し、回転感覚を身につける初歩的技能として「ゆりかご」を準備運動に取り入れた。それをステップとして前転、後転ができるようにする。

単元のはじめは、揺れの角度が小さかったが、徐々にまっすぐに揺れたり、手を耳の横につけたまま揺れたりさせ、ほとんどの子が360度回転(1回転)できるようになった。後転については、第4時に8人だけまっすぐに回転できたが、その後の準備運動「ゆりかご」の時にほとんどの子が回転できるようになった。

単元指導計画では、毎時間マット運動に合った準備運動2種類を取り入れた。

「パワーアップ体操(1,2年生の時に行った動き:マットなし)」 蛙の足打ち、アザラシ、おおかみ、手押し車

「慣れの運動(1,2年生までに行った動き:マットあり)」 蛙跳び、ゆりかご、ブリッジ、横転がり

リズムカルな音楽を流しながら約7分で終了するようにした。次の種目に移るときには、終了の合図をタンバリンの音を2回鳴らし、次の種目名を指示した後に1回鳴らしてテンポよく進めた。(約7分間)

<研究内容2>

子どもが楽しみになるようなゲームの要素を取り入れ、オリジナルの単元にした。

第1時:アザラシとおおかみゲーム

アザラシ(仰向けでおしりを浮かせた後ろ歩

き)とおおかみ(四つんばい)になって、おおかみがアザラシを捕まえる。

第2時:まぼろしの前転

膝を使って遠くに着手し、回転する。

第3時:ボールキャッチゲーム

風船またはドッジボール0号球を前方上に投げ上げ、前転をしてキャッチする。

第4時:天使の後転

はじめに勢いをつけてお尻をついて回転する。

第5時:おにごえ前転

ダンボールに描いた鬼の絵を飛び越えて前転する。

第6時:発表会

ペア学習と見合っ子会を取り入れた。

練習試技をする前に見てもらふポイントを必ず言うよう指導した。試技をする子:「いくよ」、ペアの子:「いいよ」の後、試技をする子が「スピード」「手」「両足キック」など具体的に見てもらふところを言うようにさせた。見る子は、ポイントについて、試技した子にアドバイスしたり、ほめたりするようにした。

見合っ子会(授業の中で全員が集まりコツを見つける時間)において、よい動きとよくない動きを見比べさせ、コツを見つけられるようにした。例えば、大きく前転できるように手をついたときに足はどうなっているか注目することを言い、足だけを見させた。すると、「両足でマットをキックした」「強く蹴っている」などよい動きを見つけられた。

見つけたコツを全員ですぐに実践し、体得できるようにした。まぼろしの前転がダイナミックにできるようになった子が27人中24人(最初は8人であった)に増えた。

4 成果と課題

- ・毎時間、授業のはじめに基礎の動きを活動に入れることで、基礎的な体力をつけることができ、技能を獲得する子が増えた。
- ・技能を見るポイントを絞って見せたことが、練習で意識するポイントやアドバイスに役立った。また、動きを見る力がつき、ポイントを意識した練習ができるようになった。
- ・ゆりかごの動きは、後転に非常に役に立ったが、前転の中心となる技能は、「ゆりかご」でなく、頭を入れたり後頭部をついたりという部分になる。

## 1 はじめに

本校は平成17年度より市の教育課題研究推進校の指定を受け、上記の研究テーマで実践を進めている。「自ら課題を持ち、学んだことを生かして精一杯解決しようとする生徒」「仲間とのかかわり合いを通して自己の学びを深めていく生徒」をめざす姿とし、「教科の基礎・基本の力をつけるために仲間とのかかわり合う場を生かす」という立場に立った授業をめざしてきた。

## 2 研究内容

### (1) 生徒に必然性のある課題の設定の工夫

生徒の意識や実態をふまえた単元指導計画の作成  
単位時間ごとの素材と課題化の工夫

### (2) 個人の追求や活動の足場を持たせる指導・援助のあり方

課題に対する生徒の反応を予測した個に応じた指導・援助

### (3) 自分の考えや活動を伝え合う場の設定の工夫

本時のねらいを達成するためのかかわりの場と設定

かかわりの場における生徒の発言や活動の組織化  
学習の深まりを自覚する自己評価のあり方

## 3 授業実践

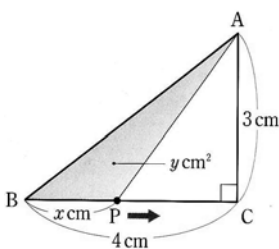
2年数学科では、実力コースと基礎コースに分かれて習熟度別少人数指導を行っており、ここでは実力コースにおける実践について述べる。

単元名「1次関数」1次関数の利用

### <研究内容(1)>

単位時間ごとの素材と課題化の工夫

**【問題】** 直角三角形ABCの辺上を点PがBからCを通過してAまで動く。ABPの面積はどのように変化するだろうか。



導入では問題文と図を提示し、面積の変化をイメージさせ、予想を交流した後、パソコンで三角形の面積の変わる様子をシュミレーション

した。途中で変化の仕方が変わるような事象は初めてであり、「面積はどのように変化するか、 $x$ と $y$ の関係を表や式やグラフに表して、もっと詳しく調べよう」と課題化を図った。

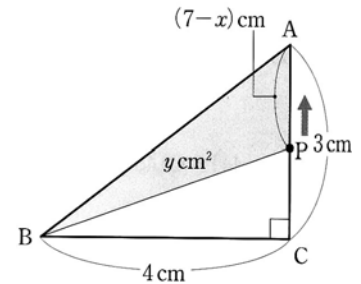
### <研究内容(2)>

個に応じた指導・援助

課題に対する生徒の反応として、次の3通りを予想し、手だてを考えた。

**ア**...面積の公式から文字の式を作り、グラフに表す。

- ・  $4 \times 7$ の式が作れない生徒  
底辺・高さをどこを見るか、底辺を文字でどう表すか考えさせる。



**イ**...表をつくり、関

係を見つけて式を作り、式をグラフに表す。

**ウ**...表をつくり、点を取ってグラフをかきグラフから式を作る。

- ・ 自分で足場を持っていない生徒  
1 cm進むごとの表を作って考えるよう促す。

### <研究内容(3)>

かかわりの場における発言や活動の組織化

本時、実力コースは**イ**の手順で取り組む生徒が多く、**イ ウ ア**の順で発言を組織しようと考えた。**追求の場のかかわり**として、全体交流では、表からその式ができる根拠や、グラフから式ができる根拠をはっきりさせて発言するようにした。**ア**のように公式で考えた生徒はこのクラスで1人だけであった。その生徒は  $4 \times 7$ における式を  $y = (7 - x) \times 4 \times 1 / 2$  と作ったものの、その根拠がよくわからないと言うので、全体に返して考えさせた。初めは「面積が減っていく時に公式で考えれるの?」と言っていた生徒も式を見て考え、「すごい、わかった!」と反応し、前に出て考え方を説明した。このあと**確認の場のかかわり**として、**ア**の考え方をペアで説明し合い、理解を図った。

## 4 今後の取り組み

本時のねらいを達成するためのかかわりの場において、生徒間で深めていくことを願いながらも、教師が出過ぎてしまったことがあった。生徒自らねらいに迫るために、生徒に見つけさせることと教師のかかわり方についてより吟味する。また、生徒に「かかわり合い方」を指導するステップを明らかにしていきたい。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

囑託研修員会 泉小学校 清本 直子



## 1. はじめに

体育の授業を通して、「生涯にわたって運動に親しんでいく態度と能力を養いたい」という願いをもって、日頃の授業実践している。それには、運動そのものの楽しさを味わったり、運動をしたりすることを通して、上達の喜びや仲間と共に活動することのよさや楽しさを味わう経験が大切であると考えている。そのような経験を多くすることが、体育の授業の「学ぶ楽しさ」につながり、運動意欲の向上につながると考える。

## 2. 研究構想

研究主題 自ら課題を持ち、進んで運動に取り組むことができる児童の育成  
～一人一人が生き生きと活動し、充実感を味わえる授業づくりを通して～

体育の授業において、児童の実態をとらえ、課題となる姿の要因を分析し、身につけさせる力と指導内容を明確にすること、毎時間の基礎・基本のとらえと明確な課題づくりをし、身につけさせる力を充足させるための指導方法や援助を工夫することを大切にすることで、『運動の特性』や『教科の本質』に迫ることができる。そして、児童一人一人が充実感を味わい、生き生きと活動できるようになると考える。

### 学びの質を高める指導

必然性のある課題設定

- ・「運動の見方」を身につけさせ、「つかむ・できる・振り返る」の各段階での自己評価・相互評価によって自己の課題をきちんと持たせるようにする。
- ・運動習熟や様相発展のみちすじを明らかにし、つまずきや課題が児童にも分かりやすいように提示を工夫する。

評価規準を意識した支援

- ・身につけさせる技能・学び方について、各様相で評価すべき重点を明確にする。
- ・終末において課題について客観的に評価ができる工夫をする。
- ・確実に力をつけさせるために環境設定を工夫する。

### 学び合う学習集団

仲間のよさを認め合い、互いに鍛え合う集団

- ・「運動の見方」を身につけさせ、相互援助活動を位置づけることで、適切な課題設定をねらう。また、互いに声をかけたり、頑張りや伸びを認め合ったりできる雰囲気作りをする。
- ・単元やゲームにおける約束やルールを意識して授業やゲームに臨む姿勢を大切にする。

土岐市の教育課題

学ぶ楽しさのある授業

### 3. 授業実践の構想

(領域・単元名 ボール運動 『バレーボール』 全9時間)

今回は、『バレーボール』の実践を通して、主題に迫ることとした。『バレーボール』は現行の学習指導要領で新たに加わった単元である。ネットをはさんで攻防を展開し、ボールを打ち合うゲームであり、攻守が入り交じるバスケットボールやサッカーと比べると攻防の切り替えが分かりやすく、一人一人のチーム内での位置やメンバー相互の連携が分かりやすい特性がある。

また、チームゲームであることから、「協同して勝つ」集団の課題が本質的に存在し、ゲームの中で、互いに位置や役割を責任持って果たすなどの集団的場面の特性を持った競技である。ラリーの楽しさを味わったり、仲間とカバーし合ってパスをつなぐ楽しさを味わったりできることが『バレーボール』の「学ぶ楽しさ」であると考えている。



#### 単元構想

教科の本質に迫るためにめざす児童の姿

- (技能) カバーし合ってボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームができる。
- (態度) 互いに協力し、アドバイスをし合って練習やゲームができるようにする。また、勝敗に対して正しい態度がとれるようにする。
- (学び方) 自分のチームの実態に応じた作戦を立て、ルールを工夫した練習やゲームができる。

#### 学びの質を高める指導

必然性のある課題設定

- ・運動習熟や上達のみならず児童にも分かりやすく提示し、理解させておく。
- (動きを的確につかむ力を育てることをねらい、うまくなるコツを児童の言葉で提示する)
- ・自分やグループの実態をきちんと把握させ、つまづきを克服するための課題を持たせる。
- 評価規準を意識した支援
- ・運動習熟や様相発展をねらった環境設定の工夫
  - コートの大ささ
  - ネットの高さ
  - パスの制限
  - ボールの選択

#### まとめ (リーグ戦)

- ・ラリーを制し得点する楽しさを味わう
- ・「うまくなった」喜びを味わう

#### 展開 (基底技能の見届け) 本時

- ・抽出練習
  - ・ゲーム(ゲーム記録の活用)
- 判断力に対する評価

#### 展開 (基底技能練習)

- ・前半練習に位置づける
- 準備運動の中に包括
- ・ミニゲーム 前半練習+後半練習
- (試しのゲーム+本ゲーム)

#### 計画(単元の見通しを持つ)

- ・技能の実態つかみ(パス技能)
- ・試しのゲーム(様相)

#### 学び合う学習集団

- 仲間を大切にできる役割分担をしたり、相互援助活動を仕組んだりする。
- ・その中で、互いの姿を見合い、声をかけたり、頑張りやのびを認め合ったりして、一緒に上達しようと取り組む姿を見逃さず、価値づけをする。
- ルールを守る
- ・自分たちで決めた約束やルールを誰もが意識して守るようになるため、単元のはじめや途中でルールを自分たちで決めたり、見直しをしたりする場を設ける。

#### 児童の実態

バレーボールの経験がない児童がほとんどである。しかし、バドミントンや卓球はやったことがあり、ラリーが続くことで楽しいと感じた経験のある児童が多い。運動能力における個人差は大きいですが、メンバー相互の連携が不可欠なバレーボールでは、互いに関わり合う中で仲間と活動することの楽しさや運動そのものの楽しさ、上達の喜びも味わうことができると期待している。

## ニューフェイスの紹介 その2

### 西陵中学校

#### 岩田健志



私は中学生の頃から教師になることが夢でした。それが実現でき、とても充実した生活を過ごすことができています。ですが自分の力のなさを痛感する毎日でもあります。そんなとき自分の心の支えになってくれるのはやはり子どもたちの元気な笑顔です。子どもたちと笑顔を共有して、子どもたちの一番身近な先生でいられるよう、これからの教師生活を送っていきたいと思います。

### 西陵中学校

#### 尾崎鈴子



明るく元気な生徒たちに囲まれ、あっという間に半年が経ちました。先日終わった体育祭では改めて子どもに潜在する力の大きさを実感し、こんなにも素晴らしいものを創り上げられるのかと胸が熱くなりました。日々前進していく生徒たちに負けないよう、共に沢山のことを学び、教師として成長していきたいと思います。

### 濃南中学校

#### 加藤祥子



「生徒の気持ちに寄り添って、真剣に向き合える教師になりたい」、そんな思いで教師としての第一歩を踏み出しました。うまくいかないで悩むこともあります、「できたね!」と生徒と手をとって喜び合う時、教師という仕事のすばらしさを感じます。毎日新鮮な気持ちで、生徒と共に成長していきたいと思っています。

### 泉中学校

#### 梅村亮介



泉中に来て、半年以上が過ぎました。初めての東濃地区、初めての学校、初めての担任。初めてづくしで右も左もわからない自分でしたが、ようやく自分が進むべき道がわかるようになってきました。しかし、たかが半年で慣れたような気持ちではいけません。東濃地区にいる限り、自分は初任者であるという意識を持ち、日々精進していきたくです。

### 泉中学校

#### 木屋美里



以前東濃地区の中学校で働いていたこともあり、また戻ってこられたことを嬉しく思いながら、私の教師生活がスタートしました。最初は緊張もありましたが、何よりも生徒がとても素直で、仲間を大切にする子たちだからこそ、6か月があっという間に楽しく過ぎていきました。これからも周りの先生方にご指導をいただきながら、生徒と共に歩んでいきたく思います。

### 肥田小学校

#### 成瀬慶美（事務職員）



雪の降る3月30日に土岐の地へ来てから、あっという間に6か月あまりが経ちました。慣れない事務の専門用語に苦戦しながらも、本当に多くの方々に支えていただき、充実した毎日を送っています。まだまだ未熟で力不足ではありますが、教育、福利厚生や電話対応等の社会マナーなど幅広い知識を身につけ、諸先輩方のように信頼される事務職員になれるよう、前向きに仕事に取り組んでいきたく思います。

### 給食センター（肥田小学校）

#### 岡田春海



何もかもが初めての土地、土岐市に来て半年以上がたちました。初めて知ること、慣れないことがまだまだ山積みの毎日です。しかし、多くの方々の温かさや厳しさに支えられて、その中で学ぶことのできる自分がとても恵まれていると思います。早く一人前になれるよう、これからもたくさんのことを学び続け、成長していけるよう頑張りたいです。



土岐市の子どもたちのために頑張ってください。

「応援します」 各界の方から

## 総合型地域スポーツクラブ

～生涯スポーツ社会の実現に向けて～

土岐市教育委員会

スポーツ振興課スポーツ主事

山田 鏡一

### 総合型地域スポーツクラブとは？

あまり馴染みのない言葉かもしれませんが、平成12年度に策定された国のスポーツ振興基本計画には、生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境整備のための重点施策として「10年間で、全国の各市町村において、少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブ(以下クラブ)を育成する」という目標が掲げられています。成人のスポーツ実施率(1週間に1回以上スポーツをした人の割合)を約40%から50%以上に引き上げるのが具体目標です。地域の方々が中心になって、気軽にスポーツができる場所づくりをしています。県内では既に40以上のクラブが誕生しています。東濃地区に於いても瑞浪市稲津町の稲津文化スポーツクラブ(仮称、平成19年4月設立予定)は既に350人の参加者があります。本市は土岐津っ子スポーツクラブが平成17年4月よりスタートしましたが、小学生のみの単一クラブであり、総合型(小学生から成人・高齢者まで)には至っていません。

### 生涯スポーツ社会の実現に向けて

先生方は現在何かスポーツをしていらっしゃいますか。



やいますか。体育の授業や運動会など日頃から体を動かすチャンスに恵まれていると思いますが、仕事ではなく純粋に楽しむスポーツを継続していらっしゃる方は、日々の仕事量を考えると少ないように思います。学生の頃はトップアスリートとして活躍していても、現役を引退すると、そこから遠ざかってしまうケースが少なくありません。働く世代にとってのスポーツ環境は、学生時代と比べて必ずしも整っているとはいえないのです。また一般的なスポーツは、勝敗を争う競技スポーツが多いことから、体を動かすこと自体を楽しむスポーツは限られています。適度な運動は健康維持やストレスの解消などに大変有効です。いつでも・誰でも・いつまでも・誰とでも気軽に体を動かすことができる生涯スポーツ社会、それを支えていくひとつの手立てが総合型地域スポーツクラブです。学校も地域の一員として積極的な関与が求められています。クラブの関係者と一緒になり、地域で大人世代と子どもたちのスポーツ交流会などができるかもしれません。

スポーツ振興課は、ドッチビーやキンボール、ビーチボールバレーといった競技性を低くして誰もが簡単に楽しめるスポーツを紹介しています。まずは、学級遊びや職員スポーツに取り入れてみてはいかがでしょうか。

<お問い合わせ> スポーツ振興課

54 - 1111 (内線276)

<写真> 土岐市スポーツフェスティバルで  
ストラックアウトを楽しむ参加者  
(体育の日)

## 得をした気分を求めて！

西陵中学校 中野克義

私は立場上、対外的な行事や大会等に顔を出すことが多くあります。先日次のような経験をしました。

西陵中学校は、女子の部で東濃地区の代表として県の駅伝大会に辛うじて出場することができ、応援に出かけました。各校の選手がタスキをつなぐ団体種目のためか応援の人も多く、各校の先生方の熱い思いに触れ、自分の若い頃の部活指導を思い出しました。成績は24チーム中15位でしたが東濃大会を上回る力走で上出来だと感じると共に、2年生のチームだけに来年はチャンスだと実感しました。

土曜日の夜、校区の公民館でコンサートが開催され、選択教科の授業で琴の学習をしている15名ほどの生徒が出場しました。外部指導者の方の生徒に発表の場を経験させたいという熱い思いにより実現しました。短時間でよく仕上げたものだと感心しました。高校生や一般の方の演奏もあって1時間

ほどのコンサートでしたが、一つのことには打ち込む素晴らしさ、琴という楽器の奥深さや演奏の多様性に触れることができ、琴を見直す機会となりました。

この他にも様々な機会がありますが、使命感で仕方なく参加するより、何かを得ようとプラス思考で参加すると充実感を味わえると感じています。

もう一つは校内のことですが、朝の部活動を行う時間帯に校舎内を見回った時、予想を上回る多くの部活動を引退した3年の生徒が、昇降口だけでなくワークスペースやトイレまで自主的に黙々と掃除をしていました。ボランティアの心の広がりを感じると共に、生徒の光る姿を発見し、その日は得をした気分を一日を過ごすことができました。

このように積極的に生徒の活動につき、光る姿に多く触れ、得をしたいと思っています。

### 第50回岐阜県児童生徒科学作品展

優秀賞 濃南中1年 木村健太 快適な生活環境“2006年 夏”～人と環境にやさしいエコカラーを作る～

### 2006年 岐阜県発明くふう展

発明協会会長奨励賞 泉西小 4年 村井一勢 「一勢式等分器 号 号 号」

### 土岐市読書感想文コンクール

金賞<自由読書> 鶴里小2年 あら町かず音

妻木小4年 岡崎栞奈

土岐津小5年 大嶋芳宗

駄知小6年 塚本怜子

肥田中2年 木股亜紀

泉中2年 籠橋美樹 西陵中3年 水野智香

<課題読書> 泉小1年 なかやま こうのすけ

妻木小2年 まつうら たくや 肥田小2年 安田七海

肥田小3年 熊崎公祐

泉西小3年 小木曾溪人 肥田小4年 加藤功一郎

泉西小5年 小木曾歩美

鶴里小6年 土屋奈央 泉中3年 伊藤絵理

### 土岐市小学校陸上記録会 各種目1位記録

#### <男子>

1000m走	今井 雄士	下石	13秒1(新記録)
1000m走	愛知 千明	泉西	3分16秒
80mH	今井 雄士	下石	13秒4
ソフトボール投げ	山崎 拓耕	泉西	52m35cm
走り幅跳び	中嶋 友哉	妻木	4m55cm
走り高跳び	籠橋 宣彰	泉西	1m30cm
400mリレー	下石小学校		56秒6

#### <女子>

山路 祐月	土岐津	14秒3(タイ記録)
中村 有里	泉	3分36秒
福岡万朱允	駄知	13秒8
奥田菜都美	下石	41m38cm
佐藤 綾花	肥田	3m83cm
志水 亜衣	泉西	1m23cm
泉小学校		59秒3



土岐市 教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.415  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成18年12月26日  
題 目 白石 聰 教育長

撮影  
駄知幼稚園  
肥田 佳奈  
先生



「ちょっと、ここもってね」  
グループで協力して動物作り



恵風荘のおじいさんやおばあさんと  
手遊びをしたよ！

『自然に学ぶ』

## ロゼット

土岐市教育研究所長 楓 正敏

寒さが強まり、大地を覆っていた緑もすっかり消え、枯れ草が目立つようになってきました。いよいよ冬本番です。畑のニンジンにも変化が表れ始めました。まだ暖かった頃には葉が上に向かって勢いよく茂っていたのですが、その葉が倒れて地面にへばりつくようになってきました。ニンジンのように冬になると葉を地表に平らに並べた状態になる植物はたくさんあります。道路わきに生えているタンポポやオオバコ、アレチノギク、ヒメジョオンなどはその代表です。茎を伸ばさないで葉を一カ所から放射状に配列する状態を、バラの花から由来する言葉で『ロゼット』と呼んでいます。

多くの植物が枯れてしまうのに、これらの植物は厳しい寒さに耐え、冬を乗り切る知恵を持っています。地表にへばりついて葉を広げることで、日光を受けやすくなり

地温にも助けられ寒さに耐えられます。それだけでなく、冬の間も日光によって光合成まで行い養分を根に蓄えていくのです。そのうえ、人に踏まれても最小限のダメージでやり過ごし、たとえ草刈り機などで傷つけられても速やかに葉を再生していく能力も備えています。こうして冬を乗り越え、まわりに背の高い植物が生え始めるとこれらの植物はその中央から茎を伸ばして高さ競争にも参加していきます。

さて、今年もあとわずかとなりました。振り返ってみますと今年ほど教育界にとって厳しい年はなかったのではないかと感じています。教育再生という言葉にはいささか抵抗も感じますが、こうしたときこそ指導力を高めるチャンスになるというようにプラス思考で考えていきたいと思います。





### 1 はじめに

本校では「仲間と共に高め合う授業」を研究主題に掲げ、特に評価と指導の工夫という研究内容に重点をおいてきた。

これを受けて英語科では上記の研究主題を設定し、コミュニケーションに視点をあてて指導してきた。特に言語活動の「聞く、話す」の音声を重視した指導に取り組んできた。

### 2 研究内容

#### (1) 指導計画の工夫

- 各単元、本時における基礎・基本の明確化
- 生徒の意識の位置づけ
- 単元における「つきたい力」の明確化
- 本時の評価規準の明確化

#### (2) 評価と指導の工夫について

- 自己評価の場の設定
- 意欲が高まる相互評価の工夫
- 問題解決的な課題の設定
- 音声でコミュニケーションする時間の確保
- 生徒相互のフィードバックの保障

### 3 授業実践

1年生 英語科 Lesson 6

言語材料：三単現のSの指導

特に単元導入の入口の活動について触れる。

#### 研究内容(1)

##### 単元における「つきたい力」の明確化

前単元で三人称の考え方を、自分(I)と話し相手(you)との違いについて手でその対象を示すなど動作をつけながら学習してきた。

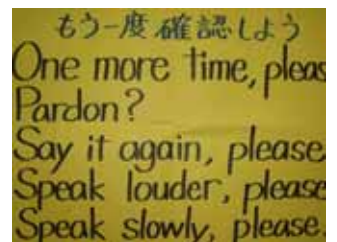
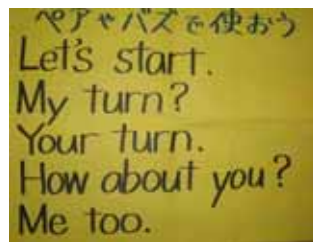
本単元では特に主語が三人称単数で時制が現在の時、動詞にSをつける文法事項が扱われている。いわゆるこの三単現のSの約束が単元の学習を通して身につけ、正しく相手に伝えられるようになることを本単元のつきたい力として指導にあたった。

#### 研究内容(2)

##### 意欲が高まる相互評価の工夫

##### 音声でコミュニケーションする時間の確保

まず、4月当初から次のような表現を紙に書き、板書に位置づけ、主にペアでの対話活動の基本的な約束事として取り組ませてきた。



##### \* の項目にかかわって

文法事項の説明をする前に、I、you、その他の人という関係を確認した。グループ隊形にして、動詞を play に限定し、それぞれを主語にして、行うスポーツについて口頭で文にして言う「メモリーゲーム」を行い、定着を図った。(以下手順)

- ・そのスポーツを象徴的に表すボールなど用具の絵を数点用意する。
- ・グループのリーダーから始め、前に言った人の内容を覚えて自分のことを付け加えて次の人に伝える。

相互評価という点で、次の人に確実に伝えるように覚えて言う必要がある。言えなければその場でお互いの協力によって言えるようにした。

##### \* の項目にかかわって

上記と変わらないが、特に授業開始後の帯活動(毎授業時間の開始時に行うドリル対話式の活動)や単元の出口の活動では、つきたい力が定着するようなコミュニケーションの場を設定することを心がけてきた。

### 4 成果と課題

- ・繰り返すことで躊躇なく英語によるコミュニケーション活動ができる生徒が増えた。
- ・すべての単元で音声重視とはいかないため、系統立てて指導していきたい。

# 「仲間と共に高め合える子」の育成

～国語科における「読むこと」を通して～

下石小学校 高尾 三枝

## 1 はじめに

本校では、高め合う姿を「仲間と共に学習することで、わかるようになる・できるようになる・仲間と比べて新しい考えがもてる・自分の考えに仲間の考えが加わる・自分の考えの根拠が明らかになる」ことだと捉えている。話し合う活動を更に充実させるためには豊かに話し、聞くことだと考え、今年度は言葉の獲得と読み取り方の基礎を育てていくことに重点を置き、実践を進めている。

## 2 研究内容

### <研究内容1> 学習指導・学習活動の工夫

- (1) ねらいの明確化
- (2) 自分の考えをもたせる工夫
- (3) 評価の工夫

### <研究内容2> 単元指導計画の工夫

- (1) 見通しをもたせる工夫
- (2) 着目する言葉や文の洗い出しと位置づけ
- (3) 交流の場の位置づけと出口の表現活動の工夫

## 3 授業実践

第6学年 国語科「海の命」第3場面の授業  
太一が与吉じいさの死を受け入れる場面

### <研究内容1> (2) 自分の考えをもたせる工夫 ・自分の考えの足場になる一人読み

単元のはじめに全文をプリントした一人読みノートで言葉探しをした。ここでは、読みの視点(太一の行動や様子を表す表現 登場人物の台詞や様子を表す表現 海やクエの様子を表す表現)を与えたことで、どの児童も主題につながる言葉を探すことができた。

本時は、3場面の一人読みノートから、一枚ノートの言葉を拾い出し、言葉と言葉を結びつけながら構造図を書き、自分の読み取りを簡単にメモする(約7分間)ことを通して、言葉と言葉をつないで考えることができるようになってきた。



### <研究内容2> (3) 交流の場の位置づけ

・言葉から分かったことをどんどん話す全体交流  
意見を言いたい児童が、指名なしでつなげて発

言できるようにした。よく聞いていないとつなげて発言できないため、緊張感を持ってよく話を聞いていた。仲間の意見を一枚ノートに書いたメモと比べて聞いたので、同じところや違うところをはっきりして、発言意欲が増すこととなった。



C: 与吉じいさの「村一番の漁師・おまへの海だ」という言葉から、太一は一人前として認められ、育て上げてくれたことへ感謝の気持ちをもったと思います。

C: 「毎日魚を届けに行った」ということから与吉じいさへの感謝の気持ちが分かります。

C: 「今の太一」という言葉から、それまでとは違ったということだから、気持ちの成長が分かると思います。

C: 私も「今の太一」というところで、太一の身近で亡くなるのは、これで2回目、初めのおとうの時は違ったけど、成長した今の太一は、自然な気持ちで手を合わせたと思います。 ...

### ・全体交流の後のグループ交流



全体交流後、どの児童も主題に迫ることができるよう、ねらいにせまる表現(海に帰りましたか、と言っている太一の心の中にはどんな気持ちがあったのか)を取り上げ、考えをグループ内で交流する場を設定した。教師はグループを回り、「悲しみが吹き上がってきたのに、自然な気持ちで両手を合わせることはなぜか」と補助発問をして、本時のまとめにつながる話し合いになるように方向付けをした。少人数ならではの言いやすさから、どの児童も自分の考えを話し、司会役が話し合いを進め、記録役は発言を聞き取りホワイトボードにまとめていった。ノートに学習のまとめを書く時には、このボードがヒントにもなり、全員が課題に対するまとめを書くことができた。

4 成果と課題

- ・一人読みノート・言葉をつないで構造図をかくという手立てにより、キーワードをとらえて言葉をつなぎ、自分の考えを持つことができた。
- ・全体交流・グループ交流を効果的に位置づけることで、根拠のある話し方で自分の考えを語る指導・援助を工夫する。





# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 泉小学校 清本 直子

(前号より)

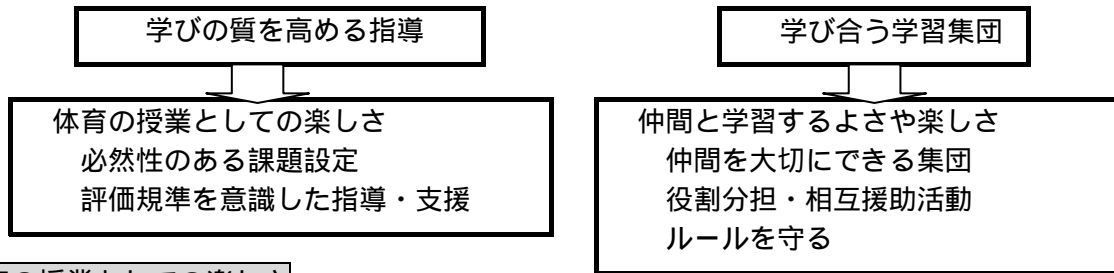
## 4. 実際の授業より 第6学年 体育 [ ボール運動 ]

単元名	ソフトバレーボール
本時の目標	<p>技能：ボールの方向へ体を向けて構え、素早くボールの落下点に入ってオーバーでパスをつなぐことができる。</p> <p>態度：お互いの姿についてアドバイスの声がかげ合える仲間になる。</p> <p>学び方：グループの課題をはっきりさせて練習やゲームに取り組むことができる。</p>

	ねらい	学 習 活 動	教師の指導・援助
つかむ	<p>全体のめあてを受けて、グループや個人で本時のめあてをもつことができる。</p>	<p>1. 準備・準備運動をする。</p> <p>2. 全体会で今日のめあてを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ボールの方向へ体を向けて構え、素早くボールの落下点に入って、オーバーでパスをつなぐことができる。お互いの姿についてアドバイスの声がかげ合える仲間になる。</p> </div> <p>3. グループの課題・練習方法についての確認をする。</p> <p>4. グループ練習をする。</p>	<p>・前時までの姿から、ボールをうまくつなぐためには、ボールの方向に体を向け、いつでも動けるように構えて待つようにすることに気づかせ、確認する。</p>
深める	<p>グループの課題に応じた練習を選択し、つまずきを克服しようと練習することができる。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>ボールの方をちゃんと向くよ!</p> <p>いつでも動けるように構えて!</p> </div> <p>5. 作戦会 (練習の様子からゲームの作戦を立てる)</p> <p>6. ゲームをする。</p> <div style="text-align: center;">  <p>来たよ! さ</p> </div>	<div style="text-align: center;">  <p>・グループ練習で、ボールの方向に体を向けられない児童には、練習を止め、特製ボールを用いてボールの位置に対する体の向きを確認する。</p> <p>・声がよく出ているグループを大いに認め、全員でムードを盛り上げようという意識を持たせる。</p> <p>・審判や記録は、ローテーションでコートの外にいる者を中心に、自分たちで行う。</p> </div>
まとめ	<p>グループの練習やゲームの様子から本時の成果と次時の課題を明らかにすることができる。</p>	<p>7. グループで今日の授業の振り返りをする。 L・P・O・Mを中心に課題やめあてについての振り返りをし、次時の課題やめあてにつなげる。</p> <p>8. 全体会でグループや個人の成果を交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日の成果と課題を意識して、次時からのリーグ戦での作戦を立てて優勝をめざそう。</p> </div> <p>9. 後片づけをする。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>・課題を意識して取り組んだグループ・集団として高まりが見られたグループを大いに認め、全体会で広めることで次時への意欲化を図る。</p> </div>

L: グループリーダー  
PO: 技能面のリーダー

## 5. 授業後の考察



### 体育の授業としての楽しさ

#### 必然性のある課題設定

- ・運動の習熟や上達へのみちすじを明確にする

個人のパスの技能やグループでパスをどうつなぐかについて、動きを的確につかむ力を育てることをねらった。そこで、うまくなるコツや練習方法を教師側から示したり、自分たちで練習しながらみつけたりした内容を掲示として残した。また、全体課題を、めざす姿と前時までの自分たちの姿から設定するようにしたことで、全員が無理なく課題をつかむことができた。

個人やグループ課題についても、全体課題に向かうために、自分たちの実態と比べながら決めることができた。

#### 評価規準を意識した指導・援助

- ・運動習熟や様相発展をねらった環境設定の工夫

バレーボールのパスの基礎を「ボールをよく見て、ボールの落下点へ素早く動くこと」と考え、パスをオーバーハンドパスに限定した。コートはバドミントンコートの大きさ、ボールはレクリエーションバレーボール、ネットの高さは2 m20 cmに設定して授業を行った。飛距離が短くなりがちなオーバーハンドパスのみのゲームを行うには、コートの大きさもネットの高さもよい設定であった。

また、棒の先にボールをつけた教具を作成し、個人や全体に指導したことで、ボールの落下点に動いたり、ボールの方向に体を向けたりすることをきちんと意識することができた。

### 仲間と学習するよさや楽しさ

#### 仲間を大切にできる集団

体育も生活グループで行うことを考慮して班編成を行った。普段から役割分担をし、互いに声をかけ合い、関わりながら生活できる姿を認め、広めてきた。本単元では、運動習熟や様相の発展のみちすじを明らかにし、予想されるつまずきや課題を掲示にした。そして、相互援助活動を位置づけ、活用するようにしたことで、互いの姿からつまずきを見つけ、アドバイスし合う姿が見られた。その姿を全体会の場で取り上げて全体に話をして広め、価値づけたことで、積極的に声をかけ合い、関わる姿が多く見られた。



### 成果と課題

運動習熟のみちすじを理解させ、願う姿と自分たちの実際の姿を比較してつまずきを明らかにすることで、必然性のある課題設定をすることができる。

めざす姿（評価規準）を具体的に持ち、どんな手立てを打つのかをきちんと持って単元構成・授業展開を考えることで「できた」「うまくなった」喜びや楽しさにつなげることができる。

相互援助活動を位置づけ、共に高め合うことに価値を見出させることで、積極的に仲間と関わることに楽しさを感じさせることができる。

さらに、返球率や円陣パスの回数などの科学的な視点で評価できる工夫をすることで、勝敗以外にも振り返りを行うことができる。

ものを作り出す喜びを感じながら、自ら課題意識をもって取り組める授業づくり  
～情報と栽培を融合し、生きる力と生命を尊ぶ題材の工夫を通して～

西陵中学校 田島 みどり

## 1 はじめに

3年生の『情報とコンピュータ』の学習においては「時間数が少ない中でも、より生徒が主体的になり、実体験を伴いながら課題意識をもって学習する」ことが必要である。また、命あるものを作り出すというすばらしさも、3年生に学ばせたいと考えた。そこで、栽培の学習で学んだことを情報の題材とすることを考え、上記のような研究テーマを設定して実践を行った。

## 2 研究の具体的方途

### ものづくりの喜びを感じられる題材の工夫

(年間指導計画の改善、題材の見直し)

### 学習環境の整備(栽培、情報)

### 実習における値打ちや喜びを実感させる指導の工夫

(ここでは と の実践について紹介する)

## 3 授業実践

### <栽培> 方途

西陵中学校には、畑がほとんどなかったため、まず畑を広げることから始めた。あらかじめ、作物が成長



するための条件や環境について学習し、その後、各学級1時間使って畑作りを行った。草だらけだった土地を手分けして耕し、石ころや雑草の根を丁寧に取り除くを通して、「自分たちの畑を作る」という意識が高まった。

同時に、プランターにも土を入れ、プランター栽培の準備も行った。

#### 植え付けた苗

- |         |                |
|---------|----------------|
| ・プチトマト  | 各班1苗(畑とプランターへ) |
| ・キュウリ   | 学級2苗(畑へ)       |
| ・トウモロコシ | 学級2苗(畑へ)       |

### <栽培> 方途

苗の植え付け後、毎時間畑まで足を運び、作物を観察する時間を位置付けた。花をつけ、実になる段階になると、休み時間にも自ら畑へ行き、観察する生徒も現れた。

植え付け後は、支柱立て、誘引、わき芽とり、

水やり、草取りという作業を行った。それぞれの作業の内容と、その作業が必要なわけを説明した上で、作業を行った。授業の時は毎時間水やりをしたが、3年生は週に1時間しか授業がないので、水やりの必要性を意識した生徒が昼休みなどを利用して、自ら水やりを行っていた。

授業で実がついたのを見て、早く赤くならないかなと思って昼休みに見に行った。ちょっと見に行かずいたら、あっという間に赤くなっていた。丁寧に手入れすればこうした瞬間に出会えるんだなと思った。(Y子)

畑仕事をしていると、とても平和を実感できました。そして、畑仕事の苦勞を知りました。これからは、さらに食事のありがたみを感じて生活したいです。(I男)

### <情報> 方途

栽培の記録を撮るために、学校備品のデジタルカメラを班ごとに使えるように整備し、授業のたびに成長の様子を撮影した。

### <情報> 方途

栽培の学習が終了した後、情報の学習に入った。生徒の意識も、収穫した時点で栽培から、情報の学習のPC操作に向いていた。そこで、インターネットを使っての調べ学習の時間を位置付けることにより、自分たちが栽培した野菜を農家の人がどのように栽培しているか、またどんな問題点があるかなどを確認することができた。

その後、パワーポイントを利用して自分たちの栽培記録を作成した。

生徒は、実際に体験したことをまとめることで、栽培をより身近に感じていた。写真も自分たちで撮影したものであったため、栽培記録の作成に対する意欲が非常に高く、最後までねばり強く取り組めた生徒がほとんどであった。

## 4 成果と今後の取り組み

- ・「栽培」という体験を伴った内容を「情報」の題材にすることで、生徒は、意欲的に授業に取り組むことができた。
- ・作物を育てることで、ものをつくることの喜びを感じさせることができた。今後は、感じた喜びなどを他学年の生徒やさらに地域へ広める工夫をしたい。

「応援します」 各界の方から

## 子どもの輝く笑顔の裏に

岐阜県先端科学技術体験センター

(サイエンスワールド)

課長補佐 長谷川 広和

サイエンスワールドでは、毎年夏休み前に科学自由研究に特化したイベント「科学自由研究フェスタ」を行っています。これが縁で、今年5月、アメリカインディアナポリスで行われた科学自由研究の国際大会 (Intel I S E F ) に同行する機会をいただきました。

### 1 国際大会のもつ意味

岐阜県は日本国内でも科学自由研究の盛んなところですが、科学自由研究に国際大会があることを全く知りませんでした。ですから、日本で行われている科学作品展の規模が大きいもの程度にしか思っていなかったのです。

しかし、実際、その大会を目の当たりにし、その場の空気を肌で感じてみると、その大会の壮大さと意味深さは、想像を遙かに超えるものでした。セラトピア4個分の大きさのホールに、世界から集まった1200もの科学自由研究がパネル形式で展示され、研究を行った学生(高校生)がそれぞれのブースで来場者に対して自分の研究作品を端的にプレゼンテーションする。それを、研究者(専門家)、一般ボランティア(市民)が審査するというものでした。

同時に、市内の中学校の科学自由研究作品展や、州内の大学や企業による先端科学技術の一般公開も行われていました。また、参加した高校生と5人のノーベル賞受賞者とのディスカッションやディスカバリーチャンネル(TV)出演者の体験談等の講演も盛り込まれ、この国際大会を通して、市民(地域)が科学に浸り、科学を存分に楽しむ機会となっていたのです。



来場者に研究をプレゼンテーションする日本代表の下山せいらさん

### 2 表彰式での一コマから

日本からは学生科学賞等を受賞した6名が代表として参加しました。日本代表の誰の名前も呼ばれないまま、表彰式は進んでいきましたが、最後の最後に日本代表下山せいらさんの名前が呼ばれました。周りの関係者と固い握手をして喜び合いながら、彼女が舞台に駆け上がる様子を見てると、胸に熱く込み上げてくるものがありました。

『彼女のこの笑顔は、

何が生み出したものだろう』

これまでの地道な研究。国際大会に向けて再度見つめ直し、不安のなかで精一杯主張し、何かを得たのでしょうか。いずれにせよ、舞台に上がるまでのいくつもの過程があったからこそ、生み出されたものはずです。そこでは、彼女自身の努力に脚光が当たりがちですが、それだけではありません。彼女の受賞を自分のことのように喜び日本代表の仲間や我が子の努力を陰で支え、応援し、お世話になった方々に頭を下げられるお母さん。研究を支えてくれた学校の先生や励ましてくれた友達。これだけの舞台を作った関係者の方々やそれを支援する企業、千人を超えるボランティアや共に科学を楽しんだインディアナポリスの人々など。このイベントに関わった多くの人々の願いや思いが集約されることで、素晴らしい時間と空間が創り出され、彼女の輝く笑顔が生み出されたのです。受賞した生徒だけでなく、関わった多くの人々が喜びを共有でき、自分の願いや思い、努力の過程を自覚できる機会(国際大会: Intel I S E F)に出会えた幸せを、今も感じています。

### 3 子どもの輝く笑顔のために

科学実験や科学工作を通して、多くの子どもの輝く眼や笑顔に出会います。その笑顔の裏側に、お父さんやお母さん、学校の先生方の笑顔や温かな眼差しをみると、とてもうれしくなります。これからも子どもの笑顔のために自然や科学の楽しさを追求しつつ、その笑顔を生み出すに至った多くの人々の努力や思いに感謝し、大切にしていきたいと思います。

「心にひびく言葉」

「この子はどんなことがあっても大丈夫です」

「我が家には非行や自殺はないんです」

肥田中学校 柳河瀬 久夫

これまでに、多くの子どもや親さんに接してきて、多くのことを学ばせてもらいました。その中から素敵なお母さんを2人紹介します。

クラスの子が、スーパーで万引きをしてしまいました。お母さんは、「しばらくこの子を休ませて下さい。私はもう一度、最初からこの子とやり直してみます」と言われました。何日かが過ぎ、再び2人で来校され、包みを差し出されました。包みの中には、雑巾が50枚あって、お母さんの手紙が添えてありました。『この子と毎日並んで雑巾を縫いました。もうこの子はどんなことがあっても大丈夫だと思います。この子がしたことをクラスの人たちに話して下さい』と。・・・

教師がどんなに逆立ちをしても、親の力にはかなわないとつくづく思いました。

障害のある子のお母さんが、お話をして下さいました。「私たちはとても幸せです。この世の中にある非行や自殺とは全く関わり合いがない。そういう家庭をもつことができ、それはなぜかと言うと、この子のまわりに育つ兄弟は、親の命は早く果ててしまうから、いつか自分たちがこの子の面倒をみることになる。この子を支えることになる。そういう存在になるんだ。その覚悟ができています。我が家には非行や自殺はないんです」

誰かのために役立つということ、誰かのために自分の命が存在するということを知った時、非行に走る暇もないし、死ぬ暇もないということだと思えます。

そして、私たちは、そのお母さんの何分の一も努力をしていない気がしました。

## 掲 示 板

### 岐阜県読書感想文コンクール

優秀賞	小学校高学年の部(自由読書)	駄知小	6年	塚本 怜子
入 選	小学校中学年の部(自由読書)	妻木小	4年	岡崎 菜奈
入 選	" (課題読書)	泉西小	3年	小木曾 溪人
佳 作	中学校の部 (自由読書)	西陵中	3年	水野 智香

おめでとう  
ございます

### 東教推 (研究実践交流会) 教材・教具の部

物語文教材 全学年作品構想図  
くりあがりのあるたしざん用補助教具(?)  
川の流れ実験器  
的当て  
走り幅跳び・ハードル技能ポイント指導用掲示  
たべものれっしゃ  
土岐市パズル  
マジレンジャー2号(比例導入)  
「大人になれなかった弟たちに」での実践資料  
ビー玉2次関数グラフ表示装置  
竹取物語 暗唱アシスト紙芝居  
合同な三角形  
2年生 扇の的 群読ビデオ教材  
“磁界の中で電流が流れる導線にはたらく力”  
を学ぶ導入用演示大型簡易モーター  
過電流実験装置  
絵表示 カルタ

### 出品ありがとうございました

国 語	土岐津小	土岐津小学校
算 数	妻木小	神戸 史子
理 科	駄知小	後藤 淳
体 育	泉 小	清本 直子
体 育	泉 小	江角 佳子
食 育	泉 小	若林 道代
社 会	泉西小	糸見 真
数 学	土岐津中	洞田 大輔
国 語	西陵中	伊勢 和彦
数 学	濃南中	渡邊 宏彦
国 語	駄知中	田島 幸司
数 学	肥田中	小久保 拓哉
国 語	泉 中	河合 広映
理 科	泉 中	小林 義治
技・家	泉 中	加藤 明覚
技・家	泉 中	鹿沼 慶子

本年もお世話になりました。よいお年をお迎えください。

教育研究所一同



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.416  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成19年1月31日  
題 字 白石 聰 教育長

撮影 下石小学校  
松本 俊則 教頭先生



「地域の教育力を生かす」  
琴を聴く会

『自然に学ぶ』

## 馬酔木(アセビ)

土岐市教育研究所長 楓 正敏

今年は、2月3日が節分です。春を迎えるにあたって邪気や災難を払い、新しい年の福善を願う行事として古くから豆まきなどが行われています。教育界においても厳しかった冬を乗り越えていよいよ明るい話題の多い年となるように願わずにはられません。

我が家では、節分の日になると鰯の頭を木の枝に刺し、玄関など人が出入りするところに取り付けます。そして、夜になって豆まきを行い、その豆を年の数だけ食べて一年の無病息災を……という一般的な方法で行っています。ところが、これはだいぶ後でわかったことなのですが、私の住んでいる地域では大きく違っていました。それは鰯の頭を刺すのに、ヒイラギではなくアセビ(別名:アセボ)の枝を使っていたことです。地域によって様々な風習や伝統が違っていてもおもしろいのですが、アセビを使っているという話は聞いたことがありません。

アセビはツツジ科の常緑低木で、早春から釣り鐘型の花を房状につけます。漢字で書くと『馬酔木』と表し、葉や茎に呼吸中枢を麻痺させる有毒物質を持っています。馬などが食べるとあたかも酔ったようにふらつき、昏睡状態に陥るとさえ言われています。ヒイラギは鋭いトゲによって邪気を払う木とされていることや、鬼がトゲで目を突かれて退散したという伝説があるように、馬酔木にも鬼が敬遠する意味があると考えられます。

学校の安全・安心が危惧されるようになって、様々な対応策がとられてきました。今年度、教育委員会として市内の全ての小学校に防犯カメラの設置を行ったのもその一つです。学校に邪気が入ってこないようにそれぞれの学校でも対策を工夫することが求められています。





## 1 はじめに

本校は、18年度・19年度の2年間、東濃地区教育推進協議会の指定を受け、上記のテーマを掲げ「一人一人の思いや考えをとらえる確かな児童理解・日常生活における認め合いを中心にした仲間との関わりの組織化・仲間のよさや伸びを認め合える学習活動の工夫をすれば、所属感を高め、仲間関係を育む学級経営ができるであろう」という仮説のもと実践を進めている。

## 2 研究内容

<研究内容1>よりよい仲間関係を創造する集団活動の工夫

- (1) 日常の「よさみつけ」の活動の「計画 - 実践 - 評価」の視点からの工夫
- (2) 組織的な係活動等を通して互いに助け合うことができる指導・援助の工夫
- (3) 児童の発達段階を踏まえた学級活動の工夫

<研究内容2>仲間とよさを認め合い成就感を味わう授業の工夫

- (1) 仲間と共に高まり合う追究場面の工夫
- (2) よさや伸びをお互いに認め合い、成就感をより高める評価の在り方の工夫

<研究内容3>よりよい仲間関係を育む学級づくりを見通した指導の工夫

- ・学級づくり構想図の作成と活用

## 3 授業実践

### 第2学年 学級活動

議題「係活動交流会に発表する内容を決めよう」

<研究内容1>(3)について

#### 発達段階に応じた議題の設定

児童にとって必然性がある、自分の考えを持って会に臨める議題を設定する必要がある。

2学期を後一ヶ月残した時期には、係活動の停滞・工夫の未熟さがある。2学期をやりきったという充実感をもって締めくくらせたいと願い、一つの手立てとして「学級づくり構想図」に意図的に関わり合いのもてる「学年係活動交流会」を位置付けた。実際に係活動について事前調査を行ったところ予想通りの実態であった。そのため、交流会に向けた議題を設定し、自分の係について振り返るだけで



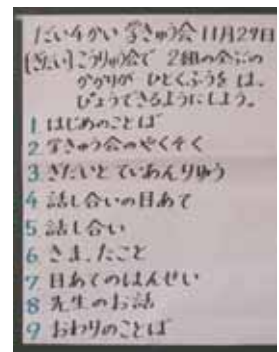
なく他の係についても事前に感想や要望を書かせ、意見が言えるようにした。

そのことにより、全体の場でほとんど声を発することのできない児童も発表することができた。

#### 発達段階に応じた話し合いの持ち方

話し合いの進め方についてはまだまだ未熟な段階であるため、次のことを大切に学級活動を行ってきた。

- ・事前に議題を知らせ、自分の考えを持って話し合いに臨ませる。
- ・お互いの話が聞きやすいように、コの字形の隊形で話し合う。
- ・司会者、副司会者(時間・発表者が偏らないように配慮等)をおき、「学級活動の進め方」に従って進め、指名を中心にさせる。
- ・教師が板書を行い、話し合いの価値付け・方向付けをし、ねらいに向かわせる。
- ・学級活動で決めたことは、学級みんなで守っていく。
- ・「学級活動の約束」を提示し、会のはじめに確認する。話し合いの目当てを設定し、最後に評価もする。



## 4 成果と課題

「学級づくり構想図」を基に中長期的なスパンの中で授業を仕組むことができた。

教師の支援のもとでの「学級活動の進め方」「学級活動の約束」の活用をしたことで、話し合いの約束を守って、司会者をはじめ仲間の考えをしっかりと聞き、仲間のよさ(がんばりや思いやりなど)を認め合う姿が見られた。

発表の中で、「～係の～さんは、～しているので工夫だと思います」など個人名をあげて発言できているものがいくつもあり、日常行っている「よさみつけ」の活動が生かされていた。

1単位時間の態度面について、指導と評価の一体化を図る声かけや手立てを明確にする必要がある。同時に、1単位時間の事前事後の指導を明確にする必要がある。

学級活動において、よりよい人間関係づくりに大切な意見を価値付け、ねらいに向けて方向付けるための教師の指導・援助のあり方を工夫していく必要がある。

## 学び合いの中で基礎・基本を身につける生徒の育成 ～「協同学習」を取り入れた授業を通して～

土岐津中学校 西 雅昭

### 1 生徒の実態

生徒たちは、明るく前向きであり、男女で協力して活動できる。明確な目標があると、それに向かって活発に活動する姿が見られる。

社会科の授業においては、新聞記事を活用しながら現代日本の政治の動きを捉えることを行ってきたため、資料を読み取る力の差はあるものの、ほとんどの生徒は資料を読み、そこから自分の考えを述べようとする姿が見られる。

しかし、課題に対して追究した内容を交流する際に、仲間と関わって話したり、仲間に広げたりする話し方が定着していないため、一方的な発表で終始してしまっている。そこで、課題を解決するためのいくつかの資料を提示した後に、自分が追究する資料を班内で一つ決め、その資料から考えるように指導してきた。その結果、一つの資料から事実を読み取る力は徐々に増えてきた。

ここでは、課題に対する自分の考えをつくる時間を十分に与え、(自分の考えを持つこと)=(個人追究の達成)と考えた。そして、「協同」では、それぞれの立場で話をさせ、仲間の意見と自分の考えをつなげて発表できるようにしていきたい。

### 2 研究内容

#### 必然性のある「協同」の工夫

**ア 生徒の実態と「つきたい力」を踏まえた、学ぶ楽しさ(魅力)のある課題の設定や提示の工夫**

**イ 基礎・基本を定着させる学習活動と教科の特性を生かした「協同学習」の工夫**

### 3 授業実践

3年『現代の民主政治と社会』  
「裁判の種類と人権」

**ア 生徒の実態と「つきたい力」を踏まえた、学ぶ楽しさ(魅力)のある課題の設定や提示の工夫について**

本時では、オウム裁判の事例から、凶悪犯罪の被告人に弁護人がついていないという生徒の考えには矛盾する事実を投げかけ、「なぜ裁判所は松本被告に弁護人をつけたのだろう」という課題を提示した。さらに、その弁護人をつけ

るために、巨額の国のお金が使われていることが分かる資料を提示することにより、生徒はより一層課題意識を高めた。

**イ 基礎・基本を定着させる学習活動と教科の特性を生かした「協同学習」の工夫について**

本時のねらい「裁判では、いかなる被告人の人権をも大切にしていることが分かる」に迫るため、授業の中に「協同」を取り入れた。必然性のある「協同」を成立させるためには、課題に対して自分の考えを持つことが大切である。本時では、オウム裁判に目をとめさせ、「なぜ裁判所は松本被告に弁護人をつけたのだろう」と課題を意識させた。その上で、「弁護人の役割を示す資料」と「裁判官が被告人を諭す資料」の2つの違う観点を持った資料を与えると、生徒はそれらをもとに課題解決のための足場となる考えを持った。

「協同」は、自分の追究の方向と考えを確実にし、自分の考えに自信を持ち意見交流するという学習形態である。この場では、2つの資料のうち、どちらの観点が欠けても課題の本質に迫ることができないため、そこに「協同」の必然性が生まれると考え、より話し合いが深まることをめざした。それぞれの資料から読み取ったことを交流する中で、2つの資料の共通点や相違点に着目させて「弁護人も裁判官も被告人の人権を大切にしている」というねらいに迫ることができた。

### 4 成果と課題

個人追究の時間を確保し、一人一人が自分の考えを持つことで、積極的に全体交流に向かうことができた。

協同で深まらなかった部分は、全体交流の場で深めることができた。

最後に「河野さんの手記」(松本サリン被害者)を読み上げたことで、次時への意欲づけができた。

十分に課題追究されるよう、協同学習を行う際に「弁護人をつけた理由を探ろう」など、言葉がけをすることで、課題を意識させる必要があった。

# 「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会 肥田中学校 小久保 拓哉

## 1. はじめに



数学科の学習指導要領の目標には、次のように示されている。

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現の処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

とされ、『数学的活動の楽しさ』が加えられた。これは、

実生活における様々な事象との関連を考慮しつつ、主体的に問題を解決する活動を通して、『学ぶことの楽しさや充実感を味わいながら学習を進めていくこと』を重視したからである。この『学ぶことの楽しさ』は、市の教育課題にほかならない。

数学的活動から得られる『学ぶことの楽しさ』とは、具体的な操作や実験を試みて数学的内容を帰納したり類推したりして、数学を創造し発展させていく中にみられる工夫や驚き、感動を味わうことであると考えられる。

## 2. 研究構想

### <研究主題> 観察，操作や実験を通して，自ら学び自ら考える生徒の育成

数学的な見方や考え方を高めるために、『より簡単にできないか』『なぜそういえるのか』『いつでもいえるのか』にこだわって授業を行っている。そのため常に、『これまで学習したことの中のどんな考え方や決まりを使えばいいのか』という視点に立ち戻ることを心がけるように指導してきている。今回、数学という教科の本質に迫るために、『学びの質を高める指導』『学びあう学習集団』の2つに重点を置き、研究を進めることとした。

#### 学びの質を高める指導

必然性のある課題設定

必然性のある課題設定をするためには、授業の導入素材との出会いが重要となる。この素材を通して、「これまでの何を使えば解決できそうなのか」「なぜそういえるのか」「いつでもいえるのか」などという問題意識をもたせなければならない。この問題意識こそが本時の課題とねらいに直結する。

評価規準を意識した指導・援助

単元全体のねらいを達成させるために、『この単位時間では、単元のねらいの中のどの力をつけさせなければならないか』を明確にすることが大切である。これが評価規準である。そして一人一人がこの規準に到達することができるように、既習事項のどんなきまりを使うのかを確認したり、個の理解度に応じた言葉がけをしたりするなどの指導・援助が必要である。

#### 学び合う学習集団

互いに鍛え合う集団

授業終末の評価問題で、自らの力で問題を解くことができるようにするために、課題追究の時間に必ず班内交流を位置付けている。班員全員が『なぜか』を納得できるまで教え合うことにこだわり続けるよう指導している。

### 3. 授業実践の構想

#### (単元名：『相似と比』全17時間)

3年『相似と比』の実践を通して主題にせまることとした。ここでは、図形の相似とその意味を知り、具体的な操作を基にして類推的に推論することで相似な図形に存在する様々な性質や相似であるための条件を見出す。また、演繹的に推論することでそれらの一般化を図る。さらに、相似の考えを活用して平行線と線分の比についての性質を見出したり計量したりすることができるようにする。



この演繹的に推論するときの根拠となる事柄『対頂角の性質』、『平行線の性質』,などは2年生で学習したが、これらを忘れてしまっている生徒がいると考えられる。本単元では、これらの事柄を黒板に掲示しておく。このことにより、『これまで学習したことの中のどんな考え方や決まりを使えばいいのか』という視点に立ち戻ることができ、主題にせまることができると考えた。

#### 数学的な推論

- 『帰納』：1つの事実をもとに、一般的にもいえるだろうと推測する考え方
- 『類推』：複数の事実に通ずる事柄をもとに、一般的にいえるだろうと推測する考え方
- 『演繹』：すでに正しいと認められた事柄をもとに、いつでもいえることを導く考え方

#### 『相似と比』単元構想図

##### 教科の本質を身につけた生徒

- 『帰納的な推論』『類推的な推論』をすると図形の性質や関係を見つけ出すことができる。
- 『演繹的な推論』をすると見つけた性質や関係がいつでもいえることが分かる。

##### 学びの質を高める指導

- 必然性のある課題設定
- 数学的な操作や実験から、図形の中の性質や関係を見つけ出すことができるような素材を用いる。
- 既習の図形の性質や定理などの板書への位置付けを行なう。
- 評価規準を意識した指導・援助
- 単元全体のねらいのどの力を本時につけさせるのかを明確にする。
- 個の理解度に応じた言葉がけなどの指導・援助を行なう。

##### 第2次 図形と比

- 平行線と線分の比についての性質を見出す。
- 平行線と線分の比についての性質を相似な図形の性質を用いて確かめる。
- 相似の考えを活用する。

##### 第1次：相似な図形

- 図形の相似とその意味が分かる。
- 三角形の相似条件とその意味が分かる。
- 三角形の相似条件を用いて図形の性質を論理的に確かめる。

##### 学び合う学習集団

- 互いに鍛え合う集団  
＜班内交流の位置付け＞
- 授業終末に設定されている評価問題を自らの力で解くために、「なぜか」「どのように考えればよいか」を班員全員が納得するまで教え合うことができるように、班への指導を継続して行なう。
- 評価問題で誤答した仲間、「過程のどの部分で間違えたのか」を見つけ合うことができるような指導を行なう。

##### 生徒の実態（事前アンケートから）

前学年における図形の合同の証明が面白いと感じている生徒が多い。合同条件などを覚えたり、合同な図形を見出したりすることに抵抗感を持っている生徒がいる。

## 平成18年度 学力調査より

### 1 はじめに

今年度は、小学校5年生及び中学校2年生を対象にして学力調査を行いました。学力対策委員会では、調査の結果を分析し、対策を考えるとともに、今までの指導の在り方を振り返る機会としたいと考えています。詳しくは年度末に発行する「あすの子どもを育てるために」に掲載しますが、今回は、その概要をお知らせします。

### 2 分析と対策

#### (1) 小学校の分析と対策

##### 〔国語〕

全体的な傾向

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の4領域の中で、「言語事項」はやや全国平均を上回り、それ以外の3領域では、ほぼ全国平均と同じである。また、全領域とも女子がよく、男女の正答率の差が8.5ポイントのところもある。

対策

- ・話の組み立て方を意識して、表現活動を行う。
- ・話し合い活動を増やすとともに、話の中心に気をつけて聞く力を身につけさせる。
- ・相手を意識し、目的をもって書く力を育てる。

##### 〔社会〕

全体的な傾向

総合的に比べると、全国平均を1.9ポイント下回っている。また、各領域別に見てみると、「健康な生活と安全な暮らし」と「地域の開発と人々の生活」の正答率は、平成16年度より0.8ポイント下回っており、「県の様子と人々の暮らし」の正答率は、3.4ポイント上回っている。

対策

- ・学習指導要領にもあるように、警察署や消防署などの諸機関が、相互に連絡を取り合いながら緊急に対処する体制をとっていることを理解させる必要がある。

- ・地図資料を読み取る力を育てるために、読み取りの指導を日常的かつ継続的に行う。また地域学習に限らず、歴史学習でも内容に応じて地図資料を意図的に扱う。

##### 〔算数〕

全体的な傾向

領域ごとに見てみると、「数と計算」と「数量関係」では、全国平均を上回っている。しかし、「量と測定」では5ポイント、「図形」では、3.2ポイント、全国平均を下回っている。また、平成16年度と比べると、いずれの領域も正答率を下回っている。

対策

- ・大きな数は、位取り表を用いて読んだり書いたりする活動を繰り返し行い、大きな数に慣れさせて理解を深めていく。
- ・3けた÷2けたの計算問題の正答率が低いのは、商の立て方が十分理解されていないことにあると考える。そのため、商の見当のつけ方や商が立つ位置について再度おさえ、繰り返し練習させる。

##### 〔理科〕

全体的な傾向

「生物とその環境」「物質とエネルギー」「地球と宇宙」の3領域の中で、「地球と宇宙」の領域の正答率が低い。また、「てんとう虫やコオロギの冬越し」「月の動き方」など、実験や観察が難しい内容に関する問題の正答率も低くなっている。

対策

- ・身の周りの自然と触れ合う機会も減少し、体験が少なくなっているため、モデル教材の活用など、子どもたちが視覚を通して理解できるよう教具の開発をしていく必要がある。



## (2) 中学校の分析と対策

### 〔国語〕

#### 全体的な傾向

全領域において、H16年より確実に学力が向上している。しかし、「読むこと」のみ、全国平均より下回っている。男女を比べてみると、全体的に女子の平均点が男子の平均点を上回っている。また、無答率が高かった領域は、「読むこと」「言語事項」である。

#### 対策

- ・「読むこと」では、想像力を豊かにするために読書に親しむ習慣をつけ、想像したことを言葉で表現する力を身につける学習を意図的に位置づける必要がある。
- ・「言語事項」では、とにかく手で何度も書いて覚えさせることが必要である。また、漢字の読み書きは、その漢字を使った一文作りをしながら、意味を的確に理解させる必要がある。

### 〔社会〕

#### 全体的な傾向

「世界と日本の地域構成」「身近な地域」「封建の世の中」の3領域については、指導の成果が見られ、結果に表れている。「原始から古代」領域については、全国平均は上回ってはいるものの、前回調査より正答率が下がっている。また、男女間の格差が広がっている。細部について分析すると、どの領域も地理的条件が加わると正答率が低くなる傾向がある。

#### 対策

- ・地図や資料の読み取り、活用能力に弱さが見られる。知識・理解とともに思考力・判断力を身につけるよう繰り返し学習し、力を定着させる必要がある。

### 〔数学〕

#### 全体的な傾向

「数と式」「図形」「数量関係」のどの領域も指導の成果が上がっている。H16年度の本市の正答率と比べても成果が見られる。特に「数と式」の領域では、正答率が60%と高い反面、「図形」の領域が50%を切っていることが気にかかる。

#### 対策

- ・平面に描かれた図形のイメージをもつことができるように、実物を提示し、イメージを具体化することで理解しやすいように支援する。
- ・公式を毎時間反復し、演習、図形ごとの側面積、体積を暗記させ、自分でどの公式を利用するとよいのか考える足場を作る。

### 〔理科〕

#### 全体的な傾向

「物理」「化学」「生物」「地学」のどの領域も指導の成果が上がっている。ただし、計算を含む問題に弱く、用語を暗記しているだけであるために問題の意味を理解した上で解く力が弱い。

#### 対策

- ・公式の理解を図るときに、単位の意味を押さえることと、速さ・時間・距離や圧力・面積・力の大きさが同じパターンで考えられることを押さえ、繰り返し類似問題に取り組み、習熟を図る必要がある。
- ・用語が示す意味について、実物や図などで正しく理解した上で問題に取り組むことと、何について問われているのか問題を読み取る力をつけることができるよう取り組む必要がある。

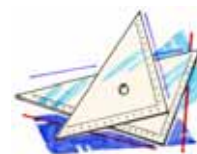
### 〔英語〕

#### 全体的な傾向

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」どの領域も指導の成果が現れている。特に「書くこと」については、全国平均を上回っているが、語句を書く問題については、引き続き無答率が非常に高くなっている。

#### 対策

- ・慣用語句の文章を一つのまとまりとしてとらえ、書くことを大切にしたい。文章中の一部として話したり、書いたりする活動を通して、人称代名詞の格変化、動詞の変化など、語形の変化そのものはもちろん、文中での使い方を理解させたい。



## 「命」「生」の意味するもの

肥田幼稚園 梶田 絹代

昨年暮れ、日本漢字能力検定協会が発表したところによると、過去最多の応募の中から「今年の漢字」に「命」が選ばれました。以下「悠」「生」と続き、世相を象徴する文字ばかりでした。いじめ自殺や、虐待、飲酒運転事故などが相次ぐ中、昨年ほど、命の重みや大切さを感じさせられた年はなかったと思えるから当然の順位かと思えます。どこかの元社長さんが「お金で買えないものはない」と嘯いていましたが、「命は地球より重い」と言った人のことばを思い出し、暮からお正月にかけ新たな気持ちで、「命」や「生」について考えました。

毎年、乳幼児教育に携わっている者として「かけがえのないたくさんの命を預かっている」と、心の引き締まる思いがします。親御さんには「可愛い」「あなたは私たちの大事な子」というメッセージを

いろいろな形で伝えてほしいと機会ある毎にお願いしています。また、「卒園はひとつの節目ではあるが、子どもから目を離すな。手は離しても目を離すな。目は離しても心を離すな」ということを卒園式の式辞に盛り込むようにしています。

親はいつまでたっても子どもにとって親であることに変わりはありません。親になるのは簡単ですが「親であること」は難しいです。『14歳の母』の主役を演じた志田未来さんは「子どもの気持ちに気づいてあげられるのは親だと思います。親は子どもの支えになってほしい」と、子どもの立場から述べています。

私たちも教師である前に悩める親や子どもたちを支えられる人間でありたいと思います。

### 掲 示 板

#### 購入図書の紹介

こんな誤解をしていませんか？  
学校と家庭を結ぶ不登校対応  
教育法規便覧  
どうする？  
小学校英語必修化  
子どもが楽しむ英語活動  
アクティビティ・歌・授業プラン

学校変革実践シリーズ 全8巻  
TIMSS2003 理科教育の国際比較  
いじめっ子への処方箋  
道徳 は教えられるのか？  
学力を伸ばす指導法 子どもをどう育てるか  
知的授業力アップ提言集 全5巻

教育研究所では、以下の月刊誌を購入しております。  
初等教育資料、中等教育資料、授業研究21、教職研修

教育研究所内にある書籍類  
教科書、教育関係の辞典類、市指定研究発表会の資料、かなり古い教育関係の書籍  
授業改善や評価に関する本、カウンセリングに関係する本、教師の自己啓発に関係する本、...

\*全て貸し出しをしておりますので、お気軽に教育研究所へおこしください。



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.417  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成19年2月28日  
題 目 白石 聰 教育長

撮影・加工 曾木小学校  
小木曾 欣巳 先生



全校児童  
44人の顔

『自然に学ぶ』

## ハングリー精神

土岐市教育研究所長 楓 正敏

ゴルフ場などの芝生をうまく育てるには、毎日水をやってはいけません。十分に乾燥させて、もうすぐ枯れそうだという頃を見計らって水を与えるのがよいとされています。実際にじめじめしたところでは根はあまり発達しません。植物は水を必要とするはずなのになぜでしょうか？答は芝生のハングリー精神です。水をもらえない芝生は水が欲しくてたまらなくなり、地中の水分を求めて一生懸命に根を伸ばしていきます。水不足という植物にとって困難な状況が、植物のハングリー精神に火をつけるのです。2月～3月頃は乾燥した日が続きます。この時期に育つ植物は根を地中にびっしりと張り巡らせます。

最近、米作りにもこうした植物の性質が利用されるようになってきました。昔の稲作は収穫高をあげようと水田には常に水が満たされ

ていました。そのほうが常に養分を吸収して多くの穂をつけるだろうと思われていたからです。近頃は田植えを終えてから穂が出るまでに何度も水田の水を抜き、土の表面にひび割れが出来るまで乾かします。そのたびに稲は水不足と察知して水分を求めて沢山の根を伸ばしていきます。その結果、田の広い場所から養分を吸収することが出来るようになり、しかも足腰の強い稲になります。

私達教師は授業の中で、子ども達にこのハングリー精神を持たせることを大切にしていきたいと考えています。子ども達にとって困った状況を作り出し、解決に向かって「知りたい」「やってみたい」「出きるようになりたい」という気持ちをより強く喚起させることこそ授業改善の最も大事な要素だと考えています。





1 はじめに

本校では、今年度より上記のテーマを掲げ、「学び方を鍛え、個のわかり方（願い）に応じる指導方法を工夫していくことで学習集団を高めていけば、自ら学び自ら考える力が育つ」という仮説のもと、研究を進めている。

2 研究内容

- (1) 自ら学び自ら考える力を育てる学び方の明確化
- (2) 自ら学び自ら考える力を育てる指導方法の工夫

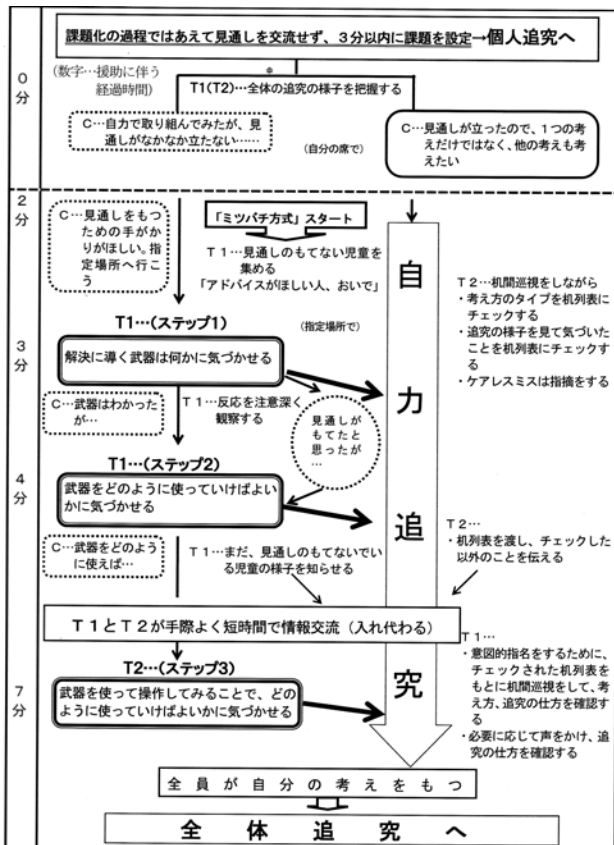
3 授業実践より(4年生 算数科「角の大きさ」(第4時より))

「ミツバチ方式」による個のわかり方に応じる指導・援助の工夫 <研究内容(2)>

ア「ミツバチ方式」による個人追究

「ミツバチ方式」とは、個々の追究力に応じる指導・援助をいかにきめ細く、効率よく行うかを意図した指導方法であり、『見通しをもてない児童が自ら手がかりを求めて集まってくる場を保障する。そして、児童が自分の力で課題解決の見通しがもてるような援助<少数指導を取り入れ、役割を明確にした3段階(3ステップ)の指導・援助>を受け、考えがひらめいた時点で自席に戻って自力で課題に立ち向かっていく』という方式である。

イ「ミツバチ方式」の全体構想(T1・T2の役割)



ウ「角の大きさ」の3ステップの授業記録より

課題 **180°より大きい角度の求め方を考えよう。**

<授業記録より>

T1: アドバイスがほしい人は廊下へ来て。

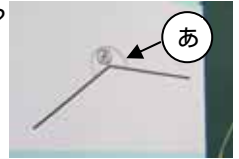
C: (11人が廊下に出る)

(ステップ1) 第1段階の指導・援助として、『**解決に導く武器は何か**』に気づかせる

T1: たしかに今までの角度とはちょっとちがうよね。何度までなら求められるの?

C: 180°

T1: その角度をつくるための**武器**ってなかった?



C: 補助線。**あっ! わかった。**(5人自席に戻る)

T1: それを使うと(あ)の角度はどうなるの?



C: あっ、そうか!(4人戻る)

(ステップ2) まだ、2つの角に分けられるとみてとれない児童に対して、『**武器をどのように使えばよいか**』に気づかせる

T1: 角度はどうなっている?

C: .....

T1: 補助線を引くといくつに分かれるの?

C: 2つ。

T1: できそう?

Y: うーん。

I: なんとなく...

T1: どこに引けばいいかわかる?

Y: (うなずく)

T1: 引いてみよう。

Y: (ここで初めて補助線をY児が引く)

T1: 180°がどこにあるか見える? やれそう?

I: **わかった!** (ステップ2で残っていた2人も戻る)



4 「ミツバチ方式」の考察

児童のわかり方は多種多様である。私が行った「ミツバチ方式」による指導・援助は、課題解決に至るための見通しをもつためには何を考えていけばよいかを児童に気づかせ、思考の仕方を鍛えていくものである。この方式は、誰もがもっている「自力でやりたい」という願いに応え、個々の課題解決への道筋に無理なく、そして、効果的に働く指導・援助として機能したと考える。

1 はじめに

本校では、18年度から市の教育課題研究推進校の指定を受け、上記の研究主題で研究を進めている。

生徒が課題解決の見通しを持ち、「生き生きと取り組む」学習活動を展開すれば、「確かな学力」を身につけることができ、それが「学ぶ楽しさのある授業」づくりになると考えた。

2 生徒の実態

- ・活動内容がわかっているにもかかわらず取り組むことができる。
- ・自分から課題を追求することが苦手である。
- ・物事を関連させて考える力が弱い。
- ・仲間の中で自分の考えを積極的に発言していく力が弱い。

すなわち、学習活動の中で、活動の目的や手順がはっきりしているときには高い集中力を発揮し、意欲的に活動に参加できるが、自ら課題を持ち、生徒同士で教え合ったり話し合ったりして集団での高め合いに弱さがあるとらえている。

3 願う生徒の姿

- ・学習の仕方を身につけ、課題解決に向けて積極的に活動できる。
- ・意欲をもって、より価値のあるものを目指すことができる。
- ・お互いが相手のよさを認め、高め合って学習することができる。

4 研究内容

「生き生きと取り組む」学習の明確化

- ・各教科に共通した「生き生きした姿」の明確化と共通理解

「生き生きと取り組む」ための授業づくり

- ・生徒の学習状況調査を活用した指導の工夫
- ・課題解決の見通しを持たせる工夫
- ・生徒の活動の場を設定した学習展開の工夫
- ・自己評価や相互評価を生かした授業づくり

5 授業実践

実践例：課題解決の見通しを持たせる工夫

～個の読み取りの足場をつくる一人読みノートの活用から～（3年 国語科）

国語科の「読むこと」の指導においては、第1学年で「主題を考えたり要旨をとらえたりすること」、第2学年・3学年で「自分の意見を持つこと」と学習指導要領に記されている。そこで、作品を読み取る際に自分の意見を持つ足場づくりのために、本文を読んで感じたことや自分の思いをメモする「一人読みノート」を取り入れている。

一人読みノートの活用にあたっては、あらかじめ次のようなことを生徒に指導した。

本文中に引く傍線の種類を変えることで、感じたことを整理していく。

- ・読み取ったことの足場となる部分（直線）
- ・対比した表現がみられる部分（矢印）
- ・疑問に思ったことがある部分（波線）

本文中の行間に、読んだときの自分の思いや語句の意味などを書き込む。

読み取ったことを、本文中の記述を根拠にして下の段にまとめる。

この一人読みノートを活用して、それぞれの場

面に追求の場を設定し、その時間を充分にとった。右の例のように、本文中に読み取りの中で気付いたことをどんどん書き込むことで、考えが深まり、課題に対する自分の考えを詳しく書くことができた。

このことよって、文学作品に対する生徒の読み取り

りがより確かなものとなり、共感的に本文を読むだけでなく、自分の意見を持ちながら読み進めることができた。また、一人読みノートでの読み取りをもとに、自分の考えを仲間と比較しながら話し合い、積極的に学ぶ姿が見られた。

6 今後の取り組み

生徒が生き生きと取り組むことにより、確かな学力が身につくととらえている。そう考えたとき、「生き生きと取り組む姿」は、単なる勢いや活力だけではなく、確かな学力に直結し、教師の指導計画の中で、確かな学力獲得に向けた明確なねらいのもとに意図的に位置づけられなければならない。

したがって、この確かな学力をつけるために、生き生きと取り組む場面を意図的につくり(Plan)、授業実践し(Do)、力(確かな学力)が具体的に身についたか評価し(Check)、さらに、不十分であったり課題として残った部分の改善策を具体化していく(Action)、というPDCAサイクルで更に研究を深めていきたい。



# 「学ぶ楽しさのある授業」


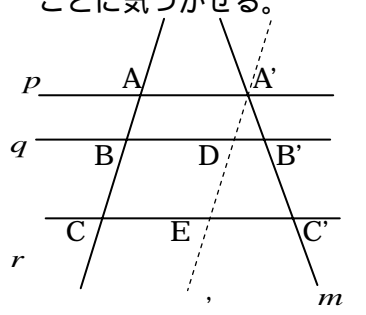
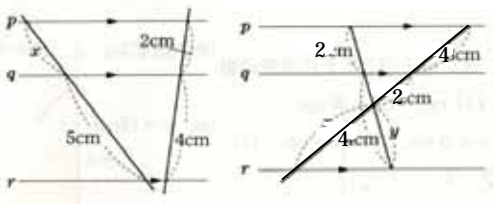

嘱託研修員会 肥田中学校 小久保 拓哉

(前号より)

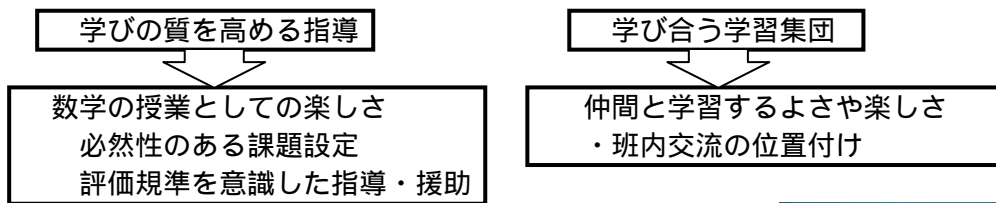
## 4. 実際の授業より 第3学年数学 [図形領域]

単元名	相似と比
本時のねらい	3つ以上の平行線に交わっている直線を動かす活動を通して、平行線によって直線が一定の比に分けられていることに気づき、それを利用して線分の長さを求めることができる。



過程	過程のねらい	学習活動	教師の指導・援助
つかむ	ゴムの結び目である点Bが常に直線q上を動くことから、AB:BCの比が常に一定であることに気づくことができる。	<p>1. 3本の平行線に交わっている直線を動かす操作を行ない『変わるもの』と『変わらないもの』を見つけ出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ABとBCの長さがそれぞれ変わった。</li> <li>qと交わるのはいつも点Bの結び目だ。</li> <li>ABはゴム1本分でBCは2本分でその比は変わらない。</li> <li>どうしてAB:BCの比はいつも一定なのだろう。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>ピンで固定してある点Aと点Cを動かすとqと交わるのはいつも点Bの結び目になることから、AB:BCの比が一定であることに気づかせる。</li> </ul>
繰り返す	三角形と比の定理を利用して、平行線によって分けられている直線がいつでも一定の比に分けられることが説明できる。	<p>課題：AB:BC=A'B':B'C'がいつでもいえることを説明しよう</p> <p>2. 三角形と比の定理を利用して証明する。</p> <p>点A'を通りに平行な直線を'としq,rとの交点をD,Eとする。</p> <p>A'EC'において三角形と比の定理より、  <math>A'D:DE=A'B':B'C'</math>...</p> <p>四角形ABDA'は平行四辺形なので、  <math>AB=A'D</math>... 同様に四角形BCEDにおいて  <math>BC=DE</math>...</p> <p>, を に代入して  <math>AB:BC=A'B':B'C'</math></p>	 <p>評価規準                      平行線と線分の比の定理を使って評価問題を解くことができる。【表現・処理】                      規準達成への手だて                      平行線によって分けられている線分の中から、等しい比となる線分を見つけ出すよう助言する。</p>
まとめる	まとめを利用して、評価問題を解くことができる。	<p>まとめる～平行線と線分の比の定理～                      3つ以上の平行線に1つの直線がどのように交わってもその直線は平行線によって一定の比に分けられる。</p> <p>3. 評価問題に取り組む。</p> 	

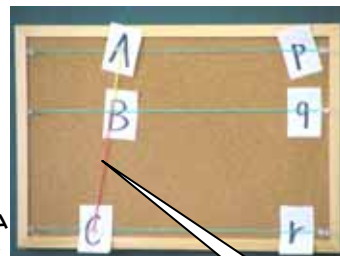
## 5. 授業後の考察



### 数学の授業としての楽しさ

#### 必然性のある課題設定

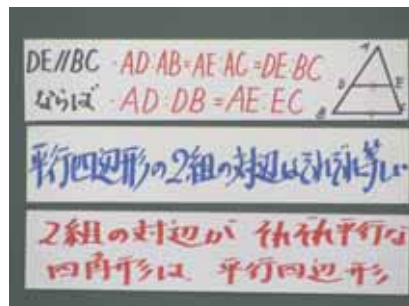
導入として、コルクボードに3本の平行線  $p, q, r$  とそれらに交わっている直線 を位置付けた素材を用意した。直線 には輪ゴムを用い、点  $A, C$  をピン止めた。点  $A$  と  $C$  をそれぞれ直線  $q, r$  上で自由に動かす活動をし、『変わるもの』と『変わらないもの』を見つけさせた。



$AB$  や  $BC$  の長さが変わっていくのに対し、点  $A$  と点  $C$  をどのように動かしても直線 は常にゴムの結び目で直線  $q$  と交わることを見つけ出すことができた。そして、直線 が常にゴムの結び目で直線  $q$  と交わる理由を問いかけることで、 $AB : BC$  の比が常に一定であることを見つけ出し、課題へとつなげることができた。

#### 評価規準を意識した指導・援助

課題追究で、平行線と比の定理を導くことができるように、本時に使用する既習の定理や図形の性質（右の写真）を板書に位置付けたり、証明の見通しが立たない生徒に穴埋め式の証明プリントを渡したりすることにより、平行線と線分の比の定理を導かせることができた。



評価問題では、定理を利用して線分の長さを求めることができているかを、机間指導をしながら評価し、助言を行った。等しい比を見つけれない生徒に対して図を指し示しながら「平行線によってどの線分の比が等しくなっているの?」と問いかけることで、等しい比を見つげ出し、線分の長さを求めさせることができた。

### 仲間と学習するよさや楽しさ

#### ・班内交流の位置づけ

どの生徒にとっても『評価問題が自分の力でできる』ことが数学に対する自信になると考えている。

そこで、班内交流では『答えを聞かない・教えない』ことにこだわらせ、課題追究時にも『ここまではできたけど、この先が分からないからヒントちょうだい』などと、班内で自主的に相談する姿が見られた。また、評価問題で誤答した仲間に対し、仲間のノートや黒板の拡大図を用いて、過程のどの部分で間違えているのかを指摘し合うことができた。



#### < 成果と課題 >

魅力があり課題とねらいに直結する素材が、生徒の学習意欲を引き出すことにつながり、数学を学ぶ楽しさへとつなげることができる。

毎時間『評価問題を自分の力で解くこと』を目標とすると、生徒に「自力で解けるようになりたい」という願いを持たせることができる。このことにより、「分かるまで何度も聞く」という姿勢が生まれ、班内交流を活性化させることができる。

教材がもっている魅力を最大限に引き出すことができるよう、素材の研究に努める

「私の教育実践」

## 2年目・3年目を終えて

教育実践論文で、新人賞をとられた先生から原稿をいただきましたので紹介します。

### 社会科の実践を通して学んだこと

泉小学校 星野 友多(2年目)

刻々と変化していく社会の中で、社会的義務や責任を果たしていくには、「自ら学び、自ら考える」力を社会科で身に付ける必要があります。しかし、昨年度5年生を担当した私の実践を振り返ると、教師が一方向的に設定する課題に児童が取り組むという形が多く、「意欲的に学び、自分の考えを生み出す」という私の目標には程遠いものでした。そこで、本年度は「必然性のある課題設定」と「授業ごとの連続性」の2点にこだわり実践を進めました。



まず、「必然性のある課題設定」については、子どもの常識や経験と、社会的事象のズレを比較することが重要です。そして、そこから「あれ?」「なんで?」という意識を持たせ、「調べよう!」と方向付けることが、必然性のある課題化につながります。リサイクルについての授業では、ごみを1t処理するために1万円かかるという前の授業で積み上げた知識(経験)をもとに、リサイクルのためには1tあたり15万円かかるという事実を提示しました。すると、児童は「え!」「高いやん!」という反応をし、そこから「なぜ?」という課題意識を持たせることができました。

次に、「授業ごとの連続性」についてです。最初に自分たちの生活を振り返り、その生活に関わるものや違いを追っていくという単元構成にしました。一つのストーリーのようになり、「つかむ」「調べる」「考える」と、授業ごとのねらいを明確にしました。すると、子どもの意識も「次はどこなの?」と、意欲を保つことにもつながりました。例えば、水やごみの「来る道」「行く道」を追跡した単元や、土岐市の風景や家屋の様子と、水屋や合掌造りを比較していった単元がそれです。

最後に、泉小学校に赴任してから2年が過ぎようとしています。この2年間には、満足できる授業などほんの一握りしかありません。しかし、そういった未熟な自分でさえも、応えてくれる児童や、大切なことを教えてくださる学年や学校の先生方に恵まれました。今後は感謝の気持ちを忘れず、これまでの実践の課題として、「個人の予想を学級の見通しにまで高める」や「考えを深める場」ということに取り組み、さらに教師として成長していきたいと思っています。

### 1年生に確かな力をつけ、「わかる・できる」喜びが味わえる国語科の指導

下石小学校 都竹 美穂(2年目)

今年度の4月、義務教育9年間のスタートである1年生を担当することになりました。1年生の学習に意欲的に取り組もうとする姿勢を生かし、それをいかに維持し、一人一人に確かな力を付けていくのが私の今年度の課題でした。

国語の表面的な面白さや珍しさで児童を引き付けることだけにとどまらず、1年生なりに少しでも「読むこと」を通して、「主体的に言葉にこだわり、自分の考えをもつ」ということを身に付けることができるようにすることが確かな力につながると考え、学習指導・学習活動の工夫、単元指導計画の工夫について実践してきました。その結果、次のような成果がありました。

一人読みの方法や話型のステップを明らかにし、それらを活用する場を意図的に仕組み、どの児童にもできるように段階的に指導することで、自分の考えをもつことができるようになってきました。

全ての教材を通して自己評価を行わせたことで、自己評価に単に「がつけばよい」というのではなく、自分の学習をよりよいものにするための評価であることが、1年生なりにわかってきました。

今年度の実践を通して、単なる「楽しかった」という授業から、「わかった・できるようになった」授業へ、つまり児童一人一人への基礎・基本の確実な定着を図るためには、教師のより充実した指導が大切であると改めて痛感しました。『たぬきの糸車』の単元では、劇で表現することを単元の出口とし、全校集会で発表しました。400人を超える観客の中、児童全員が本当に楽しそうに劇を発表することができました。これは、国語の授業で自分たちの作ったセリフが劇の中で生かされることに喜びを感じ、児童自身が学習のまとめとして意識して劇に取り組んだ結果であると確信しました。

今後も「学習がわかる・できる」喜びにつながる授業を目指していきたいと思っています。

## 体育科の実践を通して学んだこと

泉小学校 江角 佳子(3年目)

体育科の目標にある運動に親しむ資質や能力は、ある程度の運動能力を身につけ、できる喜びや仲間と運動する楽しさを経験することを積み重ねることで身につくと考え「体育科における運動の楽しさや喜びを味わう授業の創造」を研究主題にして実践を行ってきました。

授業では、運動の特性に合った課題を設定し、その課題を達成するための練習方法を工夫したり、仲間との関わり合いを大切にしながら授業を工夫したりしてきました。「リレー」では、自分たちのタイムを上回ることを目標に「トップスピードでバトンパスをする」ことに課題を絞って練習を行いました。子どもたちの運動能力はそれぞれ違いますが、バトンパスに注目することで足の速さに関係なく声をかけあいながら練習することができました。また、鬼ごっこのような遊びから練習に入ったことで楽しく授業を行うことができました。トップスピードでバトンパスをするコツを確認し練習を紹介するたびに、子どもたちは「この練習をすればタイムが上がるはずだ!」と生き生きとした表情で練習に取り組んでいました。最後の授業では一番速いタイムを出し、「バトンパスがうまくなった」と満足そうな顔をし、振り返りのカードには「またリレーをやりたい」「学年で競争したい」「次は5分をきりたい」などの感想を書いていました。これが運動の楽しさや喜びを味わった姿だと思いうれしくなりました。

本校に勤務して3年が過ぎようとしています。授業を見せていただいたり、アドバイスをいただいたりたくさん先生方のお世話になりました。また、子どもたちの発言や反応から学ぶことがたくさんありました。先生方や子どもたちに助けられながら多くのことを学ぶことができ、大変充実した3年間だったと思います。これからも子どもたちが運動の楽しさや喜びを味わい、生き生きと体を動かす授業を目指して実践を積んでいきたいと思っています。



## 学級経営の実践を通して学んだこと

泉小学校 棚橋 彰子(2年目)

本校の研究主題「所属感を高め、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の在り方」について、自分のクラスに焦点を当て考えてみることにしました。昨年、2年生を担任して学んだことは、学級は子どもたちで動かすことが大切だということでした。そして、中核となる活動は係活動だということ学びました。

今年度は1年生を担任することになり、学校の入門期にある1年生が学級に居心地のよさを感じ、自主的、実践的な態度を身に付けるようにするには何が大切かを考えた時、係活動に重点を置いて実践することが大切だと思いました。

1年生の係活動では、グループで取り組む係の仕事ではなく、1人1つの係を受け持たせ、やる気や毎日の姿を認めることによって、学級への所属意識が高まり、人のために働いているという成就感と、自分の存在価値を実感できるのではないかと考えました。そして、1ヶ月に一度、自分の係について「良い点」「悪い点」「改善点」を話し合う時間を設けました。また、日々の見届けができるように、短冊を用いて振り返りを行いました。

係の活動を始めてから、休み時間に教室を掃除したり、図書の子が図書館祭りの時に本を読むよう呼びかけたりと、自分が他にできる仕事はないかを考える姿が見られるようになりました。係の仕事を続けていくことで子どもたちは、簡単に終わってしまう係の活動よりも、何度も仕事ができる黒板消しや、配達係を希望するようになりました。毎日の係の仕事をとても熱心に行うことで、自分から進んで友だちの手伝いをしたり、友だちの頑張っているところに目を向け認めたりするようになりました。生活アンケートの「クラスのためになっていると思うか」の質問に対し、「はい」と答えた30人中29人が「係活動をしているから」を理由として挙げていました。

この実践を通して、学級を運営するのはやはり子どもたち自身であることと、自分の居場所があるとのびのび生活できることを学びました。しかし、多くの子が係の仕事を忘れずにしようとする意識が高まった反面、指摘をされてから行う子の姿がなくなりました。そのような子どもに対し、どう働きかけをしていけばよいか、課題となりました。来年度も、係活動を大切に、今年度の実践を生かしていきたいと思っています。



## 前へ！ 一歩 前へ！

肥田小学校 伊藤 敏明

ウィンタースポーツといえば、駅伝、マラソン、サッカーなどがTVや新聞報道の花形ようですが、私が一番好きなスポーツ(観戦)は「ラグビー」です。

山のような大男たちが、どんな悪天候の中でも、体と体を激しくぶつけ合い、まさに男のスポーツとを感じるからです。

ところで、15年ほど前、ある大学チームは大学選手権で何度も連覇しました。日本選手権でも社会人の覇者と互角の勝負を続けていました。その時の監督は、70歳をとうに超えていましたが、最期の病床まで学生たちにこう言い続けてきたそうです。

『前へ！ 一歩 前へ！』

この大学チームは、左右へボールを回す展開ラグ

ビーではなく、とにかく前へ前へと突進するラグビーで、タックルされても直ぐ後ろの選手が味方の背中を踏みつけてでも突進し続け、最後は、スクラムで相手を押しのけ、前へ、ひたすら前へ進み、敵のゴールラインを割りトライを重ね続けていました。

学生たちは『前へ！ 一歩 前へ！』の教えを忠実に守り、何年間もの間、大学日本一の座を守り続けていたのでしょう。

しかし今は、老監督も亡くなってかなり経ちます。今年も成績があまり振るわなかったようです。

教育改革の嵐が吹き荒れている昨今、惑わされることなく、子どもたちのために、

『前へ！ 一歩 前へ！』

### 掲 示 板

土岐市教育実践論文 教育実践論文表彰式(2/8)で以下のように受賞されました。

#### 《優秀賞》

瀧瀬貴美子(土岐津小)漢字書字に困難を示すLD傾向のある児童への指導のあり方 ~WISC の解釈に基づいた、教材・教具を通して~  
高島亜緒生(下石小)生きる力を育む音楽教育についての一考察 ~基礎・基本の確かな定着と主体的な学びを促す指導及び音楽種別のあり方~  
若尾 和生(泉 中)運動の楽しさと上達の喜びを感じ、主体的に運動に親しむことができる授業の在り方~バレーボール学習における指導過程の改善~  
小栗 祥吾(泉 中)鑑賞活動を通して鑑賞の能力を高め、表現活動における一人一人の発想や構想の能力を高める指導の工夫

#### 《優良賞》

小森 光荣(下石小)読書する児童を育てるために ~図書館主任としての取り組み~  
小栗 志乃(鶴里小)表現と鑑賞の一体化を図り、楽曲のよさに気づきながら主体的に聴く子をめざして~繰り返し聴き味わって表現する『越天楽昔風』~  
土本 晴美(泉西小)子どもが生きる授業 ~「話すこと・聞くこと」の力を育てる指導を通して~  
上野 寿也(西陵中)問題を多く抱える生徒達と共に歩む学年経営 ~問題行動というピンチをチャンスに変えていく2年間の歩み~  
水野智恵子(駄知中)一人一人を大切にできる健康相談 ~「来室行動」を健康科学として捉え「ステージ」模索方法による関わり方の究明~  
仙石 守一(泉 中)自分自身や仲間を大切にできる生徒と学年集団の育成~二学期制に合わせた中学校1年生の学年経営~

#### 《新人賞》

都竹 美穂(下石小)1年生に確かな力をつけ、「わかる・できる」喜びが味わえる国語科の指導  
江角 佳子(泉 小)体育科における運動の楽しさや喜びを味わう授業の創造  
星野 友多(泉 小)意欲的に課題解決に取り組み自分の考えを生み出せる社会科学習 ~必然性のある学習課題を通して~  
棚橋 彰子(泉 小)子どもたちが自分達の力で活動を創りあげ、自治の力を育てる学級経営  
市川 実(肥田中)保健体育科における体力向上を図る授業の工夫

#### 《管理運営部門賞》

山田 利彦(泉中)・厚見 正紀(泉小)・佐々木 博(泉西小)小中の連携をめざした学校経営

#### 《特別賞》

川本 春代 相談員(西陵中)不登校から学校へ・教室への一歩を目指して ~生徒に寄り添い、受け止め・支える~  
( ...東教推優良賞、新人賞 ...東教推入選)



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内281)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.418  
発行責任者 所長 楓 正敏  
発行日 平成19年3月26日  
題 目 白石 聰 教育長

撮影

駄知中学校

中根 共生 先生



新たな夢に向かって“巣立つ”  
卒業生の見送り(駄知中学校)

『自然に学ぶ』

## 学ぶ姿勢

土岐市教育研究所長 楓 正敏

春になると、土岐市の風物詩となっている『陶器祭り』が市内の各地で開催されます。私は、陶器そのものへの興味と同時に陶芸家と直接話ができることも楽しみにしています。陶芸家のこだわりや工夫、苦労話などには実に興味深いものが多いです。

陶芸家である高校時代からの友人に聞いた話です。彼は、たたら作りといって粘土を板状にしてから作るという作風をもっています。板状の粘土を組み合わせたりひも状にした粘土をつけたりするのですが、毎日同じようにやってもその日の天候や自分の手の温度によって同じようにはできないそうです。また、納期に間に合わせるために作品を速く乾燥させようとして戸外に出すと、日が当たる側は速く乾いてしまってひずみが生じたりひどいときには切れといってひび割れが起こったりすることもあるそうです。では、ゆっくり乾かせばよいかというとそうでもないというので

す。気温が低いとなかなか乾かず、作品を動かすたびにへたってくるそうです。焼成にも基本はあるようですが、窯に詰める作品の密度やその日の気象状況によって同じようには焼き上がらないとのこと。それでは作陶する日やいつ火を止めるのかをどうやって決めているのかと聞いてみると、彼は「最後は、勘だけや」と答えてくれました。

何年も修行をし、完璧なまでの技を身につけていても自然には歯が立たないというか、自然に合わせてどう自分が振る舞うかを考えなくてはならないのです。基本はあるけれど、子どもの姿に合わせて加減をしたり、最後の決断は過去の経験を想起してここぞというタイミングを計ったりする学級経営や授業にもつながるものがあります。大切なのは『〇〇に学ぶ』姿勢です。





## 仲間とかかわり合って学ぶ子の育成

～自分の考えや思いを伝え合う指導を通して～ 肥田小学校 加藤 紀子

## 1 はじめに

本校では、今年度より上記のテーマを掲げ、『話す・聞く』の基本的指導に重点をおき、話す内容と場の設定の工夫を行えば、『自分の考えや思いを伝え合う力』が育ち、仲間とかかわって学ぶことができる」という仮説のもと、研究を進めている。

## 2 研究内容

研究内容 国語科での「話す・聞く」の基礎・基本が定着するための系統的な指導

(1) 各学年における目指す子どもの姿の明確化  
話す・聞く・話し合うために大切なことを学年、ブロックごとに系統表の作成

口形練習の実施

(2) 単元ごとの国語の基礎・基本を明確にした  
評価規準の作成と活用

机列表を活用した個々の「学び」の把握

個々のつまずきを事前に予想した机間指導の工夫

研究内容 「話す・聞く」を位置づけた指導過程・学習過程の工夫

(1) 「話す・聞く」場面を位置づけた指導計画の作成及び学習過程の工夫

一人一人の考え方や疑問が仲間いきちんと伝えることができる場の設定

(2) 小集団を生かした学習活動の工夫

自分の考えを仲間に伝える力の育成

小グループでの意見の交流の場の設定

(3) 子どもの意欲を高める具体物の活用

## 3 授業実践

1年生 国語科 本とともにだちになろう

『ずうっと、ずっと、大すきだよ』

本実践では、<研究内容>について紹介する。

(1) 「話す・聞く」場面を位置づけた指導計画の作成及び学習過程の工夫

一人一人の考え方や疑問が仲間いきちんと伝えることができる場の設定

『くじらぐも』の学習までは、ワークシートやノートに登場人物になったつもりで吹き出しを書き、発表するという授業をしていたが、本単元の

学習から、自分の考えを書くのではなく、隣のペアの子と自分が本文や挿絵から見つけたことについて意見を交流する場を設定し、授業を進めた。意見交流の時間は2分間とした。

はじめは、この2分間を効果的に使えず、黙ったままのペアもいたが、次第に2分間では足りないペアが出てきた。また、お互いに自分の意見を言い合うだけのペアがほとんどだったが、中にはペアに伝えようとしていた自分の考えを言うことなく、ペアの子が言った意見を聞いて、賛成したり「えっ、違うんじゃないの。ここは…」と反論したりするペアも出てきた。

## (2) 小集団を生かした学習活動の工夫

小グループでの意見の交流の場の設定

ペアで意見交流をする場を設定したため、全体の場では、なかなか意見の言えない児童も気楽に話ができるようになった。「なんで、エルフは階段も上れなくなったの？」という自分では分からないことをペアの子に聞いて、そのペアの子が「それは、多分エルフが年をとって上れなくなったからじゃない？」と答える。そういったやりとりがあり、全体の場では聞けないことも素直に口にすることができた。

全体交流の場では、そのままペアで話したことを言う児童もいるが、「さんは、ここで～と言ったけれど、私は・・・と思いました」と相手と違っている意見を言う児童も出てきた。「その違いについて、みんなはどう思う？」と全体に広めた話し合いができたこともあった。教師が事前に話し合わせたいと考えていたところが児童から自然に出されるようになってきた。

## 4 成果と課題

・ペアの子とかかわり合うことで、自分の意見が持てたり、より自分の意見をより深めたりするきっかけとなった児童が多くいた。

・今後は小集団での意見交流の場を授業のどこに設定するとより効果的かを考え、授業展開を工夫していきたい。

今年度のまとめ ～各校の研究推進の成果～

学校所員は、これまで各校の校内研究を推進する立場で取り組んできました。各所員の実践については、前号までの「教育とき」で紹介してきました。ここでは、本年度の各校で取り組んだ研究の成果について紹介します。特に、「学ぶ楽しさのある授業」を生み出すための手だてなどを中心に取り上げました。

<p>土岐津小学校</p>	<p>学年に応じてめざす姿を具体化し、国語科を核とし、一丸となって全教育活動に取り組んできたことにより、学ぶことの楽しさを体感しながら生き生きと学習に取り組んだり、価値や質に目を向け、こだわりをもって意見をぶつけ合ったりする姿がみられるようになってきた。</p> <p>作品の核心に触れるキーワードやサブワードを見極め、作品構想図にまとめることを通して、単元の終末での子どもの姿とそれに至る道筋が明確になり、見通しをもち自信をもって授業に臨めるようになった。このことにより、キーワードを核に叙述にこだわって読み深めた発言が増え、焦点的な話し合い活動ができるようになってきた。</p> <p>実践を通して、めざす姿に向かうための指導・援助が明らかになり、適切な指導・援助で子どもたちに迫ることにより、自ら読みを明らかにしたり、仲間と共に読み深めたり、自らの学びを振り返ったりしながら、物語の楽しさを読み味わうことができるようになってきた。</p>
<p>下石小学校</p>	<p>適切な読みの視点を与えたことや一人読みの時間を確保したことにより、どの児童も本文に線を引き、考えたことを書き込み、話し合いに臨むことができた。</p> <p>1単位時間の流れの中で、全体交流後にグループ交流を位置づけたことで、全員が自分の考えを楽に話せる場を確保することができた。</p>
<p>妻木小学校</p>	<p>作品構想図や言葉に着目した単元指導計画を作成することで、教材に対する分析が深くなり、単元で子どもに付けたい力や読み取らせたい内容が明らかにできることがわかった。</p> <p>読みを深めるために、ねらいのある音読、動作化、置き換えなどの方法が有効である。</p> <p>単元の学習計画をたてることや、単元のワークシート集作成は、場面ごとのつながりや児童自身が学習成果を確認する上で有効である。</p>
<p>鶴里小学校</p>	<p>手がかりを求めて集まってきた児童へ「ミツバチ方式」(『教育とき 417』参照)の指導・援助を行うことにより、個のわかり方に応じる指導・援助が可能となり、一人一人の追究力に応じた主体的な活動を生み出すことができた。</p> <p>個のわかり方(予想されるつまずき、わかり方のスタイル)に応じた具体的な個々への言葉がけや、練り合いのある授業を行うための切り返しやゆさぶりなど授業を組織するための具体的な指導・援助を工夫することができた。</p>
<p>曾木小学校</p>	<p>「話す」「聞く」ことに重点を置いた指導を心がけたことで、全校スピーチなどの場で、子どもの話す力の高まりが感じられた。</p> <p>机列表を工夫し、一人一人の実態をより具体的に明らかにすることができ、個に応じた教師の指導・援助の在り方の一端が明らかになってきた。</p>
<p>駄知小学校</p>	<p>必然性のある課題によって、児童は目的意識をもって学習に取り組むことができるようになった。(国語科の五つの言語意識を明確にすること)</p> <p>授業の流れを(導入 展開 [個人追求] まとめ [交流])として実践を重ねたことで、児童は課題意識をもって意欲的に学習に取り組むことができるようになった。</p>
<p>肥田小学校</p>	<p>話し合いの場面で予想される意見を事前に考え、教師による発問・切り返しを用意したことで、考えをより深められる話し合いができるようになった。</p> <p>多くの児童が、小集団で話したことをもとにしながら、全体の場でうまく自分の考えを表現できた。</p>
<p>泉小学校</p>	<p>よさみつけの視点の具体化・共有化をし、教室内に掲示をすることにより、仲間の努力や成長に目を向け、よさの価値に気づくことができる子が増えた。</p> <p>振り返りカードを用いたり、仲間のよさに気づいた児童を価値づけたりしたことで、仲間のよさに目を向け、認め合う姿が多く見られるようになった。</p> <p>発達段階に合わせた司会者グループへの指導や話し合いの指導、議題の工夫をすることで、考えを持ち仲間の意見に耳を傾けながら話し合う姿が見られるようになってきた。</p>

泉西小学校	<p>原稿をつくらない時も堂々と話ができるように、そして、自分からだけ一方的に話をしていた子が相手の話に応じて話ができるようにしたいと考えて、「話すこと・聞くこと」の指導計画の見直しや単元や単位時間の授業構想を工夫した。1年生の子が「はじめに、つぎに、それから、さいごに」の順序を表すつなぎ言葉を学習したことで、その他の場でも文と文をつないで話ができるようになってきた。…5・6年生の子が聞き手の反応を見ながら話しかけようとする姿が見られるようになってきた。</p>
土岐津中学校	<p>個人の責任・役割を明確にし、必然性のある「協同」を設定することで、意欲的に生徒同士がかかわりあい、個人の考えを深めたり技能を高めたりすることにつながった。英語科の授業では、学習展開における生徒の意識に沿うよう、ペア 班 全体と、相手を変えることが、生徒が意欲的に活動することにつながった。つきたい力を明確にし、課題解決につながる「協同学習」を意図的に位置づけたことが、生徒の課題追究に対する意欲を高めることにつながった。</p>
西陵中学校	<p>体育科からは学習形態の工夫として、全6チームを2チームずつの兄弟チームとし、練習ゲームでは兄弟ゲームの試合をコート外から観察し、技能面・集団面について客観的にアドバイスする新しいグループ学習の仕方が提案された。美術科では、「生徒一人一人が作業できる」「作業しやすい」「成果が実感できる」教材教具を活用することが、学び方を身に付けさせるのに有効であることがわかった。英語科の全校研究会からは、伝え合うことができるようにするためには、「質問する力」を育成していくことが大切であることが明らかになった。</p>
濃南中学校	<p>実態調査や前時までの学習内容の定着度の評価結果をもとに個人カルテを作成し、それを活用した指導・援助を行うことにより、見通しを持って取り組んだり、実験結果をもとにして考察したりするなど、生き生きと取り組む姿が見られた。一人読みノートを始めとするワークシートなどを活用することで、生徒が見通しを持って進んで学習に取り組むようになった。理科では、「班交流の手引き」を活用することにより、交流の進め方が分かり、考えの交流がスムーズに行えるようになった。</p>
駄知中学校	<p>課題に対する反応を予測し、これに応じた個別指導の手だてを持つことにより、生徒が足場を持って課題追求できるようになってきた。かかわり合いの場を意図的に設定したことにより、仲間の考え方や活動のよさから、より深く多面的に考えること、より確かな技能を身につけることができるようになってきた。</p>
肥田中学校	<p>単位時間の評価規準を一つに絞り、生徒にも「本時、何がわかればいいのか」「何ができるようになればいいのか」を具体的に話し内容を伝えたことにより、授業後に「今日の内容はよく分かった」「今日は楽しかった」と、笑顔で語る生徒が増えた。(理科) ゲームの記録を取るなど、常に数値化することで、単位時間での出来・不出来を、事実をもとに互いに分析・評価し合う相互評価が活発にできた。(保健体育科) …</p>
泉中学校	<p>単元と単位時間に付きたい力、評価規準を明らかにした単元構想図を作ることにより、評価規準達成のための手立てを具体的に用意して指導することができ、生徒の学習意欲を高めることにつながった。 生徒による自己評価や相互評価を学習に取り入れ、その評価を各教科で大切にすることで、自分の学習状況を確認することができ、次への活動につなげることができた。 単元で付きたい力を達成するために、生徒の感想やまとめを生かしたり、規準達成のための手立てを多く持ち、生徒の実態に合うよう追究資料の精選をしたり資料提示の工夫などをしたりしてきた。これらの工夫により、ただ漠然と調べ学習や基本練習をしている姿から、思考したり認識を深めようとしたりする姿が増えてきた。</p>

紙面の都合で、成果の一部を紹介しました。

詳しくは、『研究紀要 252 平成18年度 学習指導の改善』をご参照ください。

過日、ある研修に出かけさせていただきました。その中で「危機管理」についての研修がありましたので、研修を還元するという意味で少し紹介させていただきます。

研修の中に、「女子生徒が誘拐、殺害された。緊急記者会見を行う。(概略)」という演習(模擬記者会見)がありました。5人の教頭で、校長・教頭等の役割を分担して、誰が何をどの様に報告するか、記者の質問を予測し、どの様に回答するかなど2時間という時間制限の中であれこれ準備をしました。本番では、「校長！責任は学校にあるのかないのか、はっきりしろ！」指導したということは殺害された女子生徒に問題があったということか！」など記者役の他の教頭グループは、本当に意地悪な質問をしてきました。模擬記者会見は

20分足らずで終わったのですが、冷や汗をタップリかかさせてもらいました。

演習後、講師の先生からたくさんの指導を受けましたが、その中で特に心に残った言葉を紹介します。

風通しのよい職員室づくりに心がけよ

問題や異常を気楽に報告できる職員室でなければならない。仕事を中断してでも報告者の言葉に心を傾けよ。

普段の仕事が危機管理

大きな事故や事件は、多くの小さな異常が重なったときに発生する。その内の1つを防ぐためには普段の仕事を丁寧に進めることだ。

たくさん紹介したいのですが、日頃の自分を大いに反省する二つの言葉でした。

## 掲 示 板

「卒園・卒業 おめでとうございます」

- \* 幼稚園卒園児 376名
- \* 小学校卒業生 614名
- \* 中学校卒業生 588名

東教推教育実践研究奨励賞

【教材・教具の部】 入選 おめでとうございます

- 泉小学校 清本 直子(体育)...的あて
- 西陵中学校 伊勢 和彦(国語)...「大人になれなかった弟たちに」での実践資料
- 濃南中学校 渡邊 宏彦(数学)...ビー玉 2次関数グラフ表示装置
- 泉中学校 小林 義治(理科)...事象提示用モーター

教育文化賞 おめでとうございます

2月27日、土岐市文化プラザ・ルナホールにおいて、土岐市内の教育・文化の向上やスポーツ・音楽などの分野で優秀な成績を収めた人に送られる教育文化賞の授賞式が行われました。

- |       |    |       |        |
|-------|----|-------|--------|
| 教育功労賞 | 1名 | 文化賞   | 8名と1団体 |
| 優秀学校賞 | 1校 | 学習賞   | 8名     |
| 教育実践賞 | 1名 | スポーツ賞 | 24名    |
| 善行賞   | 1名 |       |        |

「教育とき」のご愛読、ありがとうございました

デジタル版「教育とき」のメール配信を行っております。(市内の学校勤務職員以外の方で)PDFファイルでの配信を希望される方は、教育研究所(kyoiku@city.toki.lg.jp)へメールでお申し込みください。

